

M

大学院神学研究科
博士課程前期課程

2026 年度
履修の手引
学科目概要 (シラバス)



学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

本課程では、強いリーダーシップを持った伝道者に欠かせない「主体的に神学する」能力を十分に身に付けること、その上で、伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応する能力を養うこと、教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が一層確立することが求められます。

そのために、本課程に2年（4学期）以上にわたって在学して、所定の単位（原則として44単位）を優れた成績（全科目の成績評価点平均（GPA）及び専攻科目のGPAがいずれも2.0以上）で修得し、修士論文についても合格を認められた学生は、上記の能力を身に付けたと見做され、修士（神学）の学位が授与されます。

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

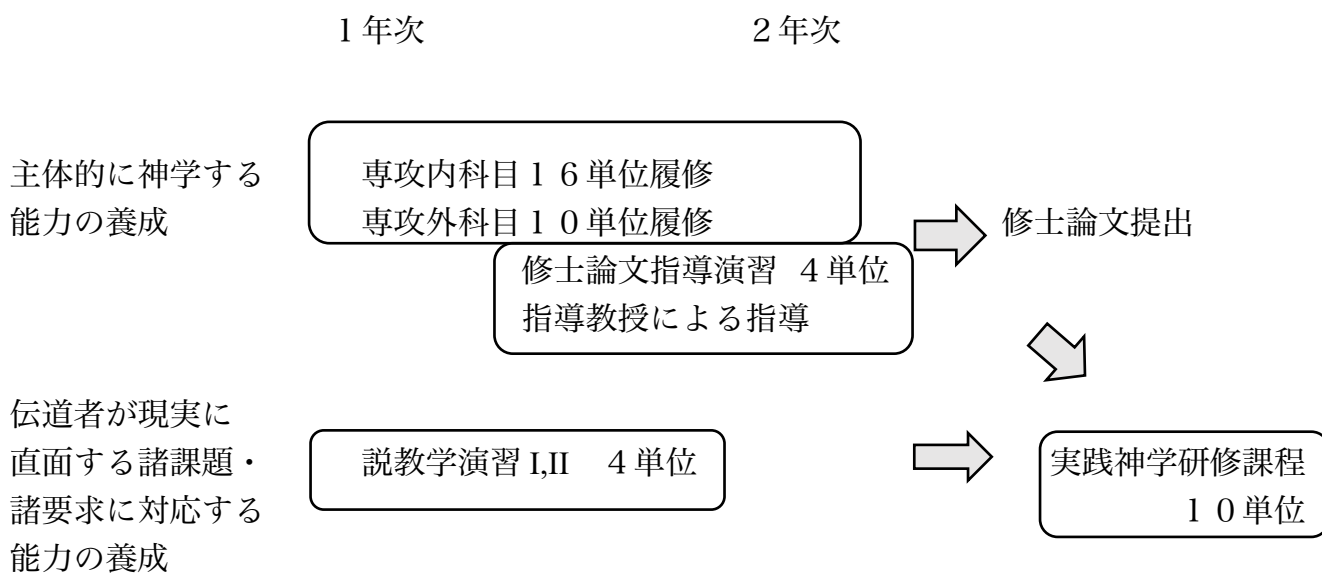
本課程においては、学生は聖書神学専攻または組織神学専攻のどちらかに所属します。

まず、主体的に神学する能力を養成するために開講される授業を履修します。授業は、専門的な知識を深めるために講義形式で行われるものと、主体的に神学する能力を身に付けるために演習形式で行われるもの、及び両者を組み合わせたものが開講されます。神学における主体性を確立するためには、専門分野を深めると同時に、その全分野を広く学ぶことを必要とすることから、その中から、より高度で専門的な知識を身に付けるために専攻科目20単位を、さらに、広い視野に立つことを目指して、幅広い知識を身に付けるために専攻外科目10単位を履修します。

主体的に神学する能力の成果として、修士論文を作成します。修士論文の作成は、希望の指導教授による指導の下で1年次の後期から本格的に開始され、2年次の前期末に提出します。

修士論文を提出した者は、身に付けた主体的に神学する能力を踏まえて、伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に対応する能力を養うことが求められます。そのために、2年次後期に集中的に実践神学研修課程の学びをし、実践に関わる極めて具体的な諸課題・諸問題についての取り組み方を学びます。

大学院博士課程前期課程
カリキュラムツリー



目 次

	ページ
学位授与方針および教育課程編成方針	
博士課程前期課程カリキュラム・ツリー	
1 学年暦	3
2 学務暦	7
3 時間割	11
4 学科履修要項	15
学位（修士）取得へのスケジュール概要	16
履修の手引	17
登録について	20
テキスト購入について	22
授業用資料の印刷について	23
欠席について	24
試験について	25
東京神学大学の学問的倫理基準	
レポート・論文作成にあたっての注意	
期末試験	
追試験	
再試験	
成績について	31
共通評価指標：講義・演習	
共通評価指標：修士論文	
成績確認・不服申立	
学籍について	35
長期履修学生制度について	36
5 授業計画	37
6 学科目概要（シラバス）	43
7 修士論文作成の手引	101
8 教職課程の手引	113
9 科目等履修生制度	131
10 東京神学大学大学院学則	133
巻末 レポート表紙	

【学年曆】

2026年度学年暦

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
4月	1日(水) 10時 入学式 前期始業式 司式:本城					1	2	3	4
	~2日(木) 15時30分 基礎登録	5	6	7	8	9	10	11	
	~3日(金) 担任面接	12	13	14	15	16	17	18	神学校全学集会
	新入・編入生オリエンテーション	19	20	21	22	23	24	25	
	その他オリエンテーション	26	27	28	29	30			
	健康診断(予定)								
	6日(月) 前期授業開始								
9時~16時 教育実習事前指導									
8日(水)~14日(火) 13時 前期補充登録期間									
13日(月) 9時~16時 介護等体験「特別講義」									
15日(水) クラス別懇談会(全日休講)									
16日(木) 初年次教育(含 生活倫理講座)1(全日休講)									
29日(水) 祝日昭和の日(授業実施日)									

■	授業実施日
■	休業日
■	行事・授業・補講等を実施する祝日
■	補講日・試験日
■	他曜日の授業実施日

3日(金) 13時 前期学籍願締切

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
5月	3日(日) 祝日憲法記念日						1	2	
	4日(月) 祝日みどりの日	3	4	5	6	7	8	9	
	5日(火) 祝日こどもの日	10	11	12	13	14	15	16	全学懇談会
	6日(水) 振替休日	17	18	19	20	21	22	23	前期学生総会
	16日(土) キリスト教学校伝道協議会(通常授業実施)	24	25	26	27	28	29	30	
	19日(火) 創立記念日(通常授業実施)	31							
	29日(金) 運動会(全日休講)								

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
6月	1日(月)・2日(火) 日本伝道フォーラム(全日休講)			1	2	3	4	5	6
		7	8	9	10	11	12	13	第1回全学祈祷会
		14	15	16	17	18	19	20	
		21	22	23	24	25	26	27	博士課程後期課程研究発表会
		28	29	30					大学院内部入試説明会(学部4年生)

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
7月	20日(月) 祝日海の日(授業実施日)					1	2	3	4
	25日(土) 前期補講日・試験日	5	6	7	8	9	10	11	夏期伝道実習オリエンテーション
	29日(水) 前期授業最終日	12	13	14	15	16	17	18	夏期伝道実習壮行祈祷会
	30日(木)・31日(金) 前期補講日・試験日	19	20	21	22	23	24	25	教職課程オリエンテーション(学部1年生)
		26	27	28	29	30	31		

#

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
8月	1日(土) 夏期休業開始							1	
	2日(日)~30日(日) 夏期伝道実習期間	2	3	4	5	6	7	8	
	11日(火) 祝日山の日	9	10	11	12	13	14	15	
		16	17	18	19	20	21	22	
		23	24	25	26	27	28	29	
	30	31							

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
9月	15日(火) 正午 修士論文提出締切				1	2	3	4	5
	21日(月) 祝日敬老の日	6	7	8	9	10	11	12	
	22日(火) 振替休日	13	14	15	16	17	18	19	
	23日(水) 祝日秋分の日	20	21	22	23	24	25	26	
	10時 後期始業式 司式:長山・講演:ジャンセン	27	28	29	30				
	24日(木) 後期授業開始								
	26日(土) 日本伝道を担う青年の集い(全日休講)								
	29日(火)~10月2日(金) 担任面接								
~10月6日(火) 13時 後期補充登録期間									

25日(金) 13時 後期学籍願締切

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
10月	7日(水) 初年次教育(含 生活倫理講座)2(全日休講)					1	2	3	
	12日(月) 祝日スポーツの日(授業実施日)	4	5	6	7	8	9	10	夏期伝道実習報告会
		11	12	13	14	15	16	17	
		18	19	20	21	22	23	24	全学修養会基調講演1
		25	26	27	28	29	30	31	全学修養会基調講演2

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
11月	3日(火) 祝日文化の日	1	2	3	4	5	6	7	(全学修養会基調講演3)
	全学修養会1日目(全日休講)	8	9	10	11	12	13	14	
	4日(水) 全学修養会2日目(全日休講)	15	16	17	18	19	20	21	
	10日(火) 修士論文審査日1	22	23	24	25	26	27	28	神学校生活懇談会
	17日(火) 修士論文審査日2	29	30						
	23日(月) 祝日勤労感謝の日								
	24日(火) 修士論文審査日3								
30日(月) 9時～16時 教育実習事後指導									

23日(月) 2027年度11月入学者選抜
 25日(水) 11時 11月入学者選抜合格者発表(指定校推薦型入学者選抜を除く)

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
12月	2日(水) 11時 修士論文合格者発表				1	2	3	4	5
	5日(土) オープンキャンパス(通常授業実施)	6	7	8	9	10	11	12	
	11日(金) 10時 クリスマス礼拝 司式:宮壽(全日休講)	13	14	15	16	17	18	19	
	17日(木) 冬期休業開始	20	21	22	23	24	25	26	
	25日(金) クリスマス	27	28	29	30	31			

1日(火) 11時 11月入学者選抜合格者発表(指定校推薦型入学者選抜)

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)
1月	1日(金) 祝日元旦						1	2	
	7日(金)～9日(土) 後期補講日	3	4	5	6	7	8	9	
	11日(月) 祝日成人の日	10	11	12	13	14	15	16	
	12日(火)～14日(木) 教職セミナー(全日休講)	17	18	19	20	21	22	23	第2回全学祈祷会
	後期補講予備日	24	25	26	27	28	29	30	後期学生総会
15日(金) 後期授業再開	31								

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)	
2月	11日(木) 信教の自由を守る日(授業実施)				1	2	3	4	5	6
	水曜日の授業実施日	7	8	9	10	11	12	13		
	後期授業最終日	14	15	16	17	18	19	20		
12日(金)・13日(土) 後期補講日・試験日	21	22	23	24	25	26	27			
23日(火) 祝日天皇誕生日	28									

16日(火)・17日(水) 2027年度2月入学者選抜
 19日(金) 11時 2月入学者選抜合格者発表

		日	月	火	水	木	金	土	一般時間予定(火曜Ⅱ限)	
3月	4日(木) 2027年度大学院後期課程内部入学者選抜面接				1	2	3	4	5	6
	2027年度大学院前期課程内部入学者選抜面接	7	8	9	10	11	12	13		
	2026年度学部卒業予定者面接	14	15	16	17	18	19	20		
	5日(金) 14時 2027年度大学院後期課程内部入学者選抜合格者発表	21	22	23	24	25	26	27		
	14時 2027年度大学院前期課程内部入学者選抜合格者発表	28	29	30	31					
	14時 2026年度大学院前期課程修了者発表									
	14時 2026年度学部卒業生発表									
	11日(木) 10時 卒業礼拝 司式:須田									
	12日(金) 14時 卒業・修了式 司式:田中									
	21日(日) 祝日春分の日									
	22日(月) 振替休日									

9日(火) 2027年度3月入学者選抜
 11日(木) 11時 3月入学者選抜合格者発表

4月1日(木) 2027年度入学式 前期始業式(予定)

2026年度 授業曜日別授業実施日

前期

授業回	月曜日授業	火曜日授業	水曜日授業	木曜日授業	金曜日授業	土曜日授業
第1回	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日
第2回	4月13日	4月14日	4月22日	4月23日	4月17日	4月18日
第3回	4月20日	4月21日	4月29日(祝)	4月30日	4月24日	4月25日
第4回	4月27日	4月28日	5月13日	5月7日	5月1日	5月2日
第5回	5月11日	5月12日	5月20日	5月14日	5月8日	5月9日
第6回	5月18日	5月19日	5月27日	5月21日	5月15日	5月16日
第7回	5月25日	5月26日	6月3日	5月28日	5月22日	5月23日
第8回	6月8日	6月9日	6月10日	6月4日	6月5日	5月30日
第9回	6月15日	6月16日	6月17日	6月11日	6月12日	6月6日
第10回	6月22日	6月23日	6月24日	6月18日	6月19日	6月13日
第11回	6月29日	6月30日	7月1日	6月25日	6月26日	6月20日
第12回	7月6日	7月7日	7月8日	7月2日	7月3日	6月27日
第13回	7月13日	7月14日	7月15日	7月9日	7月10日	7月4日
第14回	7月20日(祝)	7月21日	7月22日	7月16日	7月17日	7月11日
第15回	7月27日	7月28日	7月29日	7月23日	7月24日	7月18日

後期

授業回	月曜日授業	火曜日授業	水曜日授業	木曜日授業	金曜日授業	土曜日授業
第1回	9月28日	9月29日	9月30日	9月24日	9月25日	10月3日
第2回	10月5日	10月6日	10月14日	10月1日	10月2日	10月10日
第3回	10月12日(祝)	10月13日	10月21日	10月8日	10月9日	10月17日
第4回	10月19日	10月20日	10月28日	10月15日	10月16日	10月24日
第5回	10月26日	10月27日	11月11日	10月22日	10月23日	10月31日
第6回	11月2日	11月10日	11月18日	10月29日	10月30日	11月7日
第7回	11月9日	11月17日	11月25日	11月5日	11月6日	11月14日
第8回	11月16日	11月24日	12月2日	11月12日	11月13日	11月21日
第9回	11月30日	12月1日	12月9日	11月19日	11月20日	11月28日
第10回	12月7日	12月8日	12月16日	11月26日	11月27日	12月5日
第11回	12月14日	12月15日	1月20日	12月3日	12月4日	12月12日
第12回	1月18日	1月19日	1月27日	12月10日	1月15日	1月16日
第13回	1月25日	1月26日	2月3日	1月21日	1月22日	1月23日
第14回	2月1日	2月2日	2月10日	1月28日	1月29日	1月30日
第15回	2月8日	2月9日	2月11日(木)	2月4日	2月5日	2月6日

【学務曆】

学 務 暦 (2026年度)

[前 期]

4月	1日(水)	入学式 前期始業式 10時 司式：本城
	・ 2日(木)	基礎登録 (2日15時30分締切)
	- 3日(金)	担任面接
		新入・編入生オリエンテーション (履修・学生生活・その他)
		進級生オリエンテーション (履修・その他)
		健康診断 (別途実施案内による)
	3日(金)	前期学籍願締切 (休学・復学・退学) 13時
	6日(月)	前期授業開始
		教育実習事前指導 9時-16時
	8日(水) - 14日(火)	前期補充登録期間 (14日13時締切)
	13日(月)	介護等体験「特別講義」 9時-16時
	14日(火)	神学校全学集会 (一般時間)
	15日(水)	クラス別懇談会 (全日休講)
	16日(木)	初年次教育 (含 生活倫理講座) 1 [本年度入学・編入学者、該当者] (全日休講)
	21日(火) - 30日(木)	前期登録確認期間 (30日13時締切)
	29日(水)	祝日 昭和の日 (授業実施日)
5月	3日(日)	祝日 憲法記念日
	4日(月)	祝日 みどりの日
	5日(火)	祝日 こどもの日
	6日(水)	振替休日
	12日(火)	全学懇談会 (一般時間)
	16日(土)	キリスト教学校伝道協議会 (通常授業実施)
	19日(火)	創立記念日 (通常授業実施)
		前期学生総会 (一般時間)
	29日(金)	運動会 (晴雨にかかわらず全日休講)
6月	1日(月)・2日(火)	日本伝道フォーラム (全日休講)
	9日(火)	第1回全学祈祷会 (一般時間)
	23日(火)	大学院博士課程後期課程研究発表会 (一般時間)
	30日(火)	2027年度大学院博士課程前期課程内部入学者選抜説明会 [学部4年生] (一般時間)
7月	7日(火)	夏期伝道実習オリエンテーション (一般時間)
	14日(火)	夏期伝道実習壮行祈祷会 (一般時間)
	20日(月)	祝日 海の日 (授業実施日)
	21日(火)	教職課程オリエンテーション [学部1年生] (一般時間)
	25日(土)	前期補講日・試験日
	29日(水)	前期授業最終日
	30日(木)・31日(金)	前期補講日・試験日
8月	1日(土)	夏期休業開始
	2日(日) - 30日(日)	夏期伝道実習期間
	11日(火)	祝日 山の日
9月	2日(水)	追試験 許可者の掲示 10時
		再試験 該当者及び課題の掲示 10時

11日(金)	追再試験
	追再試レポート締切 正午
15日(火)	修士論文提出締切 正午
21日(月)	祝日 敬老の日
22日(火)	振替休日

[後 期]

9月	23日(水)	祝日 秋分の日 後期始業式 10時 司式：長山、講演：ジャンセン
	24日(木)	後期授業開始
	25日(金)	後期学籍願締切（休学・復学・退学） 13時
	26日(土)	日本伝道を担う青年の集い（全日休講）
	29日(火) - 10月2日(金)	担任面接
	- 10月6日(火)	後期補充登録期間（10月6日13時締切）
10月	6日(火)	夏期伝道実習報告会（一般時間）
	7日(水)	初年次教育（含 生活倫理講座）2 [本年度入学・編入学者、該当者]（全日休講）
	9日(金) - 15日(木)	後期登録確認期間（15日13時締切）
	12日(月)	祝日 スポーツの日（授業実施日）
	20日(火)	全学修養会基調講演1（一般時間）
	27日(火)	全学修養会基調講演2（一般時間）
11月	3日(火)	祝日 文化の日 全学修養会1日目（全日休講）
	4日(水)	全学修養会2日目（全日休講）
	10日(火)	修士論文審査日1
	17日(火)	修士論文審査日2
	23日(月)	祝日 勤労感謝の日 2027年度11月入学者選抜
	24日(火)	神学校生活懇談会（一般時間） 修士論文審査日3
	25日(水)	11月入学者選抜合格者発表（指定校推薦型入学者選抜を除く） 11時
	30日(月)	教育実習事後指導 9時-16時
12月	1日(火)	11月入学者選抜合格者発表（指定校推薦型入学者選抜） 11時
	2日(水)	修士論文合格者発表（掲示） 11時
	5日(土)	オープンキャンパス（通常授業実施）
	11日(金)	クリスマス礼拝 10時 司式：宮寄（全日休講）
	17日(木)	冬期休業開始
	25日(金)	クリスマス

2027年

1月	1日(金)	祝日 元旦
	7日(木) - 9日(土)	後期補講日
	11日(月)	祝日 成人の日
	12日(火) - 14日(木)	教職セミナー（全日休講）
	- 14日(木)	後期補講予備日

15日(金)	後期授業再開
19日(火)	第2回全学祈祷会（一般時間）
26日(火)	後期学生総会（一般時間）
2月 11日(木)	信教の自由を守る日 水曜日の授業実施日 後期授業最終日 博士課程前期課程長期履修出願締切
12日(金)・13日(土)	後期補講日・試験日
16日(火)・17日(水)	2027年度2月入学者選抜
19日(金)	追試験 許可者の掲示 10時 再試験 該当者及び課題の掲示 10時 2月入学者選抜合格者発表 11時
23日(火)	祝日 天皇誕生日
25日(木)	追再試験 追再試レポート締切 正午
3月 4日(木)	2027年度大学院博士課程後期課程内部入学者選抜面接 2027年度大学院博士課程前期課程内部入学者選抜面接 2026年度学部卒業予定者面接 学部 志望変更志願者面接
5日(金)	2027年度大学院博士課程後期課程内部入学者選抜合格者発表（掲示） 14時 2027年度大学院博士課程前期課程内部入学者選抜合格者発表（掲示） 14時 2026年度大学院博士課程前期課程修了者発表（掲示） 14時 2026年度学部卒業生発表（掲示） 14時
9日(火)	2027年度3月入学者選抜
11日(木)	卒業礼拝 10時 司式：須田 3月入学者選抜合格者発表 11時
12日(金)	卒業・修了式 14時 司式：田中
21日(日)	祝日 春分の日
22日(月)	振替休日
2027年度	
4月 1日(木)	2027年度入学式 前期始業式 10時（予定）
2日(金)	2027年度前期学籍願締切（休学・復学・退学） 13時（予定）

【時間割】

時間割

<前期>

時間割

<後期>

【学科履修要項】

履修の手引

登録について

テキスト購入について

授業用資料の印刷について

欠席について

試験について

東京神学大学の学問的倫理基準
レポート・論文作成にあたっての注意
期末試験
追試験
再試験

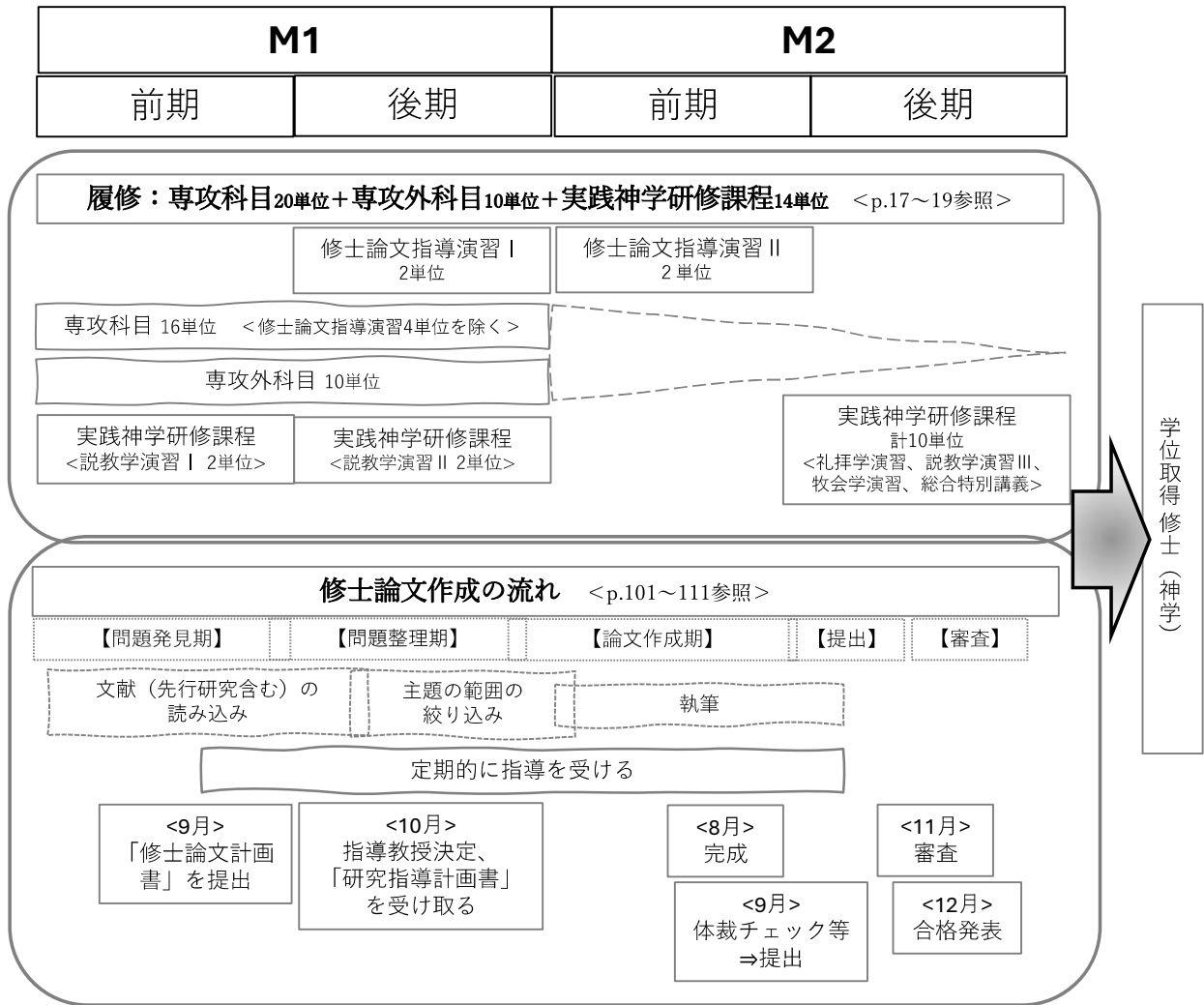
成績について

共通評価指標：講義・演習
共通評価指標：修士論文
成績確認・不服申立

学籍について

長期履修学生制度について

◆学位（修士）取得へのスケジュール概要◆



※長期履修制度を利用する場合はスケジュールが異なりますが、全体の流れや修士論文の提出要領は同様です。

※博士課程前期課程入学前にすでに教職である者は、所定の手続きによって、実践神学研修課程の履修が免除されます。
(詳しくは19ページ「3.授業科目についての注意事項」③c.をお読みください。)

【履修の手引】

大学院学則第5条（学則は巻末に掲載されています）により、博士課程の学籍は聖書神学専攻と組織神学専攻の2専攻に定められています。

1. 前期課程修了に必要な単位数は以下のとおりです。

専攻科目	20 単位以上	
専攻外科目	10 単位以上	
実践神学研修課程	14 単位	計 44 単位

2. 授業科目と単位については、学則第9条～12条に定められています。今年度の開講科目と単位は、39～41 ページの授業計画一覧に掲載されていますので、学科目概要と併せて確認し、履修してください。

学則に定められている授業科目と単位（専攻別）は以下のとおりです。

【聖書神学専攻】

I 専攻科目

A 聖書神学科目

旧約聖書原典講読 I	4	旧約聖書原典講読 II	4	旧約聖書原典積義 I	4
旧約聖書原典積義 II	4	旧約聖書神学特講 I	4	旧約聖書神学特講 II	4
旧約聖書学特研 I	4	旧約聖書学特研 II	4	旧約聖書学演習 I	4
旧約聖書学演習 II	4	聖書考古学	4	ヒブル語 I	4
ヒブル語 II	2	アラム語	4	シリア語	4
アッカド語	4	古代オリエン特史 I	4	古代オリエン特史 II	4
新約聖書学特講 I	4	新約聖書学特講 II	4	新約聖書学演習	2
新約聖書学特研 I	4	新約聖書学特研 II	4	新約聖書原典積義 I	4
新約聖書原典積義 II	4				

B 修士論文指導演習

修士論文指導演習旧約神学 I	2	修士論文指導演習旧約神学 II	2
修士論文指導演習新約神学 I	2	修士論文指導演習新約神学 II	2

II 専攻外科目

A 組織神学科目

1 組織神学関係

組織神学特講 I	4	組織神学特講 II	4	組織神学特研 I	2
組織神学特研 II	4	組織神学演習 I	4	組織神学演習 II	4
組織神学演習 III	4	信条学	2		

2 歴史神学関係

教会史演習	4	教理史演習 I	4	教理史演習 II	4
教会史特講 I	4	教会史特講 II	4	教理史特講 I	4
教理史特講 II	4	英国教会史	2	ラテン語 I	2
ラテン語 II	2				

3 実践神学関係

宗教社会学演習	4	教会音楽	4	キリスト教教育特講	4
---------	---	------	---	-----------	---

牧会心理学特講	4	牧会カウンセリング特研	2	キリスト教教育特研	4
実践神学演習	4	臨床牧会教育	4	牧会心理学	4
B 専攻間共同科目					
共同演習	4	アジア伝道論演習	4	日本伝道論演習	4

【組織神学専攻】

I 専攻科目

A 組織神学科目

1 組織神学関係

組織神学特講 I	4	組織神学特講 II	4	組織神学特研 I	2
組織神学特研 II	4	組織神学演習 I	4	組織神学演習 II	4
組織神学演習 III	4	信条学	2		

2 歴史神学関係

教会史演習	4	教理史演習 I	4	教理史演習 II	4
教会史特講 I	4	教会史特講 II	4	教理史特講 I	4
教理史特講 II	4	英国教会史	2	ラテン語 I	2
ラテン語 II	2				

3 実践神学関係

宗教社会学演習	4	教会音楽	4	キリスト教教育特講	4
牧会心理学特講	4	牧会カウンセリング特研	2	キリスト教教育特研	4
実践神学演習	4	臨床牧会教育	4	牧会心理学	4

B 修士論文指導演習

修士論文指導演習組織神学 I	2	修士論文指導演習組織神学 II	2
修士論文指導演習歴史神学 I	2	修士論文指導演習歴史神学 II	2
修士論文指導演習実践神学 I	2	修士論文指導演習実践神学 II	2

II 専攻外科目

A 聖書神学科目

旧約聖書原典講読 I	4	旧約聖書原典講読 II	4	旧約聖書原典釈義 I	4
旧約聖書原典釈義 II	4	旧約聖書神学特講 I	4	旧約聖書神学特講 II	4
旧約聖書学特研 I	4	旧約聖書学特研 II	4	旧約聖書学演習 I	4
旧約聖書学演習 II	4	聖書考古学	4	ヒブル語 I	4
ヒブル語 II	2	アラム語	4	シリア語	4
アッカド語	4	古代オリエント史 I	4	古代オリエント史 II	4
新約聖書学特講 I	4	新約聖書学特講 II	4	新約聖書学演習	2
新約聖書学特研 I	4	新約聖書学特研 II	4	新約聖書原典釈義 I	4
新約聖書原典釈義 II	4				

B 専攻間共同科目

共同演習	4	アジア伝道論演習	4	日本伝道論演習	4
------	---	----------	---	---------	---

【聖書神学専攻・組織神学専攻 共通】

[実践神学研修課程]

礼拝学演習	2	説教学演習 I	2	説教学演習 II	2
説教学演習 III	2	牧会学演習	2	総合特別講義	4

3. 授業科目についての注意事項

- ① 修士論文指導演習の単位は、修士論文提出の前年度後期と提出年度前期の4単位が必修です。なお、専攻によっては修士論文提出の前年度前期にも履修すべき科目がある場合があります。シラバスに注意してください
- ② 専攻間共同科目は専攻外科目の単位となります。ただし、4単位を超えて算入することはできません。
- ③ 実践神学研修課程について
 - a. 修士論文を提出し、修了見込みの学生がこの課程を履修することができます。従って基礎登録でこの課程を登録していても、修士論文を提出できなかった場合には、後期補充登録で「取消」を行なうこととなります。
ただし、「説教学演習Ⅰ」、「説教学演習Ⅱ」の4単位は、修士論文提出に先立ち、大学院第1年次に履修するよう定められています。
 - b. 日本基督教団以外の教派に属する学生も必ずこの課程を履修しなければなりません。
 - c. 博士課程前期課程入学前に既に教職である者は、この課程を履修する必要がないとされています。既に教会の教職の資格（准允按手又は按手を受けている）を得ていて、該当すると思われる場合は、教師の資格を与えた団体の発行する資格証明書（和文または英文）を教務課に提出し、単位認定の申請をしてください。

4. 修士論文

- ① 前期課程在籍中に修士論文を提出しなければなりません。
論文提出期限は課程修了年度の9月中です。日程は学務暦で確認してください。
- ② 論文提出予定年度の前年度前期始業時に、教務課主任による修士論文オリエンテーションを行います。必ず出席してください。
- ③ 修士論文を提出しようとする学生は、論文提出の前年度後期と提出年度前期に開講される修士論文指導演習を必ず登録・履修しなければなりません。

5. 博士課程前期課程修了要件

博士課程前期課程修了には、2年以上在籍し、学則第12条に定める単位数を修得し、その修得単位の全科目の成績評価点平均(GPA)が「B」(2.00)以上、専攻科目の成績評価点平均(GPA)が「B」(2.00)以上であり、修士論文を提出し、審査に合格(75点以上)することが必要です。

6. 修士学位の授与

- ① 上記5.に記載する「博士課程前期課程修了要件」をすべて満たした者に「修士(神学)」の学位が授与されます。
- ② 所定の年限を在籍し、かつ所定の単位をすべて修得したが、修士論文のみ合格基準に満たなかった場合には、単位修得証書が発行されます。なお、本証書は学位記としての効力は持ちません。

【登録について】

1. 登録期間

基礎登録期間（年度の初め、年1回）と補充登録期間（各学期の初め、年2回）があります。

2. 基礎登録・補充登録

・年度初めの基礎登録期間中に前期および後期に履修する科目の基礎登録を行います。履修登録票（前期・後期）に履修する科目を記入し、担任教員の面接を受け、印鑑または署名をもらったうえで教務課に提出してください。

注意：一旦提出された履修登録票は返却しません。各自必ず控えを取ってください。

- ・基礎登録期間中に本年度中に履修したい科目をすべて登録します。特に必修科目はこの期間に必ず登録してください。
- ・補充登録期間中（前期・後期とも）には、登録の追加と取消を行います。
- ・補充登録期間終了後、履修登録科目確認表を配付します。登録内容を確認してください。

<注意>

1. 初回クラスから出席していないと補充登録が認められない科目もあります。特に演習形式の授業では、第一回目で発表の担当を決める場合がありますので、初めから出席するようにしてください。
2. 通年で開講する科目の中には、片学期だけの履修が認められない科目もあります。シラバスの登録条件を確認してください。
3. 履修条件が設定されている科目もあります。シラバスで確認してください。
4. 補充登録期間中に登録する科目については、補充登録期間終了後まで、出席簿に名前が記載されません。出欠確認時に名前を呼ばれない場合は、補充登録で履修する旨を担当教員に直接伝えてください。

3. 担任面接

学期開始時に担任面接を受けてください。各教員の執務日程は始業式前に掲示します。

前期には、記入済みの履修登録票を持参し、担任教員のアドバイスを受け、印鑑または署名をもらってください。担任教員の承認のない履修登録票は無効です。

後期には、前期分の成績通知表を受け取ってください。

4. 登録確認期間

各学期の補充登録期間終了後に登録確認期間が設けられています。各自のメールボックスに配付される履修登録科目確認表で登録内容を確認し、誤りがあれば、登録確認期間内に教務課へ申し出てください。

なお、登録確認期間は補充登録期間の延長ではありませんので、ご注意ください。

5. 学部／大学院共通科目

「ヒブル語」「ラテン語」「臨床牧会教育」「アジア伝道論演習」は学部／大学院共通の科目です。共通科目は、原則として、学部在籍時に履修済であっても、大学院であらためて履修

することが可能で、修得した単位は大学院の単位として扱われます。

6. その他の学部科目

5. に記載する学部／大学院共通科目以外の学部科目については、科目等履修または聴講の扱いで授業出席が認められることがあります。

①科目等履修では、単位が修得できますが、あくまでも科目等履修生としての単位であり、大学院の単位にはなりません。

②聴講の場合は、単位は付与されません。

科目等履修については、後掲の「科目等履修生制度」の頁を参照してください。

【テキスト購入について】

1. 各授業科目のテキストについて

学科目概要（シラバス）の<テキスト><参考書・参考資料等>の欄を参照してください。各自用意するもの、担当教員が用意するもの、大学事務室窓口で購入可能なものがあります。

2. テキストの購入について

学科目概要（シラバス）に「学生各自」と記載があるテキストは、自身で用意してください。以下の購入方法もご利用ください。

◇教文館出張販売

前期と後期の初めに教文館が学内で出張販売を行います。シラバスに記載するテキストと参考書の購入・注文が可能です。テキストについては優待価格が適用される場合もあります。なお、文献によっては、オンデマンドあるいは取り寄せの扱いになります。出張販売の日程等は掲示でお知らせします。

◇オンデマンド事前予約

オンデマンド扱いの特定のテキストについては、教務課で事前予約を受け付け、教文館に取り次ぎます。オンデマンド・テキストは、注文から入手までに3・4週間程度を要しますが、事前予約をすることで、学内出張販売日に受け取ることができます。

履修の該当学年に向けて掲示・メモ等で案内します。事前予約の機会をぜひご利用ください。

3. テキストの変更について

指定テキストやその入手方法に変更が生じる場合があります。変更があれば、掲示でお知らせします。

【授業用資料の印刷について】

授業の発表に用いるレジュメ等の資料は、印刷室でコピー・印刷することができます。利用の際は備え付けのノートに、日付、氏名、用途（授業科目名）、用紙サイズ、枚数等を記入してください。印刷室の利用に関するご質問は総務課にお問い合わせください。

以下、『大学の沿革と組織』総務課のページより転載

【印刷室の利用について】

- ① コピー機・高速プリンターを使用して印刷できるものは、次のとおりです。
 - ・授業発表のためのレジュメ（無料）、修士論文のコピー（有料）
 - ・学生会関連の印刷物（有料）
 - ・学生会公認のサークル活動の資料やちらしの印刷（有料）
- ② 料金（学生会経由の印刷代は、学生会へ支払ってください）

・コピー機	白黒	片面	10円/枚、両面	20円/枚
・高速プリンター	白黒	片面	10円/枚、両面	20円/枚
	カラー	片面	50円/枚、両面	100円/枚
- ③ 利用した場合は、備え付けのノートに必ず記入してください。

* 上記以外の印刷・コピーはできません。窓口でコピーカードを購入し、ラウンジにあるコピー機を使用してください。

【欠席について】

1. 欠席について

やむを得ない事情で授業を欠席するときは、「欠席届」を授業担当教員または教務課に提出してください。所定用紙は教務課・学生課事務室前にあります。事前に提出できなかった場合は事後でも構いません。必ず本人が提出してください。

急な欠席であっても、原則として、教務課等事務局宛の電話・メール等での連絡は受け付けません。可能な場合はクラスメートに伝言をお願いし、事後に「欠席届」を担当教員に提出のうえ、口頭で補うとよいでしょう。ただし、長期欠席を伴う疾病や事故等特別な事態が発生した場合には、直ちに教務課へ連絡してください。

2. 公欠について

学校保健安全法施行規則に定める感染症罹患、教職課程における介護等体験と教育実習、本学「派遣プログラム」によるキリスト教主義学校・教会への派遣に伴う欠席は、公欠として扱われます。それぞれ所定の「公欠願い」を教務課へ提出してください。用紙は教務課・学生課事務室前にあります。

(1) 学校保健安全法施行規則第 18 条に定める感染症罹患による欠席

学校保健安全法では、学生が特定の感染症に罹患した際、学校が出席停止を指示することを定めています。該当する感染症の種類は、『大学の沿革と組織』総務課ページに掲載しています。罹患したときは、直ちに担任教員へ連絡し、治癒するまで来校を控えてください。そのうえで、治癒後の来校時に「公欠願い」を教務課へ提出してください。

なお、場合により、治癒後の来校にあたり、「登校許可証明書」を提出いただくことがあります。教務課・学生課事務室前にある所定用紙、あるいは『大学の沿革と組織』に掲載の「感染症治癒後 登校許可証明書」をコピーしてお使いください。

(2) 介護等体験・教育実習による欠席

教職課程における「介護等体験」と「教育実習」により授業を欠席する場合は、体験・実習に行く前に、所定の「公欠願い」を教務課（教職課程担当）へ提出してください。

(3) 派遣プログラムによる欠席

本学の「派遣プログラム」によりキリスト教学校・教会等へ派遣され、授業を欠席する場合は、事前に所定の「公欠願い」を教務課（入試担当）へ提出してください。

*忌引きは公欠として扱いません。通常の「欠席届」を提出してください。

*公欠は授業の補講を保障するものではありません。欠席による遅れは自身で補うよう努めてください。

【試験について】

東京神学大学の学問的倫理基準

学問的探究は全て、その学問の対象に対する情熱的な献身と忠実をもって真理を尋ねること、および、特に同じ学問研究に携わる者達の間で成立する信頼関係なしには、健全な発展を遂げることができません。さらに後者について言えば、学問は、過去や同時代の研究に多くを負いながら進められていきますが、そのために、ある倫理的基準が存在します。それは、大きくは、①自分自身で調べ、考えることであり、さらに、②他者に依存している情報や事柄については、そのことをきちんと明示するということです。

この倫理的基準を犯す不正は、学問の対象を裏切る行為であると同時に、研究に携わる他者との信頼関係を破壊する行為です。従って、大学は、そのような不正を見逃ごしにすることなく、厳しい対応をしてきました。東京神学大学もまた大学の一つとして、学問的探究における不正を許すことはできません。また、特に神学校として、神学という、神を第一の対象とする学問に従事し、信仰共同体である教会を背景に持つ本学にとって、不正行為は当事者の召命を疑わせることとなります。それゆえに、本学に連なる教員も学生も、一般大学以上に、学問上の倫理的基準を守る義務を負っているのです。教員の発表する論文や書籍、教員から評価を受けるために学生が提出するもの（筆記試験およびレポート）にも、当然、同じ基準が適用されます。

不正行為が発見された場合には学則に照らした処分等の対象となります。学生の場合であれば、最も重い場合には退学、最も軽い場合であっても、当該科目の単位は取り消しとなります。不正行為の例としては、以下のものを挙げることができます。

- ・筆記試験において、他人の試験答案を写すこと。
- ・筆記試験において、他人に自分の答案を写させること。
- ・筆記試験において、参照を許されていないものを参照すること。
- ・筆記試験において、メモや動作等によって他者と連絡をとること。
- ・筆記試験において、携帯電話・スマートフォン・PC・タブレット端末等を身の回りに置くこと。また、イヤフォン等を装着すること。
- ・他人に代わってレポートを書くこと。
- ・自分に代わって他人にレポートを書かせること。
- ・他人のレポートを写すこと。
- ・剽窃・盗用をすること（出典を明記しないで、自分の考えたものとする）。
- ・生成系 AI の出力をレポート等の解答にそのまま利用すること（生成系 AI の学習データには他者の著作物が含まれていることが多く、そのまま利用すると著作権侵害や剽窃のおそれが生じるためです）。

実際にこれらのことを行なった場合だけでなく、疑わしい行為も処罰の対象と見做されます。充分注意して下さい。

[レポート・論文作成にあたっての注意]

——特に盗用・剽窃について——

東京神学大学での学業においては、課題としてレポートや論文など、まとまった長文の文章の提出を求められる機会が多くあります。こうした形式の課題をこなしていくことを通して、説教者となるために必要な思考力や文章構成力が身に着いていきます。レポートや論文作成にあたって注意すべきことは

出典を明記する

ということです。従って、出典を注などによって明らかにしないままでは

- ① 他人の書いたもの（本・論文・配布物・未刊の原稿など）の一部または全部を、自分のものとしてそのまま用いること
- ② 他人の着想・考え・構想などを自分のオリジナルであるとして用いること
- ③ インターネットを通じて入手した資料の一部または全体を、自分のオリジナルとして、そのまま、あるいは「コピー・アンド・ペイスト」によって組み合わせて用いること
- ④ 他人に書いてもらったものを、そのまま自分のものとして提出すること

は、いずれも学問の世界における重大な違反行為となります。違反が確認された場合、単位の取り消し・学位の剥奪・退学などの処分を受けることがあります。

自分以外の誰かの言葉・誰かから学んだことについては、注意をもって取り扱い、必要に応じて注を付け、出典を明記しましょう。

<参考資料>

<https://www.educationalpolicy.admin.cam.ac.uk/plagiarism-and-academic-misconduct> による英国ケンブリッジ大学における全学対象の剽窃に関するステートメント

注における文献記載例

＜『東京神学大学大学院神学研究科博士課程前期課程履修の手引』『修士論文作成の手引』より抜粋＞

注の書き方にはいくつかの方法がある。どれを採用するにせよ、一貫性を持って用いること。以下に挙げる例は限られたものであり、例外がありうる。複雑なケースの場合は、指導教授の指導を仰ぐこと。

A. 和文文献の場合

(1) 書物

* 著・編者名『書名』（シリーズ名、巻）出版社、刊行年、頁数 の順に記す。

例：網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』（岩波書店、1984年）、154－156頁。

アリスター・E・マクグラス『キリスト教神学入門』（神代真砂実訳、教文館、2002年）、10頁。

カール・バルト「福音主義神学入門」（加藤常昭訳）『カール・バルト著作集』第10巻（新教出版社、1968年）、10頁。

(2) 論文

* 著者名「論文名」（『雑誌名』号数、19——）頁数 の順。

例：網野善彦「青方氏と松浦一揆」（『歴史学研究』254号、1982年）57頁。

アリスター・E・マクグラス「現代キリスト教思想における自然神学の位置」（神代真砂実訳）『神学』65号（2003年）84－122頁。

* 書名、雑誌名、新聞名は——— 二重カギかっこ『 』

* 論文、記事名は————— 一重カギかっこ「 」

B. 欧文文献の場合

(1) 単行本

* 著者名、書名、刊行地、刊行年、頁数 の順に記す。書名はイタリック体にする（書名の下にアンダーラインを付しても良い）。

例：W. Pannenberg, *Grundzüge der Christologie*, Gütersloh, 1964, S.187.

* 邦訳がある場合、それを明記する。

例：P. M. Sweezy, The Present as History, New York, 1953, pp.213-217.

（都留重人監訳『歴史としての現代』岩波書店、1954年、268－273頁）。

* 刊行地のあとに出版社を加える、より詳しい表記の仕方もある。

例：Colin E. Gunton, *The Promise of the Trinitarian Theology* (Edinburgh: T&T Clark, 1991), p.10.

(2) 論文の場合

* 著者名、論文名、雑誌名、号数、刊行年、頁数 の順。

* 論文題は“ ”を付け、雑誌名をイタリック体にするか、あるいは雑誌名の下にアンダーラインを付す。

* 雑誌論文の例：

G.N.Stanton, “The Fourfold Gospel,” New Testament Studies 43:3(1997), pp.317-346.

* 論文集に収録されている場合：

Christoph Schwöbel, “Christology and Trinitarian Thought,” in Christoph Schwöbel, ed., *Trinitarian Theology Today* (Edinburgh: T&T Clark, 1995), pp.10-11.

I. 期末試験

1. 期末試験は、原則として、学期ごとに（年2回）実施されます。
2. 期末試験は、各担当教員の裁量により、授業期間内または試験日に実施されます。担当教員の指示に従ってください。
3. 期末試験は、筆記試験、レポート、その他各担当教員が指定する形式で行われます。
4. 評価基準に出席条件が課せられている科目については、その条件が満たされていない場合、期末試験を受けることができません。
5. レポートは、原則として、各担当教員へ直接提出してください。提出期限や提出方法は科目によって異なりますので、担当教員の指示に従ってください。
6. レポートの表紙は、特に指定がなければ、巻末のものを参照してください。コピーをしても各自で作成しても構いません。

<注意> 成績判定と授業料の納入について

学期末に履修科目の成績判定を受け、単位を修得するには、授業料が納入済みであることが条件となります（「東京神学大学学生納付金に関する内規」第4条）。従って、所定の期日（前期の場合は基礎登録の最終日、後期の場合は10月の第2金曜日）までに授業料を納入していない場合には、成績判定を受けられませんので、試験を受けることも、レポートを提出することもできません。

事情により、上記の所定の期日を守るのが難しい場合には、分納や延納の願出を提出してください。これが認められれば、成績判定を受けることができます。ただし、分納や延納が認められている場合であっても、授業最終日の一週間前にあたる日までに授業料を完納していなければ、期末試験（筆記試験・レポート）の受験資格を失い、成績判定を受けられません（「東京神学大学学生納付金に関する内規」第3条・第4条）。

授業料の納入を怠った学生は、さらに除籍処分の対象ともなり得ます（「東京神学大学学則」第48条・「東京神学大学大学院学則」第49条）。

自覚をもって授業料の準備あるいはその計画をし、必ず所定の期日までに授業料を納付してください。また、何か問題が生じそうな場合には、早めに経理課や奨学金委員会（委員長に連絡がとれない場合には、教務課・学生課）に相談に行くようにしてください。

◆2026年度授業料 分納・延納が許可された場合の最終納付期日

前期：2026年7月22日（水）

後期：2027年2月4日（木）

II. 追試験

1. 以下枠内の理由により筆記試験によって実施される期末試験を受けられなかった場合、指定期間内に教務課へ追試験受験願を提出することができます。教務課主任に承認された者は、追試験許可者として学籍番号が掲示されますので、経理課窓口で受験手数料（一科目につき 800 円）を納め、追試験を受けてください。
出願手続きは、原則として、受験者本人が行ってください。なお、教務課主任に受理された受験願は、取り下げることができません。

- (1) 災害（台風、水害、火災等）。
- (2) 交通機関の事故・遅滞（交通機関などの証明書を必要とする）。
- (3) 負傷または疾病（医師の診断書を必要とする）。
- (4) 二親等以内の親族またはそれに準ずる者の死亡による忌引。
- (5) その他教務課主任において適当と認めた証明を伴う事由。

※出願期間を設けていますが、事態が生じた時点で速やかに教務課主任に申し出て
ください。

※期末試験以外の筆記試験は追試験の対象となりません。担当教員に相談してくだ
さい。

2. 対象科目
全科目

3. 出願期間
当該科目の試験実施日翌日から教務課の定める期日（掲示による）まで

4. 成績
平常の六段階評価（A～E）

※追試験の再試験は認められません。追試験の結果がD評価であった場合、再試験
は認められず、学期末の成績はD評価となります。

5. 日程
追試験許可掲示日・追試験日程については、8 ページからの学務暦で確認してく
ださい。

Ⅲ. 再試験

1. 再試験対象科目の学期末の成績がD評価であった者は、再試験該当者として学籍番号が掲示されます。再試験受験を希望する場合は、指定期間内に教務課で出願手続きを行ってください。再試験受験には、受験手数料（一科目につき 1,000 円）が必要です。出願手続きは、受験者本人が行ってください。なお、再試験受験手続きを終えた後に出願を取り消すことはできません。

2. 対象科目
全科目

3. 出願期間
筆記試験：再試験該当者掲示日から当該科目の再試験日前日 16 時まで
レポート：再試験該当者掲示日から当該科目の再試験日正午まで

4. 成績
「C」または「D」評価

5. 日程
再試験該当者掲示日・再試験日程については、8 ページからの学務暦で確認してください。

【成績について】

1. 成績通知表は、以下の要領で配付されます。

前年度後期分：前期担任面接前に教務課より配付

当該年度前期分：後期担任面接時に担任より配付

各自、既得単位・評価を把握し、成績の自己管理を行ってください。

2. 成績評価基準

合格（単位修得） 評価基準（1単位あたり成績評価点）		不合格（単位修得対象外） 評価基準（成績評価点なし）	
A	100 ～ 90 （ 3.00 ）	D	59 以下
A-	89 ～ 85 （ 2.50 ）	E	評価対象外（出席不足・放棄等）
B	84 ～ 75 （ 2.00 ）	保留	実習等一部の科目における 前期成績保留
C	74 ～ 60 （ 1.00 ）		

3. 博士課程前期課程修了要件となる成績

①全修得科目の成績評価点平均(GPA)が、**B (2.00) 以上**

②専攻科目の成績評価点平均(GPA)が、**B (2.00) 以上**

③修士論文の評価が、**B (75点) 以上**

- 成績評価点平均(GPA)は「A=3.00、A-=2.50、B=2.00、C=1.00」として算出した評価点を修得単位数で除した値です。
- 実践神学研修課程は「専攻科目」に含まれません。
- 成績評価が「D」・「E」の科目は評価点計算対象外となります。
- 成績評価点平均(GPA)は成績通知表に記載されます。

* 成績評価点平均(GPA)算出方法 *

例：組織神学専攻者の場合（網掛け部分が専攻科目）

科目	成績	成績 評価点	修得 単位数	成績評価点 ×単位数	成績評価点 平均(GPA)
旧約聖書原典講読 I a	A	3.00	2	6.00	
新約聖書原典釈義 I a	C	1.00	2	2.00	
信条学	A	3.00	2	6.00	
教理史演習 a	B	2.00	2	4.00	
日本伝道論演習 a	D	—	0	—	
説教学演習 I	A-	2.50	2	5.00	
修得（全科目）	計		10	23.00	23.00÷10 2.30 …①
修得（専攻科目）	計		4	10.00	10.00÷4 2.50 …②

①全修得科目 成績評価点平均(GPA)

= 全修得科目についての (成績評価点×単位数) ÷ (修得単位数)

②専攻科目 成績評価点平均(GPA)

= 専攻科目についての (成績評価点×単位数) ÷ (修得単位数)

共通評価指標（１）：講義・演習

	A	A-	B	C	D
①事前準備をして積極的に授業に参加しているか	授業で扱われる主題について調べたり、指定されたテキストを熟読するなど、十分な準備をして授業に臨み、講義や演習の流れに沿った発言を積極的に行うことができる	授業で扱われる主題について調べたり、指定されたテキストを読むなどの準備をして授業に臨み、講義や演習の流れに沿った発言をすることができる	授業で扱われる主題について多少調べたり、指定されたテキストをある程度読むなどの準備をして授業に臨み、発言をするが、講義や演習の流れに十分に沿うものではない	授業で扱われる主題について調べたり、指定されたテキストを読むなどの準備が不十分であり、授業において積極的に発言をすることができない	全く準備をせずに授業に臨み、講義や演習の流れに沿った発言をすることができない
②テキストや資料の読解力は身に付いているか	内容について、その大意を把握しているだけでなく、細部まで正確に言い換え、説明し、その特徴を指摘できる	内容について、その大意を把握しているだけでなく、ある程度まで細部まで正確に言い換え、説明できる	大意を正確に把握し、説明できる	大意を最低限、把握している	大意すらも把握できていない
③主体的に考えられるか	講義やテキストの読解等を通して、自らの知識や理解を深め、それを踏まえて、自分なりの見解を、他の見解をも考慮に入れつつ、提示できる	講義やテキストの読解等を通して、自らの知識や理解を深め、それを踏まえて、自分なりの見解を提示できるが、他の見解への言及がない	講義やテキストの読解等を通して、自らの知識や理解を深めているが、自分なりの見解を持つには至っていない	講義やテキストの読解等を通して、その内容をある程度理解してはいるものの、自らの知識や理解を深めることはできていない	講義やテキストの読解等によって、全く自らの知識や理解を深めることができていない
④発表やレポートは論理的か	明確な主張を、当該分野の研究方法を踏まえて、説得力をもって提示できている	論理的説得力には弱さを持つが、明確な主張を、当該分野の研究方法を踏まえて提示できている	主張にも、論理性にも明確さを与える姿勢が認められるが、説得力を欠く	主張自体は明確であるが、根拠づけと論理の展開ができていない	主張が明確でなく、印象を述べているだけで、論理的でない

共通評価指標（２）：修士論文

	100～90点	89～85点	84～75点	74～60点	59点以下
①主題の設定	修士論文の規模に見合った、実現可能な主題が適切に設定されている	概ね修士論文の規模に見合った、実現可能な主題がほぼ適切に設定されている	規模または実現可能性について、少し無理がある主題である	規模または実現可能性について、かなり無理がある主題である	修士論文の主題として、規模または実現可能性において不適切である
②先行研究の理解と研究の位置づけ	主題に関する先行研究を十分に検討し、自らの論文をその中に適切に位置づけている	主題に関する先行研究を概ね検討し、自らの論文をその中にほぼ適切に位置づけている	主題に関する先行研究の検討がやや不十分であるが、自らの論文をその中に位置づけようとしている	主題に関する先行研究の検討が不十分であり、自らの論文をその中に適切に位置づけられていない	主題に関する先行研究を全く検討していない
③文献や資料の理解	内容について、その大意を把握しているだけでなく、細部まで正確に言い換え、説明し、その特徴を指摘できる	内容について、その大意を把握しているだけでなく、ある程度まで細部まで正確に言い換え、説明できる	大意を正確に把握し、説明できる	大意を最低限、把握している	大意すらも把握できていない
④主体的に考えられるか	資料の内容について、自分なりの見解を、他の見解をも考慮に入れつつ、提示できる	資料の内容について、自分なりの見解を提示できるが、他の見解への言及がない	資料の使い方などに個性を示しているが、自分なりの見解は持っていない	中心的資料の内容をそのまま追認し、紹介しているだけである	中心的資料の解釈にあたり、ほぼ全面的に他者の解釈に依存している
⑤論文の論理性及び学問性	明確な主張を、当該分野の研究方法を踏まえて、客観的裏付けを示しつつ、説得力をもって提示できている	論理的説得力及び客観的裏付けには弱さを持つが、明確な主張を、当該分野の研究方法を踏まえて提示できている	主張にも論理性にも、明確さを与える努力が認められるが、客観的裏付けが弱く、説得力を欠く	主張自体は明確であるが、根拠づけと論理の展開ができていない	主張が明確でなく、印象を述べているだけで、論理的でない
⑥適切な形式であるか	目次や註、文献表が適切な仕方で付けられており、学術論文としての体裁が整っている	目次や註、文献表がほぼ適切な仕方で付けられており、学術論文としての体裁が概ね整っている	目次や註、文献表が付けられているものの、やや不十分である	目次や註、文献表が適切に付けられているとは言い難い	目次や註、文献表が付けられていない

[東京神学大学学位規則施行細則 第1章 修士 第2節 論文の審査 第21条]

論文の成績は、審査委員の付した点数の平均点とし、採点は100点満点75点以上を合格とする。

成績確認・不服申立について

成績通知表に記載されている評価について次のような疑義や不服がある場合、成績確認を経て、不服を申し立てることができます。

- ・「共通評価指標」（履修の手引 32-33 頁）に照らして、疑義がある場合
- ・成績の誤記入であると思われる場合
- ・その他、具体的な理由がある場合

成績確認および成績不服申立の手順は次の通りです。

1. 成績確認

1-① 授業担当教員に確認する

成績評価を行った担当の教員に、疑問点について確認を依頼してください。

※直接話す、メールで問い合わせるなど、方法や書式は自由です。

1-② 教務課に申し出る

担当の教員と直接コンタクトできない場合は、教務課に申し出て「成績確認依頼書」を受け取り、必要事項を記入して提出してください。2 週間以内に回答します。

2. 成績不服申立

1. 成績確認を経ても疑義が残る場合、教務課に申し出る

教務課に申し出て「成績不服申立書」を受け取り、必要事項を記入して提出してください。教務委員会において審査し、必要に応じて担当教員と審議した上で、2 週間以内に回答します。

◇ 1、2 いずれの場合も、次の期間内におこなってください。

- ・前期の成績についての疑義 → 後期補充登録期間まで
- ・後期の成績についての疑義 → 翌年度の前期補充登録期間まで（進級生のみ。離学者は対象外。）

なお、次のような理由による不服申立は認められません。

- ・「クラスメートと比べて自分の方ができていると思う」といったような主観による判断
- ・「この単位がないと卒業できない」という懇願

修士論文審査結果不服申立について

修士論文が不合格となりその審査結果に疑義のある場合、不服を申し立てることができます。申立がなされた場合、専攻長（専攻長が審査にかかわっている場合は学長の指名する他の教員）が、採点者から採点理由を聞き取り、その合理性を判断します。詳しくは教務課にお尋ねください。

【学籍について】

休学・退学等、学籍に関する異動は、必ず担任に相談のうえ、期日までに「願い出」を整えて教務課に提出してください。願い出には保証人の署名と押印が必要です。担任の了解を得た後、教務課に所定用紙を取りに来てください。

以下学則を参照のこと。

●休学—大学院学則第39条

疾病その他やむをえない事由により、満1カ月以上欠席しようとするときは、前期及び後期の始業週の金曜日迄に保証人連署をもって願い出で、許可を受け、休学することができる。

(1) 申し出期間を過ぎて休学を願い出た者の、当該学期に納めた校納金は返還しない。

(2) 上記校納金を延納又は分納の願い出により完納していない時には、休学が認められても完納しなければならない。

(3) (1)、(2)の者については第47条5は適用されない。

※「第47条第5項」：休学者の在籍料は、1学期につき授業料の5分の1とする。

2 休学期間は1年を越えることができない。ただし、特別の事由のあるときは、あらかじめ許可を受け、さらに、1年以内に限り休学することができる。

3 休学し得る期間は、通算2カ年以内とする。2カ年を経過してなお復学または退学しない場合は除籍する。

4 休学期間は在学期間に算入しない。

●復学—学則第39条第5項

5 休学者が復学しようとするときは、保証人連署をもって願い出で、許可を受けなければならない。

●退学—学則第40条

疾病その他やむをえない事由により、退学しようとする者は、保証人連署をもって願い出で、許可を受けなければならない。

※ これらの手続きを必要とする場合は、学期ごとに願い出を提出します。以下の期日までに手続きをしてください。

2026年度	前期学籍願締切	4月3日(金)13時
	後期学籍願締切	9月25日(金)13時
2027年度	前期学籍願締切	2027年 4月2日(金)13時

【長期履修学生制度について】

神学研究科博士課程前期課程では、教職等に従事しながら修士課程の学びを希望する方を対象とした「長期履修学生制度」を2025年度より導入しました。既にキリスト教職として教会に仕えている、あるいは育児・介護等の事情によって標準修業年限（2年）での履修が困難な方が、4年間に亘って計画的に教育課程を履修し、修了を目指すことができる制度です。履修および修士論文の進捗状況により早期修了も可能です。

授業料については、修士課程2年分の授業料を4年間かけて納めます。ただし、早期修了の場合は、修了時に残額を納付します。学生諸費は在学年数分がかかります。

制度の利用には、入学時または1年次在学中に所定の書面による申請を行い、研究科委員会（教授会）の承認を得る必要があります。詳細は別紙『長期履修学生制度の手引』を参照してください。

【授業計画】

東京神学大学大学院学則第 16 条第 2 項を適用し、また、感染症等の状況に鑑み、多様なメディアを利用して、双方向の通信手段により教室以外の場所で授業を実施する場合があります。

《授業番号について》

全ての授業科目には授業番号が付され、教育課程上の位置を示しています。

桁数	1	2	3	4	5	6	7	8
番号例	M	A	1	2	1	1	0	3
		専攻	分野	授業形態	小分類			
	学位課程	科目区分	科目小区分			配当学年	授業科目番号	

1 桁目：学位課程（学部・大学院）

G: 学部

M: 大学院博士課程前期課程

D: 大学院博士課程後期課程

2 桁目：科目区分（3～5 桁目：科目小区分）

A: 聖書神学専攻（100: 旧約聖書神学, 200: 新約聖書神学）

B: 組織神学専攻（100: 組織神学, 200: 歴史神学, 300: 実践神学）

C: 共同演習

D: 修士論文指導演習（100: 旧約, 200: 新約, 300: 組織, 400: 歴史, 500: 実践, 600: 長期履修）

E: 実践神学研修課程

* 4 桁目（授業形態） 1: 講義, 2: 演習, 3: 特研

*各科目区分は、5 桁目を用いてさらに細かく分類されます。

例えば MA120(旧約聖書神学演習科目)は 121:演習一般, 122:歴史・時代史, 123:原典講読,

124:原典釈義, 125:古典語に分かれます。

6 桁目：配当学年（配当最低学年）

7～8 桁目：授業科目番号

《学位授与方針との関係について》

シラバスには、各授業科目が学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)のどの事項の修得のために開講されているのかが示されています。また、授業計画一覧には、各授業科目と学位授与方針との対応関係(カリキュラム・マップ)が示されています。

[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる

[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

2026年度授業計画 大学院神学研究科
 博士課程前期課程 聖書神学専攻／組織神学専攻

区分	分野等	コード	種別	科目名	担当者	単位		備考	学位授与方針			掲載頁		
						前期	後期		DP1	DP2	DP3			
聖書神学専攻	旧約聖書神学関係	MA111101		旧約聖書神学特講Ⅰ a	田中光教授	/		開講年	○					
		MA111102		旧約聖書神学特講Ⅰ b	田中光教授	/	/	開講年	○					
		MA111103		旧約聖書神学特講Ⅱ a	田中光教授	/		休講年	○					
		MA111104		旧約聖書神学特講Ⅱ b	田中光教授	/	/	休講年	○					
		MA112101		聖書考古学 a		/			○					
		MA112102		聖書考古学 b		/	/		○					
		MA112103		古代オリエント史Ⅰ a		/			○					
		MA112104		古代オリエント史Ⅰ b		/	/		○					
		MA112105		古代オリエント史Ⅱ a		/			○					
		MA112106		古代オリエント史Ⅱ b		/	/		○					
		MA121101		旧約聖書学演習Ⅰ a	矢田洋子特任常勤講師	/		休講年	○					
		MA121102		旧約聖書学演習Ⅰ b	矢田洋子特任常勤講師	/	/	休講年	○					
		MA121103		旧約聖書学演習Ⅱ a	矢田洋子特任常勤講師	2		開講年	○				44	
		MA121104		旧約聖書学演習Ⅱ b	矢田洋子特任常勤講師	2	2	開講年	○				45	
		MA123101		旧約聖書原典講読Ⅰ a	左近豊講師	2			○				46	
		MA123102		旧約聖書原典講読Ⅰ b	宮寄薫常勤講師		2		○				47	
		MA123103		旧約聖書原典講読Ⅱ a	田中光教授	/			○					
		MA123104		旧約聖書原典講読Ⅱ b	宮寄薫常勤講師	/	/		○					
		MA124101		旧約聖書原典釈義Ⅰ a		/		休講年	○					
		MA124102		旧約聖書原典釈義Ⅰ b		/	/	休講年	○					
		MA124103		旧約聖書原典釈義Ⅱ a		/		開講年	○					
		MA124104		旧約聖書原典釈義Ⅱ b		/	/	開講年	○					
		MA125101		ヒブル語Ⅰ	宮寄薫常勤講師	4		院学共通	○				48	
		MA125102		ヒブル語Ⅱ	宮寄薫常勤講師		2	院学共通	○				49	
		MA125103		アラム語 a	佐藤泉講師	/		休講年	○					
		MA125104		アラム語 b	佐藤泉講師	/	/	休講年	○					
		MA125105		シリア語 a	佐藤泉講師	2		開講年	○				50	
		MA125106		シリア語 b	佐藤泉講師		2	開講年	○				51	
		MA125107		アッカド語 a		/			○					
		MA125108		アッカド語 b		/	/		○					
		MA130101		旧約聖書学特研Ⅰ a	田中光教授	/		休講年	○					
		MA130102		旧約聖書学特研Ⅰ b	田中光教授	/	/	休講年	○					
		MA130103		旧約聖書学特研Ⅱ a	田中光教授	2		開講年	○				52	
MA130104		旧約聖書学特研Ⅱ b	田中光教授		2	開講年	○				53			
MD120101	M1専必	修士論文指導演習旧約神学Ⅰ	田中光教授		2		○				81			
MD120202	M2専必	修士論文指導演習旧約神学Ⅱ	田中光教授	2			○				82			
新約聖書神学関係		MA211101		新約聖書学特講Ⅰ a	中野実教授	/		休講年	○					
		MA211102		新約聖書学特講Ⅰ b	中野実教授	/	/	休講年	○					
		MA211103		新約聖書学特講Ⅱ a	中野実教授	/		開講年	○					
		MA211104		新約聖書学特講Ⅱ b	中野実教授	/	/	開講年	○					
		MA221101		新約聖書学演習	中野実教授	/			○					
		MA222101		新約聖書原典釈義Ⅰ a	遠藤勝信講師	/			○					
		MA222102		新約聖書原典釈義Ⅰ b	遠藤勝信講師	/	/		○					
		MA222103		新約聖書原典釈義Ⅱ a	三永旨従講師	2			○				54	
		MA222104		新約聖書原典釈義Ⅱ b	三永旨従講師		2		○				55	
		MA230101		新約聖書学特研Ⅰ a	河野克也特任准教授	2			○				56	
		MA230102		新約聖書学特研Ⅰ b	河野克也特任准教授		2		○				57	
		MA230103		新約聖書学特研Ⅱ a	山口希生特任准教授	2			○				58	
		MA230104		新約聖書学特研Ⅱ b	山口希生特任准教授		2		○				59	
		MD220101	M1専必	修士論文指導演習新約神学Ⅰ	中野実教授 河野克也特任准教授		2	共同担当	○				83	
		MD220202	M2専必	修士論文指導演習新約神学Ⅱ	中野実教授 河野克也特任准教授	2		共同担当	○				84	
		共通		MD600001	長期	修士論文指導演習聖書神学(長期) a	各指導教授	0			○			91
				MD600002	長期	修士論文指導演習聖書神学(長期) b	各指導教授		0		○			92

2026年度授業計画 大学院神学研究科
 博士課程前期課程 聖書神学専攻／組織神学専攻

区分	分野等	コード	種別	科目名	担当者	単位		備考	学位授与方針			掲載頁
						前期	後期		DP1	DP2	DP3	
組織神学専攻	組織神学関係	MB111101		組織神学特講Ⅰa	須田拓教授	2		開講年	○			60
		MB111102		組織神学特講Ⅰb	須田拓教授		2	開講年	○			61
		MB111103		組織神学特講Ⅱa	須田拓教授	/		休講年	○			
		MB111104		組織神学特講Ⅱb	須田拓教授	/		休講年	○			
		MB112101		信条学	須田拓教授	2			○			62
		MB121101		組織神学演習Ⅰa		/			○			
		MB121102		組織神学演習Ⅰb		/			○			
		MB121103		組織神学演習Ⅱa	神代真砂実教授	2			○			63
		MB121104		組織神学演習Ⅱb	神代真砂実教授	2			○			64
		MB121105		組織神学演習Ⅲa		/			○			
		MB121106		組織神学演習Ⅲb		/			○			
		MB130101		組織神学特研Ⅰ	神代真砂実教授	/			○			
		MB130102		組織神学特研Ⅱa	芳賀力講師	2		学則第16条第2項適用・集中	○			65
		MB130103		組織神学特研Ⅱb	芳賀力講師	2		学則第16条第2項適用・集中	○			66
MD320101	M1専必	修士論文指導演習組織神学Ⅰ	神代真砂実教授	2			○			85		
MD320202	M2専必	修士論文指導演習組織神学Ⅱ	神代真砂実教授	2			○			86		
歴史神学関係		MB211101		教会史特講Ⅰa	佐野正子講師	2		開講年	○			67
		MB211102		教会史特講Ⅰb	飯田仰助教	2		開講年	○			68
		MB211103		教会史特講Ⅱa	藤本満講師	/		休講年	○			
		MB211104		教会史特講Ⅱb	藤本満講師	/		休講年	○			
		MB211105		英国教会史		/			○			
		MB212101		教理史特講Ⅰa		/			○			
		MB212102		教理史特講Ⅰb		/			○			
		MB212103		教理史特講Ⅱa		/			○			
		MB212104		教理史特講Ⅱb		/			○			
		MB221101		教会史演習a		/			○			
		MB221102		教会史演習b		/			○			
		MB222101		教理史演習Ⅰa	本城仰太准教授	2		開講年	○			69
		MB222102		教理史演習Ⅰb	本城仰太准教授	2		開講年	○			70
		MB222103		教理史演習Ⅱa	本城仰太准教授	/		休講年	○			
MB222104		教理史演習Ⅱb	本城仰太准教授	/		休講年	○					
MB223101		ラテン語Ⅰ	本城仰太准教授	2		院学共通	○			71		
MB223102		ラテン語Ⅱ	本城仰太准教授	2		院学共通	○			72		
MD420101	M1専必	修士論文指導演習歴史神学Ⅰ	本城仰太准教授	2	2		○			87		
MD420202	M2専必	修士論文指導演習歴史神学Ⅱ	本城仰太准教授	2			○			88		
実践神学関係		MB312101		牧会心理学a		/			○			
		MB312102		牧会心理学b		/			○			
		MB312103		牧会心理学特講a		/			○			
		MB312104		牧会心理学特講b		/			○			
		MB313101		キリスト教教育特講a	長山道教授	/			○			
		MB313102		キリスト教教育特講b	長山道教授	/			○			
		MB321101		実践神学演習a	小泉健教授	2			○			73
		MB321102		実践神学演習b	小泉健教授	2			○			74
		MB322101		臨床牧会教育a	W. ジャンセン教授	2		院学共通		○		75
		MB322102		臨床牧会教育b	W. ジャンセン教授	2		院学共通		○		76
		MB324101		教会音楽a		/			○			
		MB324102		教会音楽b		/			○			
		MB325101		宗教社会学演習a		/			○			
		MB325102		宗教社会学演習b		/			○			
MB332101		牧会カウンセリング特研		/			○					
MB333101		キリスト教教育特研a	長山道教授	2			○			77		
MB333102		キリスト教教育特研b	長山道教授	2			○			78		
MD520101	M1専必	修士論文指導演習実践神学Ⅰ	小泉健教授 長山道教授	2		共同担当	○			89		
MD520202	M2専必	修士論文指導演習実践神学Ⅱ	小泉健教授 長山道教授	2		共同担当	○			90		
共通		MD600003	長期	修士論文指導演習組織神学(長期)a	各指導教授	0			○			93
		MD600004	長期	修士論文指導演習組織神学(長期)b	各指導教授	0			○			94

2026年度授業計画 大学院神学研究科
 博士課程前期課程 聖書神学専攻／組織神学専攻

区分	コード	種別	科目名	担当者	単位		備考	学位授与方針		
					前期	後期		DP1	DP2	DP3
専攻 目攻 間共 同	MC121101		共同演習 a		/			○		
	MC121102		共同演習 b		/			○		
	MC122101		アジア伝道論演習 a	飯田仰助教	2		院学共通	○		
	MC122102		アジア伝道論演習 b	飯田仰助教		2	院学共通	○		
	MC123101		日本伝道論演習 a		/			○		
	MC123102		日本伝道論演習 b		/			○		

掲載頁
79
80

博士課程前期課程 聖書神学専攻／組織神学専攻
 実践神学研修課程 *修士論文を提出し、修了単位取得見込みの者が履修を許可される。

区分	コード	種別	科目名	担当者	単位		備考	学位授与方針			
					前期	後期		DP1	DP2	DP3	
実践 神学 研修 課程 ―必 修 14 単 位	ME111201	M2必修	総合特別講義	講師陣 (2025年度実績)		4	38コマ (76時間)			○	○
			東京神学大学史 I	近藤勝彦名誉教授			2コマ				
			東京神学大学史 II	近藤勝彦名誉教授			2コマ				
			日本基督教団史 I (日本基督教団成立前、日本基督教団成立後)	落合建仁講師			2コマ				
			日本基督教団史 II (教団史と紛争史の視点、「教団紛争」とは 何であったか?)	長山信夫講師			2コマ				
			日本基督教団教憲・教規 I	道家紀一講師			2コマ				
			日本基督教団教憲・教規 II	道家紀一講師			2コマ				
			エキュメニズム I (世界のエキュメニズム)								
			エキュメニズム II (東アジアのエキュメニズム)	朴憲郁名誉教授			2コマ				
			I Tと伝道	春原禎光講師			2コマ				
			青年伝道	野田沢講師			2コマ				
			刑務所伝道	山崎忍講師			2コマ				
			地方伝道	小島誠志講師			2コマ				
			キリスト教の異端とカルトの問題	齋藤篤講師			2コマ				
			在日コリアンと教会	洪性完講師			2コマ				
			キリスト教から考える部落差別	宮本義弘講師			2コマ				
			障がい者と教会	篠浦千史講師			2コマ				
			高齢者ケアと教会	山崎ハコネ講師			2コマ				
			教会付属幼稚園・保育園の使命と課題	小林光講師			2コマ				
			教会者の試練とその克服	加藤幹夫講師			2コマ				
		学校伝道と教会	高橋貞二郎講師			2コマ					
	ME121101	M1必修	説教学演習 I	小泉健教授	2		修論提出前履修可			○	○
	ME121102	M1必修	説教学演習 II	小泉健教授		2	修論提出前履修可			○	○
	ME121203	M2必修	説教学演習 III	神代真砂実学長		2				○	○
	ME121204	M2必修	礼拝学演習	小泉健教授		2				○	○
	ME121205	M2必修	牧会学演習	広田叔弘講師		2				○	○

掲載頁
95
96
97
98
99
100

【学科目概要（シラバス）】

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA121103
旧約聖書学演習Ⅱ a	矢田 洋子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 旧約聖書における「十戒」についての基本的文献を読むことを通して、十戒の理解を深める。		
<到達目標> 旧約聖書の言葉である十戒の解釈について、その考え方の基本を身につける。十戒についての旧約学的基礎知識を得て、自らの理解を再検討し、十戒理解を深める。それに加えて、旧約聖書に記された言葉を、まずは旧約聖書の枠内で捉える意義を理解する。		
<授業の概要> クリュゼマン『自由の擁護』、シュミット『十戒』、大住雄一『神のみ前に立って』を共に読み、その内容をめぐって議論する。毎回、担当者にその内容を要約して報告していただく。		
<履修条件> ヒブル語の知識はなくても支障はない。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション・旧約聖書における「十戒」 第2回 クリュゼマン『自由の擁護』（序論、十戒はいつ成立した、誰に向けられた言葉なのか） p. 7-p. 48 第3回 クリュゼマン『自由の擁護』（序言～安息日を守れ） p. 49-p. 82 第4回 クリュゼマン『自由の擁護』（父母を敬え～貪るな） p. 82-p. 123 第5回 シュミット『十戒』（序、普遍倫理？ 十戒の成立と伝承史） p. 13-p. 59 第6回 シュミット『十戒』（第一戒） p. 63-p. 90 第7回 シュミット『十戒』（第二戒） p. 91-p. 116 第8回 シュミット『十戒』（第三戒、第四戒） p. 117-p. 142 第9回 シュミット『十戒』（第五戒、第六戒） p. 143-p. 167 第10回 シュミット『十戒』（第七戒、第八戒、第九戒） p. 168-p. 190 第11回 シュミット『十戒』（第十戒、あとがき） p. 191-p. 216 第12回 大住雄一『神のみ前に立って』（十戒の序～第二戒） p. 46-p. 109 によって、まとめ1 第13回 大住雄一『神のみ前に立って』（第三戒～第五戒） p. 110-p. 159 によって、まとめ2 第14回 大住雄一『神のみ前に立って』（第六戒～第十戒） p. 160-p. 209 によって、まとめ3 第15回 大住雄一『神のみ前に立って』（まとめ） p. 210-p. 225 によって、まとめ4		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 発表者以外も、毎回、あらかじめテキストを読んで授業にのぞむこと。		
<テキスト> F. クリュゼマン『自由の擁護 社会史の視点から見た十戒の主題』大住雄一訳、新教出版社、1998年 W.H. シュミット『十戒 旧約倫理の枠組の中で』大住雄一訳、教文館、2005 大住雄一『神のみ前に立って 十戒の心』教文館、2015年 ※3冊とも各自で購入		
<参考書・参考資料等> J. J. シュタム・M. E. アンドリュウ『十戒』左近淑・大野恵正訳、新教出版社、1970年 J. シュライナー『十戒とイスラエルの民』酒井一郎・酒井宗代訳、日本基督教団出版局、1992年 大住雄一『聖書 神の言葉をどのように聴くのか』日本キリスト教案出版局、2017年		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容、ディスカッションへの参加度、および、期末レポートによって評価する。 共通評価基準（1）を用いる。		
<課題に対するフィードバックの方法> レポートにはコメントを付して返却する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA121104
旧約聖書学演習Ⅱ b	矢田 洋子	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> ヒブル語の単語に注目して旧約聖書の言葉である「十戒」を読む。		
<到達目標> ヒブル語のコンコーダンスを使えるようになる。それを通して「ヒブル語的に」旧約聖書が読めるようになることを目指す。加えて、もともとヒブル語で書かれた「十戒」についての理解を深める。		
<授業の概要> 「十戒」に登場する重要なヒブル語の単語について、旧約全体での用例を実際に並べることで、その意味の傾向や意味範囲を確かめる。それによって「十戒」の旧約的理解を検討、あるいは既にある理解を批判的に検討し、十戒理解を深める。毎回、担当者に、各単語についてコンコーダンスで検討した内容を発表していただき、それをもとにディスカッションする。		
<履修条件> 特になし。ただし、ヒブル語については、アルファベットの識別など、コンコーダンスや神学用語辞典を利用できる程度のごく基本的知識は身につけていただくこととなります。また、旧約聖書学演習Ⅱaの履修は条件ではないが、そのテキストについての知識があると取り組みやすい。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 彫像 פסל 第3回 妬む קנא 第4回 慈しみ חסד 第5回 みだりに שוא (ל) 第6回 安息日 שבת 第7回 祝福する ברך 第8回 聖別する קדש 第9回 敬う／尊ぶ כבד 長らえる ארך 第10回 殺す רצה 第11回 姦淫する נאף 第12回 盗む גנב 第13回 偽りの שקר 証言 עד 第14回 欲する／貪る חמד 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 発表準備に加えて、毎回、あらかじめ取り上げる単語に注目して聖書を読んでおくこと。		
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia		
<参考書・参考資料等> ヒブル語コンコーダンス；G.Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament</i> , など 旧約神学用語辞典； <i>Theological Dictionary of the Old Testament</i> の各項目		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容、ディスカッションへの参加度、および、期末レポートによって評価する。 共通評価基準（1）を用いる。		
<課題に対するフィードバックの方法> レポートにはコメントを付して返却する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA123101
旧約聖書原典講読 I a	左近 豊	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 旧約聖書ヒブル語本文を批判的の手続きを経ながら読むことを主眼とする。		
<到達目標> 学生がテキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特徴を把握することができるようになる。		
<授業の概要> エレミヤ書と哀歌を取り上げる。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映している。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読み、教会での説教、聖書研究における積義に資する諸資料の紹介と活用の実験を学ぶ。		
<履修条件> ヒブル語文法履修者		
<授業計画> 第1回：エレミヤ書 序 1:1-3 第2回：エレミヤ書 1:4-8 第3回：エレミヤ書 1:9-10 第4回：エレミヤ書 1:11-13 第5回：エレミヤ書 1:14-16 第6回：エレミヤ書 1:17-19 第7回：エレミヤ書 2:1-3 第8回：エレミヤ書 2:4-6 第9回：エレミヤ書 2:7-9 第10回：エレミヤ書 2:10-13 第11回：エレミヤ書 2:14-16 第12回：哀歌 1:3~5 第13回：哀歌 1:6~7 第14回：哀歌 1:8~11 第15回：総括		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分~240分を目安とする。 事前に当該箇所の積義上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。		
<テキスト> <i>Biblia Hebraica Stuttgartensia</i> (BHS)は学生各自で購入すること。		
<参考書・参考資料等> 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i> . (BDB)、L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)</i> 、 文法書: <i>Gesenius' Hebrew Grammar</i> , B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i> , H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i> . 参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i> 、『左近淑著作集 III』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i> , S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i> , E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament (LXX)</i> など		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業参加 60% 期末レポート 40% 評価にあたっては共通評価指標（1）の①~④の内容を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 授業ごとの担当箇所の文献学的考察の発表に対して、本文批評的手続き、積義における注意点、翻訳の的確さ等について授業の中で、適宜コメントおよび解説をする。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA123102
旧約聖書原典講読 I b	宮崎 薫	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 創世記 4 3 章 1 5 節～4 5 章 1 5 節までのヘブライ語原典（マソラ本文）を読む。		
<到達目標> 辞書を用い、ヘブライ語本文の語分析、構文批判等により、テキストを正確に音読でき、文章の意味を深く理解することができる。BHS の脚注記（アパラータス）およびマソラが解読できる。		
<授業の概要> 創世記「ヨセフ物語」の 4 3 章 1 5 節から 4 5 章にかけて 1 節ずつ丁寧に読む。辞書（BDB）を用い原語を丁寧に分析し、翻訳をする。歴史的背景を考慮しつつ、資料説、伝承史等を検討し、文学的特徴、技法や構造、および神学的メッセージを探る。「ヨセフ物語」が書かれた背景や時代、旧約全体における位置づけも考察する。		
<履修条件> ヘブライ語の基礎文法修得者。旧約専攻でなくともよい。		
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 創世記 4 3 : 1 5-1 9 兄たち、再びエジプトに下る 第 3 回 創世記 4 3 : 2 0-2 4 ヨセフの執事と兄たちとのやりとり 第 4 回 創世記 4 3 : 2 5-2 9 ヨセフと兄たちの対面 第 5 回 創世記 4 3 : 3 0-3 4 ヨセフの涙、兄たちとの食事 第 6 回 創世記 4 4 : 1-5 ヨセフ、執事に命じる 第 7 回 創世記 4 4 : 6-1 0 ヨセフの執事と兄たちとのやりとり 第 8 回 創世記 4 4 : 1 1-1 5 銀の盃が発見される、ベニヤミンの窮地 第 9 回 創世記 4 4 : 1 6-2 0 ユダとヨセフのやりとり 第 1 0 回 創世記 4 4 : 2 1-2 5 ユダの嘆願 第 1 1 回 創世記 4 4 : 2 6-3 0 ユダの嘆願 第 1 2 回 創世記 4 4 : 3 1-3 4 ユダの嘆願 第 1 3 回 創世記 4 5 : 1-4 ヨセフの涙、兄たちに身を明かす 第 1 4 回 創世記 4 5 : 5-9 ヨセフの告白 第 1 5 回 創世記 4 5 : 1 0-1 5 ヨセフから父への伝言、兄弟たちとの涙の抱擁		
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 該当箇所の予習は、各自ノートに書いて準備した上で、授業に臨むこと。		
<テキスト> 聖書：Biblia Hebraica Stuttgartensia（BHS）、新共同訳、聖書協会共同訳等の諸翻訳。各自購入する。		
<参考書・参考資料等> 辞書：The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon (BDB)；文法書：左近義慈／本間敏雄『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 年。以上は各自購入。参考書：小林洋一編訳『BHS のマフテアハ』ヨルダン社、1999 年；E. ヴェルトヴァイン『旧約聖書の本文研究』鍋谷／本間共訳、日本キリスト教団出版局、2007 年。以上は図書館蔵書を利用する（教員が授業の中で都度指示する）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業参加度、予習状況と課題発表、レポートにより総合的に評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 学生に課した節の分析・訳については授業内で十分に検討を行う。提出されたレポートはコメントを付して返却する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA125101
ヒブル語 I	宮 崎 薫	<担当形態> 単独
前期・4単位	<登録条件> 通年の登録が望ましい。	
職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 聖書ヒブル語の基礎的な文法を学ぶ。		
<到達目標> ヒブル語文字の読み書きができる。品詞を分析し、平易な聖書ヒブル語の文章が理解できる。		
<授業の概要> テキストによる基礎文法の説明、練習問題、小テスト。		
<履修条件> 単位取得者は継続して後期（ヒブル語Ⅱ）も履修すること。 基本的には未履修者を対象とする内容である。		
<授業計画> 第1回 序 論 ヒブル語とは 文字（アレフベート） 第2回 1 読み方 第1課 字母 写字練習 第3回 第2課 母音記号 第4回 第3課 音節と Shewa 第5回 第4課 母音文字と Mappiq 第6回 第5課・第6課 Dagesh と Rafe、母音の分類と変化 第7回 第7課 喉音 第8回 第8課 アクセント等諸記号、Ketib・Qere 第9回 2 品 詞 第9課 定冠詞、形容詞（1） 第10回 第9課 接続詞 第11回 第10課 代名詞、関係代名詞（1）、疑問詞 第12回 第11課 前置詞、目的辞 第13回 第11課 人称代名詞語尾（1） 第14回 3 動 詞（I） 一強動詞 Qal-- 第15回 第12課 動詞：完了態 第16回 第13課 動詞：未完了態 第17回 第14課 願望形 第18回 第14課 継続 Waw および従属 Waw 第19回 第15課 命令法、不定詞 第20回 第15課 分詞 第21回 第16課 状態動詞 第22回 4 名詞の変化 第17課 語形変化、分類、独立形 第23回 第17課 合成形、形容詞（2） 第24回 第18課 名詞の変化（第一類） 第25回 第18課 不規則変化名詞 第26回 第19課 名詞の変化（第二類）、副詞と形成接辞、所有 第27回 第20課 名詞の変化（第三、第四、第五類）、名詞形成と接辞 第28回 5 代名詞語尾 第21課 人称代名詞語尾（2） I：名詞の人称代名詞語尾 第29回 第21課 II：動詞の人称代名詞語尾 第30回 全体復習 まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 予習・復習を欠かさない。ノートを用い、毎回出される宿題（練習問題）に十分な時間をかけて取り組むこと。		
<テキスト> 左近義慈／本間敏雄『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011年（学生各自で購入する）。 担当者が毎回、レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業参加度、発表、小テスト、期末試験を総合的に評価する。 欠席が1/3以上の場合は評価の対象としない。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 宿題の練習問題は、次回授業において学生に口頭または板書にて解答していただき、答え合わせをする。小テスト等についても授業内に復習時間を設け、必要に応じて個別指導をする。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA125102
ヒブル語Ⅱ	宮崎 薫	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年の登録が望ましい。 後期登録は、前期単位取得者とする。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 聖書ヒブル語の基礎的な文法を学ぶ。		
<到達目標> ヒブル語の単語を分析し、文意を理解して和訳ができる。ヒブル語の文章が正しく音読できる。		
<授業の概要> テキストによる基礎文法の説明、練習問題、小テスト。		
<履修条件> 前期から継続して履修すること。 基本的には未履修者を対象とする。		
<授業計画> 前期より継続 第1回 6 動 詞（Ⅱ） 第2 2課 動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal 第2回 第2 3課 強意語幹：Piel 第3回 第2 3課 強意語幹：Pual、Hithpael 第4回 第2 4課 使役語幹：Hifil 第5回 第2 4課 使役語幹：Hofal 第6回 7 動 詞（Ⅲ） 第2 5課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 第7回 第2 6課 Ayin 喉音、Lamed 喉音動詞、関係代名詞（2） 第8回 第2 7課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 第9回 8 数 詞 第2 8課 基数 第10回 第2 8課 序数、年齢表記 第11回 9 動 詞（Ⅳ） 第2 9課 弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef、Pe Nun 動詞 第12回 第3 0課 弱 Pe 動詞（2）：Pe Waw、Pe Yod 動詞 第13回 第3 1課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 第14回 第3 2課 二重弱動詞 第15回 10 構 文 第3 3課 構文論		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 予習・復習を欠かさない。ノートを用い、毎回出される宿題（練習問題）に、十分な時間をかけて取り組むこと。		
<テキスト> 左近義慈／本間敏雄『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011年 （学生各自で購入する）		
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業参加度、発表、小テスト、期末レポートを総合的に評価する。 欠席が1/3以上の場合は評価の対象としない。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 宿題の練習問題は、次回授業において学生に口頭または板書にて解答していただき、答え合わせをする。小テスト等についても授業内に復習時間を設け、必要に応じて個別指導をする。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA125105
シリア語 a	佐藤 泉	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>通年で履修するのが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。		
<到達目標> ①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。		
<授業の概要> 練習問題に取り組むながら、ペシッタを読むために必要なシリア語文法を学ぶ。		
<履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。		
<授業計画> 第1回：序 シリア語を学ぶ意義等を話し、子音について（1）ヤコブ派の書体を学ぶ。 第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。 第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。 第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。 第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。 第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。 第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。 第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。 第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。 第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。 第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。 第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。 第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。 第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。 第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。		
<テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3 rd .ed., Oxford University Press, London, 1949.（教務課で各自購入する。）		
<参考書・参考資料等> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926. Takamitsu Muraoka, Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden: O. Harrassowitz, 1987		
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」の①～④の内容を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 練習問題等の発表後には授業の中で解説等をする。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA125106
シリア語 b	佐藤 泉	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。		
<到達目標> ①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。		
<授業の概要> シリア語文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、次に旧約聖書をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）		
<履修条件> ヒブル語履修済みであること。シリア語 a 履修済みであること。		
<授業計画> 第1回：不規則動詞について（1） Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。 第2回：不規則動詞について（2） Lâmed 喉音動詞の変化を学ぶ。 第3回：不規則動詞について（3） Pê 'Ālep 動詞の変化を学ぶ。 第4回：不規則動詞について（4） Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。 第6回：不規則動詞について（6） 二重'ayin 動詞の変化を学ぶ。 第7回：不規則動詞について（7） Lâmed 'Ālep・Lâmed Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。 第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。 第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。 第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。 第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。 第13回：旧約聖書のペシッタの講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。 第14回：旧約聖書のペシッタの講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：旧約聖書のペシッタの講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。		
<テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3 rd .ed., Oxford University Press, London, 1949.（教務課で各自購入する。）		
<参考書・参考資料等> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926. Takamitsu Muraoka, Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden: O. Harrassowitz, 1987. J. Payne Smith, A compendious Syriac dictionary: founded upon the Thesaurus Syriacus of R. Payne Smith, Winona Lake, Ind.: Eisenbrauns, 1998.		
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」の①～④の内容を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 練習問題等の発表後には授業の中で解説等をする。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA130103
旧約聖書学特研Ⅱ a	田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> イザヤ書（主に 40-66 章）の解釈		
<到達目標> イザヤ書の預言の原典に親しみ、その神学的深みを理解すること。		
<授業の概要> イザヤ書の中から、多様なテキストを選んで共に積義的に考察し、同時にその神学的意味をディスカッションすることで、理解を深める。		
<履修条件> ヒブル語Ⅰを履修していることが望ましい。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 イザヤ書概説 第3回 イザヤ書 40 章 1-11 節① ヒブル語テキストの講読 第4回 イザヤ書 40 章 1-11 節② 解釈に関する討論 第5回 イザヤ書 42 章 1-9 節① ヒブル語テキストの講読 第6回 イザヤ書 42 章 1-9 節② 解釈に関する討論 第7回 イザヤ書 49 章 1-9 節① ヒブル語テキストの講読 第8回 イザヤ書 49 章 1-9 節② 解釈に関する討論 第9回 イザヤ書 52 章 13 節-53 章 12 節① ヒブル語テキストの講読①（テキストの前半部分まで） 第10回 イザヤ書 52 章 13 節-53 章 12 節② ヒブル語テキストの講読②（テキストの最後まで） 第11回 イザヤ書 52 章 13 節-53 章 12 節③ 解釈に関する討論 第12回 Steve Moyise, "Isaiah in the New Testament," in <i>The Oxford Handbook of Isaiah</i> , ed. by Lena-Sofia Tiemeyer (2020). 第13回 イザヤ書 61 章 1-11 節① ヒブル語テキストの講読 第14回 イザヤ書 61 章 1-11 節② 解釈に関する討論 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分~240分を目安とする。 ヒブル語テキストの講読の場合には単語の分析や私訳を、解釈に関する討論の場合には注解書の読解などを予習として行うことが求められる。		
<テキスト> 聖書（手持ちの翻訳で可）、BHS（Biblia Hebraica Stuttgartensia）		
<参考書・参考資料等> 第12回で用いる S. Moyise の論文は教員が準備する。その他、参考となる書物は、適宜、授業の初回で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業への予習の状況、そして期末のレポート（4000字以上）で評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 授業での口頭によるコメント、期末レポートへのコメントによってフィードバックする。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MA130104
旧約聖書学特研Ⅱ b	田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 原初史（創世記1-11章）の解釈		
<到達目標> 原初史の聖書学的議論を把握しつつ、その神学的メッセージに接近すること。		
<授業の概要> 原初史のテキストを実際に原典で読解しつつ、同時にその読解に基づいて、神学的意味についてディスカッションを行う。		
<履修条件> ヒブル語Ⅰを履修していることが望ましい。		
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション&イントロダクション</p> <p>第2回 創世記・原初史概説</p> <p>第3回 天地創造（創世記1章1節～2章4節）① ヒブル語テキスト読解</p> <p>第4回 天地創造（創世記1章1節～2章4節）② 解釈に関する討論</p> <p>第5回 エデンの園（創世記2章4節～3章24節）① ヒブル語テキスト読解</p> <p>第6回 エデンの園（創世記2章4節～3章24節）② 解釈に関する討論</p> <p>第7回 洪水までのアダムの子孫（創世記4章1節～6章8節）① ヒブル語テキスト読解</p> <p>第8回 洪水までのアダムの子孫（創世記4章1節～6章8節）② 解釈に関する討論</p> <p>第9回 洪水（創世記6章9節～8章22節）①ヒブル語テキスト読解</p> <p>第10回 洪水（創世記6章9節～8章22節）②解釈に関する討論</p> <p>第11回 洪水後の新しい秩序とノアの子孫（創世記9章1節～10章32節）①ヒブル語テキスト読解</p> <p>第12回 洪水後の新しい秩序とノアの子孫（創世記9章1節～10章32節）②解釈に関する討論</p> <p>第13回 バベルの塔とアブラハムに至る系図（創世記11章1節～32節）①ヒブル語テキスト読解</p> <p>第14回 バベルの塔とアブラハムに至る系図（創世記11章1節～32節）②解釈に関する討論</p> <p>第15回 全体のまとめと結論的考察</p>		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 ヒブル語テキストの講読の場合には単語の分析や私訳を、解釈に関する討論の場合には注解書の読解などを予習として行うことが求められる。		
<テキスト> 聖書（手持ちの翻訳で可）、BHS（Biblia Hebraica Stuttgartensia）		
<参考書・参考資料等> 必要なものは適宜、授業の初回で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業への予習の状況、そして期末のレポート（4000字以上）で評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 授業での口頭によるコメント、期末レポートへのコメントによってフィードバックする。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MA222103
新約聖書原典釈義Ⅱ a	三永 旨従	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 山上の説教を中心にマタイによる福音書の中心的メッセージを模索していきます。		
<到達目標> 原典で新約聖書を読む力をつけると共に、マタイの神学的特徴を踏まえた上でマタイの教会論を論じることができるようになることを目指します。		
<授業の概要> 特に、旧約聖書並びにユダヤ教との関連を重視しつつ、山上の垂訓の原典の正確な講読を通して、その構造、中心的テーマを探っていきます。		
<履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者。（聴講生も歓迎します。）		
<授業計画> 第1回 「嵐を鎮める奇跡」、「十字架」の箇所から見られるマタイの神学的特徴 第2回 「ペテロの信仰告白」の箇所の神学的特徴とマタイ的教会論 第3回 マタイ5：1～16の釈義 「幸い」とは何か 第4回 マタイ5：17～26の釈義 「律法と義」に関する問題 第5回 マタイ5：27～48の釈義 「禁止命令」について 第6回 マタイ5章の中心的用語の検討 第7回 マタイ6：1～18の釈義 「施し、祈り、断食」について 第8回 マタイ6：19～24の釈義 「富」に関して 第9回 マタイ6：25～34の釈義 「思い悩むな」について 第10回 マタイ6章の中心的用語の検討 第11回 マタイ7：1～12章の釈義 「求めなさい」について 第12回 マタイ7：13～23の釈義 「狭い門」とは 第13回 マタイ7：24～28の釈義 「家と土台」について 第14回 マタイ7章の中心的用語の検討 第15回 マタイ5～7章の構造に関する検討		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 学生各自が互いに共同し、協力しあってテキストの読みと神学的検討をしてください。		
<テキスト> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (28版) に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧めます。)		
<参考書・参考資料等> LXX (70人訳ギリシャ語旧約聖書)		
<学生に対する評価(方法・基準)> テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標(1)」によって評価します。		
<課題に対するフィードバックの方法> 試験ではなく、学生各自が個別のテーマについて発表する課題について、フィードバックという形で授業で話し合い、教師がそれらについてコメントするという形態をとります。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MA222104
新約聖書原典釈義Ⅱb	三永 旨従	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 山上の説教を中心にマタイによる福音書の神学、特にその教会論を検討する		
<到達目標> 新約聖書原典釈義Ⅱaの継続として原点の読みに基づいたマタイの教会論に迫る		
<授業の概要> 新約聖書原典釈義Ⅱaで検討したマタイの特徴をのまとめ、及び旧約との関連を考察する		
<履修条件> 「新約聖書原典釈義Ⅱa」を履修済みであること		
<授業計画> 第1回 マタイ5～7章の構造についての継続議論 第2回 マタイ5～7章全般に見られる特徴的用語の検討 第3回 マタイ5～7章全般に見られる「天」と「地」についての考察 第4回 マタイが独自に用いる「天国」と「地」との関連について 第5回 主の祈りの中心テーマ 第6回 「偽善」との戦いについての検討 第7回 マタイが独自に用いる「地名」と「地」との関連について 第8回 マタイ5～7章全般に見られる「天」と「地」についての考察 第9回 マタイが独自に用いる「地名」と「地」との関連について 第10回 旧約のイザヤ書との関連 第11回 『インマヌエル・キリスト論』について 第12回 旧約のヨシュア記との関連について 1 第13回 旧約のヨシュア記との関連について 2 第14回 マタイ5～7章の中心をなすテーマについての考察 1 第15回 マタイ5～7章の中心をなすテーマについての考察 2		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 新約聖書原典釈義Ⅱaを参照		
<テキスト> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (28版) に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark, Ltd. (各自で購入することを強く勧めます。)		
<参考書・参考資料等> LXX (70人訳ギリシャ語旧約聖書)		
<学生に対する評価(方法・基準)> テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標(1)」によって評価します。		
<課題に対するフィードバックの方法> 試験ではなく、学生各自が個別のテーマについて発表する課題について、フィードバックという形で授業で話し合い、教師がそれらについてコメントするという形態をとります。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MA230101
新約聖書学特研 I a	河野 克也	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 福音書研究の重要な方法論として物語批評を取り上げる。		
<到達目標> 福音書の研究方法についての基礎的な理解を深めるとともに、文学批評の視点で各福音書を独立したテキストとして精密に読む方法論の習得を目指す。		
<授業の概要> 福音書研究の方法論の歴史を概観し、物語批評を始めとする文学的視点がどのように導入されたか、またどのような成果を上げてきたかを辿り、実際に物語批評の手続きを確認する。		
<履修条件> 新約聖書ギリシア語、新約聖書釈義の履修を終えていること。		
<授業計画>		
第1回 オリエンテーション：福音書研究史の概観（史的イエス研究・資料批判・様式史・編集史） 第2回 物語批評の概観：物語批評の用語解説および解釈例の紹介 第3回 パウエル『物語批評とは何か』1章：「ストーリーとしての聖典」 第4回 パウエル『物語批評とは何か』2章：「文学批評における複数の読み方」 第5回 パウエル『物語批評とは何か』3章：「ストーリーとディスコース（話と語り）」 第6回 パウエル『物語批評とは何か』4章：「出来事」 第7回 パウエル『物語批評とは何か』5章：「登場人物」 第8回 パウエル『物語批評とは何か』6章：「設定」 第9回 パウエル『物語批評とは何か』7章：「聖典としてのストーリー」 第10回 パウエル『物語批評とは何か』補遺：「釈義における物語批評の使用」 第11回 物語批評の事例研究1：洗礼者ヨハネ、殺される（マルコ 6:14-29） 第12回 物語批評の事例研究2：イエスとサマリアの女（ヨハネ 4:1-40） 第13回 物語批評の事例研究3：「大宴会」の譬え（ルカ 14:15-24） 第14回 物語批評の事例研究4：「ファリサイ派の人と徴税人」の譬え（ルカ 18:9-14） 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 事前に指定の課題図書を読み、事例研究の場合には、当該箇所について検討しておくこと。		
<テキスト> Mark Allan Powell, <i>What Is Narrative Criticism?</i> (Minneapolis, MN: Fortress, 1990). 私訳を配布予定 その他、授業において資料を配布する。		
<参考書・参考資料等> David Rhoads, Joanna Dewey, and Donald Michie, <i>Mark as Story: An Introduction to the Narrative of a Gospel</i> , 2nd ed. (Minneapolis, MN: Fortress, 1999). その他、授業において資料を配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が2/3に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業への積極的な参加と期末レポートにより評価する。 レポートは5,000字以上とする。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> コメントを付して返却する。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MA230102
新約聖書学特研 I b	河野 克也	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 福音書研究の重要な展開として、旧約聖書の引用に関する「間テキスト性」の問題を取り上げる。		
<到達目標> 福音書における旧約聖書の引用について、「間テキスト性」の視点を通して理解を深めることを目指す。		
<授業の概要> リチャード・ヘイズの <i>Echoes of Scripture in the Gospels</i> を題材に、新約における旧約引用を「間テキスト性」の観点から分析する視点を得るとともに、具体的にマルコ福音書における旧約引用を検討する。		
<履修条件> 新約聖書ギリシア語、新約聖書釈義の履修を終えていること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション：新約における旧約引用の解釈の課題、「間テキスト性」とは何か 第2回 ヘイズ「序論：イスラエル聖典の比喩的解釈 (Figural Interpretation)」1-14. 第3回 ヘイズ「§1. 聖典解釈者としてのマルコ」「§2. 黙示的裁きと期待 (1)」15-20. 第4回 ヘイズ「§2. 黙示的裁きと期待 (2)」20-29. 第5回 ヘイズ「§2. 黙示的裁きと期待 (3)」29-36. 第6回 ヘイズ「§2. 黙示的裁きと期待 (4)」36-44. 第7回 ヘイズ「§3. 十字架につけられたメシア・イエス (1)」44-57. 第8回 ヘイズ「§3. 十字架につけられたメシア・イエス (2)」57-61. 第9回 ヘイズ「§3. 十字架につけられたメシア・イエス (3)」61-70. 第10回 ヘイズ「§3. 十字架につけられたメシア・イエス (4)」70-78. 第11回 ヘイズ「§3. 十字架につけられたメシア・イエス (5)」78-86. 第12回 ヘイズ「§3. 十字架につけられたメシア・イエス (6)」86-87. 第13回 ヘイズ「§4. 目を覚ましている忍耐」87-97. 第14回 ヘイズ「§5. 啓示されるために隠される」97-103. 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 事前に指定の課題図書を読み、当該箇所について検討しておくこと。		
<テキスト> Richard B. Hays, <i>Echoes of Scriptures in the Gospels</i> (Waco, TX: Baylor University Press, 2015). 私訳を配布予定		
<参考書・参考資料等> Richard B. Hays, <i>Reading Backwards: Figural Christology and the Fourfold Gospel Witness</i> (Waco, TX: Baylor University Press, 2014). リチャード・B・ヘイズ『パウロ書簡にこだまする聖典の声：パウロは「旧約」聖書をどう読んだか』、東よしみ訳（日本キリスト教団出版局、2023年）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が2/3に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業への積極的な参加と期末レポートにより評価する。 レポートは5,000字以上とする。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> コメントを付して返却する。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MA230103
新約聖書学特研Ⅱ a	山口 希生	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 「第二コリント書簡」はパウロの個人的な危機的状況を色濃く反映しているのと同時に、パウロの神学的洞察に根差した、大変内容豊かな書簡である。本書簡の学びを通じてパウロの生涯と神学の両方への理解を深めていく。		
<到達目標> 第二コリント書簡の書かれた状況を理解する。		
<授業の概要> 前期はパウロが第二コリント書簡を書くまでにいたる個人史を最初に探求し、それから第二コリント書簡の構造を分析する。その後本文テキストの解釈に入る。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 イントロダクション&オリエンテーション 第2回 パウロの終末論 第3回 パウロとユダヤ教 第4回 パウロの律法論（1） 第5回 パウロの律法論（2） 第6回 パウロの生涯（1） 第7回 パウロの生涯（2） 第8回 パウロの生涯（3） 第9回 第二コリント書簡の構造 第10回 第二コリント 1:1-11 第11回 第二コリント 1:12-2:13, 7:5-16 第12回 第二コリント 2:14-17 第13回 第二コリント 3:1-11 第14回 第二コリント 3:12-18 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 指定した聖書箇所について、少なくとも一つの注解書を見ておくこと。		
<テキスト> Jerome Murphy-O'Connor, <i>Paul: His Story</i> , Oxford University Press, 2004（担当者が用意するが、学びを深めるためには購入を勧める。）		
<参考書・参考資料等> 適宜授業内で紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が2/3に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業態度、発表、期末試験を総合して評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> コメントを付けて返却する。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MA230104
新約聖書学特研Ⅱ b	山口 希生	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 「第二コリント書簡」はパウロの個人的な危機的状況を色濃く反映しているのと同時に、パウロの神学的洞察に根差した、大変内容豊かな書簡である。本書簡の学びを通じてパウロの生涯と神学の両方への理解を深めていく。		
<到達目標> 積義を通じて、第二コリント書簡への理解を深める。		
<授業の概要> 前期に続き、第二コリント書簡の積義を行っていく。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 インTRODakション&オリエンテーション 第2回 第二コリント 4:1-15 第3回 第二コリント 4:16-5:10 第4回 第二コリント 5:11-17 第5回 第二コリント 5:18-6:2 第6回 第二コリント 6:3-13 第7回 第二コリント 6:14-7:1 第8回 第二コリント 7:2-4 第9回 第二コリント 8-9章 第10回 第二コリント 10:1-11 第11回 第二コリント 10:12-18 第12回 第二コリント 11:1-12:13 第13回 第二コリント 12:14-19 第14回 第二コリント 12:20-13:14 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 指定した聖書箇所について、少なくとも一つの注解書を見ておくこと。		
<テキスト> Jerome Murphy-O'Connor, Paul: His Story, Oxford University Press, 2004（担当者が用意するが、学びを深めるためには購入を勧める。）		
<参考書・参考資料等> 適宜授業内で紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が2/3に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業態度、発表、期末試験を総合して評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> コメントを付けて返却する。		

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MB111101
組織神学特講 I a	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学期毎の登録可	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 義認論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。		
<到達目標> 義認という信仰の重要なテーマについて、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。		
<授業の概要> 義認論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき義認論の姿を模索する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 義認論の論点(1) カトリック教会の義認論(義化)と信仰義認の相違 第3回 義認論の論点(2) 義の転嫁・キリストへの参与の神学 第4回 義認と再生・聖化の関係(1) カール・バルトの場合 第5回 義認と再生・聖化の関係(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第6回 義認と再生・聖化の関係(3) エルゲン・モルトマンの場合 第7回 義認と再生・聖化の関係(4) ロバート・ジェンソンの場合 第8回 義認と再生・聖化の関係(5) コリン・ガントンの場合など 第9回 中間総括 第10回 ローマ・カトリックとルター派の『義認に関する共同宣言』とその問題 第11回 義の転嫁と三位一体論的義認論(1) ピューリタニズムにおける議論 第12回 義の転嫁と三位一体論的義認論(2) 現代の諸神学者における議論 第13回 新しいパウロ研究への応答 第14回 その他の諸課題 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる		
<テキスト> 特になし		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（4,000字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 個別の求めに応じてコメント、指導する。		

組織神学専攻・組織神学関係	授業番号	MB111102
組織神学特講 I b	須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学期毎の登録可	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 神の御業と人間の業の関係をどのように理解したらよいのか、宗教改革期や 17 世紀ピューリタン神学における議論と、現代神学の議論とを学ぶことを通して、深い教義学の理解を持つことを目指す。		
<到達目標> 救いはただ神の恵みによるというプロテスタント的信仰において、キリスト者が伝道し、自発的に（自由）教会を形成することはどのように位置づけられ理解され得るのか、17 世紀ピューリタニズムにおける議論と現代神学における議論を理解し、自らこの問題について考えることができるようになる。		
<授業の概要> 神の御業と人間の業の関係について講義する。論点を整理した上で、17 世紀ピューリタン神学における議論と現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき理解を模索する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 論点の整理 宗教改革者の場合 第3回 17 世紀ピューリタン神学(1) アルミニウス主義と自由意志の問題 第4回 17 世紀ピューリタン神学(2) 無律法主義とその問題 第5回 17 世紀ピューリタン神学(3) リチャード・バクスターの場合 第6回 17 世紀ピューリタン神学(4) ジョン・オーウェンの場合(1) 救済論の文脈 第7回 17 世紀ピューリタン神学(5) ジョン・オーウェンの場合(2) 教会論の文脈 第8回 17 世紀ピューリタン神学(6) トマス・グッドウィン及びその他のピューリタンの場合 第9回 中間総括 第10回 現代神学(1) カール・バルトの場合（聖化論と教会論） 第11回 現代神学(2) ヴォルフハルト・パネンベルク及びユルゲン・モルトマンの場合 第12回 現代神学(3) コリン・ガントンの場合 第13回 現代神学(4) ロバート・ジェンソンの場合 第14回 現代神学(5) その他の神学者の場合 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる		
<テキスト> 特になし		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（4,000字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 個別の求めに応じてコメント、指導する。		

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MB112101
信条学	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 前期のみ開講	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。		
<到達目標> 古代教会の基本信条および宗教改革期以後の代表的な信条の特色を知り、私たちの教会が受け継いできた信仰について深い理解を持つことができる。		
<授業の概要> 信条の歴史的背景を概説した上で、各信条・信仰告白を丁寧読む。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 信条とは何か、信条学とは 第3回 基本信条(1) 使徒信条 第4回 基本信条(2) ニケア・コンスタンティノープリス信条 第5回 基本信条(3) アタナシオス信条 第6回 ルター派の諸信条(1) アウグスブルク信仰告白 第7回 ルター派の諸信条(2) 大教理問答・小教理問答 第8回 ルター派の諸信条(3) 和協信条 第9回 改革派の諸信条(1) 第一スイス信仰告白 第10回 改革派の諸信条(2) 第二スイス信仰告白、ジュネーヴ教会信仰問答 第11回 改革派の諸信条(3) ハイデルベルク信仰問答、その他 第12回 英国の諸信条(1) スコットランド信条、英国国教会39箇条 第13回 英国の諸信条(2) ウェストミンスター信仰告白とサヴォイ宣言 第14回 メソヂェスト教会とバプテスト教会の信仰告白 第15回 日本基督教団信仰告白		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業で扱う信条・信仰告白を読んでくること。		
<テキスト> 特になし。		
<参考書・参考資料等> 『信条集』前後篇、新教出版社（新教セミナーブック4） その他、必要に応じて授業の中で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。共通評価指標(1)に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 提出されたレポートについては、個別の求めに応じてコメントし、指導する。		

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MB121103
組織神学演習Ⅱ a	神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。		
<到達目標> ①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。		
<授業の概要> バルトの『教会教義学』から和解論（第二部）の教会論にあたる「聖霊とキリスト教団の建設」（67節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。		
<履修条件> 難しい学びに挑戦し、自分の可能性を広げようとする意欲を持っていること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、3～13頁（67節 1. 実在の教会①） 第3回 同、13～25頁（同②） 第4回 同、25～40頁（同③） 第5回 同、40～51頁（同④） 第6回 同、52～69頁（67節 2. 教団の成長①） 第7回 同、70～86頁（同②） 第8回 同、87～106頁（67節 3. 教団の保持①） 第9回 同、106～114頁（同②） 第10回 同、115～132頁（67節 4. 教団の秩序①） 第11回 同、132～148頁（同②） 第12回 同、148～166頁（同③） 第13回 同、166～174頁（同④） 第14回 同、174～189頁（同⑤） 第15回 同、189～202頁（同⑥）		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。		
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・和解論Ⅱ／4 主としての僕イエス・キリスト 下』、井上良雄訳（新教出版社、オンデマンド）。学生各自購入のこと。		
<参考書・参考資料等> Karl Barth, <i>Die kirchliche Dogmatik</i> , vol. IV, part 2 ; Karl Barth, <i>Church Dogmatics</i> , vol. IV, part 2 ; Geoffrey W. Bromiley, <i>An Introduction to the Theology of Karl Barth</i> . その他は授業の中で適宜、紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度（30%）および小課題（70%）による。共通評価指標に準拠して評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 提出された課題について、個別の求めに応じて講評・指導する。		

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MB121104
組織神学演習Ⅱb	神代 真砂実	
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 前期と同じ。		
<到達目標> 前期と同じ。		
<授業の概要> バルトの『教会教義学』から和解論（第二部）でのキリスト教的な生活についての議論である「聖霊とキリスト教的愛」（68節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。		
<履修条件> 前期と同じ。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、およびテキスト、203～213頁（68節 1. キリスト教的愛の問題①） 第2回 テキスト、213～225頁（同②） 第3回 同、225～237頁（同③） 第4回 同、237～247頁（同④） 第5回 同、248～263頁（68節 2. 愛の根拠①） 第6回 同、263～275頁（同②） 第7回 同、275～291頁（同③） 第8回 同、292～303頁（同④） 第9回 同、304～316頁（68節 3. 愛の行為①） 第10回 同、316～338頁（同②） 第11回 同、338～354頁（同③） 第12回 同、354～376頁（同④） 第13回 同、377～388頁（68節 4. 愛の特性①） 第14回 同、388～403頁（同②） 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。他は前期と同じ。		
<テキスト> 前期と同じ。		
<参考書・参考資料等> 前期と同じ。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期と同じ。		
<課題に対するフィードバックの方法> 前期と同じ。		

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MB130102																																													
組織神学特研Ⅱ a	芳賀 力	<担当形態> 単独																																													
前期・2単位	<登録条件> 通年の登録が望ましいが、学期毎の登録可																																														
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず																																														
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている																																															
<授業のテーマ> 救済とは何かについて考える。																																															
<到達目標> 神学にはテキストがある。そのテキストの読み方を教会・共同体を視座に捉えて問い直し、救済への問いに答える言葉を獲得する。																																															
<授業の概要> 各回の最初に教員が重要なポイントとなる事項を説明するので、それに基づいて議論し理解を深める。																																															
<履修条件> 組織神学専攻以外の人も履修することができる。																																															
<p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>「神学の小径Ⅳ — 救済への問い」第1章</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>同上</td> <td>第2章</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>同上</td> <td>第3章</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>同上</td> <td>第4章</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>同上</td> <td>第5章</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>同上</td> <td>第6章</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>同上</td> <td>第7章</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>同上</td> <td>第8章</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>同上</td> <td>第9章</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>同上</td> <td>第10章</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>同上</td> <td>第11章</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>同上</td> <td>第12章</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>同上</td> <td>第13章、14章</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>同上</td> <td>第15章、16章</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>同上</td> <td>第17章、18章</td> </tr> </table>			第1回	「神学の小径Ⅳ — 救済への問い」第1章		第2回	同上	第2章	第3回	同上	第3章	第4回	同上	第4章	第5回	同上	第5章	第6回	同上	第6章	第7回	同上	第7章	第8回	同上	第8章	第9回	同上	第9章	第10回	同上	第10章	第11回	同上	第11章	第12回	同上	第12章	第13回	同上	第13章、14章	第14回	同上	第15章、16章	第15回	同上	第17章、18章
第1回	「神学の小径Ⅳ — 救済への問い」第1章																																														
第2回	同上	第2章																																													
第3回	同上	第3章																																													
第4回	同上	第4章																																													
第5回	同上	第5章																																													
第6回	同上	第6章																																													
第7回	同上	第7章																																													
第8回	同上	第8章																																													
第9回	同上	第9章																																													
第10回	同上	第10章																																													
第11回	同上	第11章																																													
第12回	同上	第12章																																													
第13回	同上	第13章、14章																																													
第14回	同上	第15章、16章																																													
第15回	同上	第17章、18章																																													
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 各回、前もって目を通しておくこと。																																															
<テキスト> 芳賀力『神学の小径Ⅳ — 救済への問い』キリスト新聞社、2019年 ※各自で用意する																																															
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業内で指示する。																																															
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。																																															
<課題に対するフィードバックの方法> レポートは、個別の求めに応じてコメントし、指導する。																																															

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MB130103
組織神学特研Ⅱb	芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年の登録が望ましいが、学期毎の登録可	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 終末からの光のもとで、中間時を生きる教会について考える。		
<到達目標> 神学にはテキストがある。そのテキストの読み方を教会・共同体を視座に捉えて問い直し、成就への問いに答える言葉を獲得する。		
<授業の概要> 各回の最初に教員が重要なポイントとなる事項を説明するので、それに基づいて議論し理解を深める。		
<履修条件> 組織神学専攻以外の人も履修することができる。		
<授業計画> 第1回 「神学の小径Ⅴ — 成就への問い」 第1章 第2回 同上 第2章 第3回 同上 第3章 第4回 同上 第4章 第5回 同上 第5章 第6回 同上 第6章 第7回 同上 第7章 第8回 同上 第8章 第9回 同上 第9章 第10回 同上 第10章 第11回 同上 第11章 第12回 同上 第12章 第13回 同上 第13章 第14回 同上 第14章、15章 第15回 同上 第16章、17章		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 各回、前もって目を通しておくこと。		
<テキスト> 芳賀力『神学の小径Ⅴ — 成就への問い』キリスト新聞社、2023年 ※各自で用意する		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業内で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> レポートは、個別の求めに応じてコメントし、指導する。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MB211101
教会史特講 I a	佐野 正子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 16・17世紀イングランドにおけるプロテスタント諸教派の成立とその歴史		
<到達目標> 宗教改革後にイングランドにおいて成立した諸教派の歴史とその特徴を理解する。歴史神学の第一次資料を読み解く力を養う。		
<授業の概要> 16世紀から17世紀にかけて成立したイングランドのプロテスタント諸教派の歴史とその特徴を、講義と参加学生による発表という形式で学ぶ。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 イギリスにおけるプロテスタント諸教派の歴史概観 第3回 イングランド国教会（主教制）の成立とその歴史 第4回 イングランド国教会（主教制）の特徴 第5回 長老派の成立とその歴史 第6回 長老派の特徴 第7回 会衆派の成立とその歴史 第8回 会衆派の特徴 第9回 バプテスト派の成立とその歴史 第10回 バプテスト派の特徴 第11回 長老派・会衆派・バプテスト派の信仰告白（「ウェストミンスター信仰告白」「サヴォイ宣言」「第二ロンドン信仰告白」）の比較-類似点 第12回 長老派・会衆派・バプテスト派の信仰告白（「ウェストミンスター信仰告白」「サヴォイ宣言」「第二ロンドン信仰告白」）の比較-相違点 第13回 フレンズ派（クェーカー）の成立とその歴史、特徴 第14回 諸教派の新大陸アメリカにおける展開 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 配布資料を読み、授業で示される参考書で学びを深めること。		
<テキスト> プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> シェリダン・キリー他編『イギリス宗教史-前ローマ時代から現代まで』法政大学出版局、浜林正夫『イギリス宗教史』大月書店、その他は授業において必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度・発表・期末レポートにより、共通評価指標(1)に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 授業毎に提出されるコメントシートに基づき、次の授業の冒頭でいくつか代表的なコメントを紹介し、コメントシートに記された質問に答えて、応答する。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MB211102
教会史特講 I b	飯田 仰	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> カッパドキア教父の神学思想を学び、特にカエサリアのバシレイオスを中心に理解を深める。		
<到達目標> カッパドキア教父に見られる教会の歴史と教理の発展を概観できるようになる。また、一次史料を読み込み、史料を用いることによる歴史神学研究の方法論を習得し、教会史を歴史神学的に論じることができるようになる。		
<授業の概要> 毎回のテーマに関連するレジュメと史料を配布しての講義及び学生とのディスカッションを行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 ガイダンス、カッパドキア教父の生涯及び時代背景、史料の概略と古代書簡学について 第2回 カエサリアのバシレイオス：創造論① 『書簡』及び『聖霊論』から見る創造論について 第3回 カエサリアのバシレイオス：創造論② 『ヘクサエメロン』から見る創造論について 第4回 カエサリアのバシレイオス：三位一体論① 位格の理解について 第5回 カエサリアのバシレイオス：三位一体論② 『書簡』に見られる三位一体論について 第6回 カエサリアのバシレイオス：三位一体論③ 『エウノミオス反駁』からの特徴について 第7回 カエサリアのバシレイオス：教会論① 『書簡』及び『聖霊論』から見る教会論について 第8回 カエサリアのバシレイオス：教会論② 「コイノニア」他の特徴的概念について 第9回 カエサリアのバシレイオス：修道制とその神学思想 『書簡』から見る修道制について 第10回 カエサリアのバシレイオス：教育論 『若者たちへ：ギリシア文学を読むことについて』より 第11回 ニュッサのグレゴリオス：『エウノミオス反駁』より 第12回 ニュッサのグレゴリオス：『人間創造論』、『教理大講話』他より 第13回 ナジアンゾスのグレゴリオス：『神学講話』より 第14回 ナジアンゾスのグレゴリオス：『書簡』より 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 配布テキスト（日本語、英語、ギリシャ語）をよく読んで準備すること。また、教会史Iの内容を主によく復習しておくこと。授業内で紹介する先行研究を読み準備すること。		
<テキスト> アンソニー・メレディス『カッパドキア教父：キリスト教とヘレニズムの遺産』（津田謙治訳、新教出版社、2011年）。一次史料と共に担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> J・メイエンドルフ『ビザンティン神学：歴史的傾向と教理的主題』（鈴木浩訳、新教出版社、2009年）。J.N.D.ケリー『初期キリスト教教理史<上><下>』（津田謙治訳、一麦出版社、2010年）、他。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①事前準備の具合（テキストの読み込み）、②授業での議論への積極的な参加、③期末レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 提出された課題について個別の求めに応じて個別指導する。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MB222101
教理史演習 I a	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 様々な教理が、二千年にわたる信条や信仰告白の中にどのように落とし込まれているかを学ぶ。具体的なテーマは「祈りの法則と信仰の法則」（テキストの第六章）。		
<到達目標> 数多くの信条や信仰告白に触れながら（一次史料として配布する）、各時代における礼拝と教理の関係、すなわち「祈りの法則と信仰の法則」について、論じられるようになる。また、史料を用いる力を養い、関連する教理を論じられるようになる。		
<授業の概要> 毎回のテーマに関連する史料を配布しての講義、学生による発表（一人当たり1～2回）、ディスカッションを行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 ガイダンス、テキストについて 第2回 祈りと信仰告白の関係 第3回 信仰告白の中の主の祈り①：教育的プログラムとしての主の祈り 第4回 信仰告白の中の主の祈り②：教派間での信仰告白の違い（聖餐論） 第5回 信仰告白の中の主の祈り③：教派間での信仰告白の一致（主の祈り） 第6回 祈りの法則、信仰の法則①：アクィタニアのプロスペルの定義 第7回 祈りの法則、信仰の法則②：聖霊の神性 第8回 祈りの法則、信仰の法則③：聖徒の交わり 第9回 祈りの法則、信仰の法則④：聖画像 第10回 祈りの法則、信仰の法則⑤：信仰告白と祈祷書の関係 第11回 礼拝の中での信条の位置①：古代から中世 第12回 礼拝の中での信条の位置②：宗教改革期以降 第13回 教会会議と礼拝での信仰告白①：信仰の法則から祈りの法則へ 第14回 教会会議と礼拝での信仰告白②：礼拝の中での信条の賛美 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 教会史I～IVの関連する事柄や史料をよく復習しておくこと。また配布テキストをよく読んでおくこと。		
<テキスト> J.ペリカン『クレド』（本城仰太訳、教文館、2025年）の第六章「祈りの法則と信仰の法則」（初回にプリントを配布する）。その他必要な史料は授業中に配布、または指示する。		
<参考書・参考資料等> ケリー『初期キリスト教信条史』（服部修訳、一麦出版社、2011年）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点后、コメントをつけて返却する。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MB222102
教理史演習 I b	本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 様々な教理が、二千年にわたる信条や信仰告白の中にどのように落とし込まれているかを学ぶ。具体的なテーマは「一致の定式—またその不一致」（テキストの第七章）。		
<到達目標> 数多くの信条や信仰告白に触れながら（一次史料として配布する）、二千年にわたって、信条や信仰告白によって、どのように一致してきたか、または異端を斥けてきたかについて、論じられるようになる。また、史料を用いる力を養い、関連する教理を論じられるようになる。		
<授業の概要> 毎回のテーマに関連する史料を配布しての講義、学生による発表（一人当たり1～2回）、ディスカッションを行う。		
<履修条件> 特になし		
<p><授業計画></p> <p>第1回 ガイダンス、テキストについて</p> <p>第2回 一致の定式—またその不一致</p> <p>第3回 アナテマ信条と論争①：ニカイアとカルケドン公会議におけるアナテマ</p> <p>第4回 アナテマ信条と論争②：新約聖書におけるアナテマ</p> <p>第5回 アナテマ信条と論争③：16世紀の信仰告白におけるアナテマ</p> <p>第6回 直接・間接的非難①：新しいアナテマ定式</p> <p>第7回 直接・間接的非難②：プロテスタント教会のミサ批判</p> <p>第8回 一致の道具としての信条と信仰告白①：『和協信条』他</p> <p>第9回 一致の道具としての信条と信仰告白②：『カルケドン公会議の信仰定式』</p> <p>第10回 一致の道具としての信条と信仰告白③：一致の定式の機能</p> <p>第11回 一致の聖霊と一致の sacrament ①：フィリオクエ問題</p> <p>第12回 一致の聖霊と一致の sacrament ②：エキュメニカル信条の不一致の定式</p> <p>第13回 一致の聖霊と一致の sacrament ③：聖餐論の分裂</p> <p>第14回 一致の聖霊と一致の sacrament ④：聖餐論における一致の試み</p> <p>第15回 まとめ</p>		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 教会史I～IVの関連する事柄や史料をよく復習しておくこと。また配布テキストをよく読んでおくこと。		
<テキスト> J.ペリカン『クレド』（本城仰太訳、教文館、2025年）の第七章「一致の定式—またその不一致」（初回にプリントを配布する）。その他必要な史料は授業中に配布、または指示する。		
<参考書・参考資料等> ケリー『初期キリスト教信条史』（服部修訳、一麦出版社、2011年）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点后、コメントをつけて返却する。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MB223101
ラテン語 I	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> ラテン語の基礎文法を習得する。		
<到達目標> ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン教父を読むための基礎作りをする。		
<授業の概要> テキストに即してUnit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。		
<履修条件> 学部で単位を取得した者は履修に制限を設ける場合がある（聴講は可）。		
<授業計画> 第1回 導入、J. F. Collins, <i>Primer of Ecclesiastical Latin</i> の Unit 1 第2回 Unit 2 第3回 Unit 3 第4回 Unit 4 第5回 Unit 5 第6回 Unit 6 第7回 Unit 7 第8回 Unit 8 第9回 Unit 9 第10回 Unit 10 第11回 Unit 11 第12回 Unit 12 第13回 Unit 13 第14回 Unit 14 第15回 総括 期末試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回、課題（テキストの練習問題）をやってくる。毎回、模範解答を配布し、課題の解説をしてフィードバックを行う。		
<テキスト> 担当者が用意するプリント（日本語訳）		
<参考書・参考資料等> 小林標『ラテン語の世界 ローマが残した無限の遺産』（中公新書、2006）、水谷智洋編『<改訂版>羅和辞典』（研究社）（各辞典については初回授業で説明する）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、試験（50%）と授業での課題（50%）によって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 毎回の授業で質問を受け付け、試験は採点后、コメントをつけて返却する。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MB223102
ラテン語Ⅱ	本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> ラテン語の基礎文法を習得し、ラテン語の文章を読んでいく。		
<到達目標> ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン語の信条、ラテン教父の文章を読むことができるようにする。		
<授業の概要> テキストに即して Unit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。後半はラテン語聖書ウルガタ、ラテン語の信条の文章を読んでいく。		
<履修条件> 学部で単位を取得した者は履修に制限を設ける場合がある（聴講は可）。		
<授業計画> 第1回 J. F. Collins, <i>Primer of Ecclesiastical Latin</i> の Unit 15 第2回 Unit 16 第3回 Unit 17 第4回 Unit 18 第5回 Unit 19 第6回 Unit 20 第7回 Unit 21 第8回 Unit 22 第9回 Unit 23 第10回 ラテン語の信条テキストを読む①（古ローマ信条） 第11回 ラテン語の信条テキストを読む②（使徒信条） 第12回 ラテン語の信条テキストを読む③（ニカイア・コンスタンティノポリス信条） 第13回 ラテン語聖書ウルガタを読む①（ヨハネによる福音書 1:1-9） 第14回 ラテン語聖書ウルガタを読む②（ヨハネによる福音書 1:10-18） 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回、課題（テキストの練習問題や講読）をやってもらうこと。毎回、模範解答を配布し、課題の解説をしてフィードバックを行う。		
<テキスト> 担当者が用意するプリント（日本語訳）		
<参考書・参考資料等> 水谷智洋編『<改訂版>羅和辞典』（研究社）、R. Gryson (ed.), <i>Biblia Sacra Vulgata</i> , Deutsche Bibelgesellschaft, Editio quinta(5 th ed.), 2007		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、レポート（50%）と授業での課題（50%）によって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点后、コメントをつけて返却する。		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MB321101
実践神学演習 a	小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 前期は加藤常昭の『説教論』『愛の手紙・説教』から、加藤の説教論の全体像について考察する。		
<到達目標> 「説教の出来事性」について、加藤の主張を踏まえ、自分なりの意見をまとめること。		
<授業の概要> 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。		
<履修条件>		
<授業計画> <p>第1回 オリエンテーション 加藤常昭の説教論について</p> <p>第2回 『説教論』第三章 一 われわれの課題</p> <p>第3回 二 説教とは何か——説教を説教たらしめるもの・説教が造りだすもの</p> <p>第4回 三 説教とは何か——神の言葉としての説教</p> <p>第5回 四 われわれはいかなる説教をみざすのか</p> <p>第6回 『愛の手紙・説教』第一の考察 聖書を説く言葉・説教</p> <p>第7回 第二の考察 届くべき言葉・説教</p> <p>第8回 第三の考察 終末論的出来事という言葉・説教（108頁まで）</p> <p>第9回 承前（108頁から）</p> <p>第10回 第四の考察 教会を造り上げる言葉・説教（168頁まで）</p> <p>第11回 承前（168頁から）</p> <p>第12回 第五の考察 愛の手紙・説教（一～三）</p> <p>第13回 承前（四～六）</p> <p>第14回 承前（七～九の4）</p> <p>第15回 承前（九の5、一〇）</p>		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。		
<テキスト> 加藤常昭『愛の手紙・説教 今改めて説教を問う』教文館、2000年。 （加藤常昭『説教論』日本キリスト教団出版局、1993年の該当箇所は、担当者が用意する。）		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、授業の中で担当者が紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、討論への参加によって評価する。評価は、共通評価指標（1）の全体による。		
<課題に対するフィードバックの方法> 発表に対しては授業の中で応答や指導を行う。討論に対しても随時応答する。		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MB321102
実践神学演習 b	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 後期は加藤常昭『出来事の言葉・説教』から、加藤の説教論の全体像についての考察を深める。		
<到達目標> 「説教の出来事性」について、加藤の主張を踏まえ、自分なりの意見をまとめること。		
<授業の概要> 毎回発表者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。		
<履修条件>		
<授業計画> <p>第1回 オリエンテーション 加藤常昭の説教論について</p> <p>第2回 『文学としての説教』第三章 文学としての説教の可能性と必然性（一、二）</p> <p>第3回 承前（三、四）</p> <p>第4回 承前（五、六）</p> <p>第5回 『出来事の言葉・説教』第一章 出来事の言葉・説教</p> <p>第6回 第二章 再び問う、出来事の言葉を（71頁まで）</p> <p>第7回 承前（71頁から）</p> <p>第8回 第三章 伝道し、教会を造る説教</p> <p>第9回 第四章 改めて問うわれわれの課題 第一の問題連関</p> <p>第10回 第二の問題連関</p> <p>第11回 第三の問題連関</p> <p>第12回 第五章 私の説教を語る 基本的考察</p> <p>第13回 説教を読む 第一の説教</p> <p>第14回 第二の説教</p> <p>第15回 第三の説教</p>		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。		
<テキスト> 加藤常昭『出来事の言葉・説教』教文館、2011年。 （加藤常昭『文学としての説教』日本キリスト教団出版局、2008年の該当箇所は担当者が用意する。）		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、授業の中で担当者が紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、討論への参加によって評価する。評価は、共通評価指標（1）の全体による。		
<課題に対するフィードバックの方法> 発表に対しては授業の中で応答や指導を行う。討論に対しても随時応答する。		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MB322101
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での的確に対応することができる		
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にすること。		
<授業の概要> 救世軍ブース記念病院を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパービジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 自叙伝の発表 第3回 牧会を考える映画を見る。 第4回 第3回の授業で見た映画のディスカッションを行う。 第5回 院長による精神病理の講義。病院見学。 第6回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。 *病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーバイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。 「共通評価指標（1）」によって総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> グループスーパービジョンと個人スーパービジョンでフィードバックする。		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MB322102
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる		
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にすること。		
<授業の概要> 救世軍ブース記念病院を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパービジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。 講義は登録者 2 人以上から 6 人未満で成立する。		
<p><授業計画></p> <p>*各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。</p> <p>*面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。</p> <p>*各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</p> <p>第 1 回から第 15 回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>		
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。 「共通評価指標（1）」によって総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> グループスーパービジョンと個人スーパービジョンでフィードバックする。		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MB333101
キリスト教教育特研 a	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 教育に関する現代の著作を読み、キリスト教が教育に与えた影響の大きさを知る		
<到達目標> 現代ドイツの神学書を理解できるようになる		
<授業の概要> テキストを精読し、いくつかの発問に回答して理解を深め、ディスカッションを行う		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 神学のテーマとしての教育？ 1 宗教と教育 第2回 神学のテーマとしての教育？ 2 教育学に対する神学の貢献と課題 第3回 歴史的文脈 1 概念と対象 第4回 歴史的文脈 2 教育概念とその宗教的ルーツ 第5回 歴史的文脈 3 聖書的関連 a 創造 第6回 歴史的文脈 3 聖書的関連 b 教示と知恵 第7回 歴史的文脈 3 聖書的関連 c 人間の再生 第8回 歴史的文脈 3 聖書的関連 d 聖書の信仰への入口としてのキリスト教教育 第9回 歴史的文脈 4 古代および中世における教育と教会 a 「書物の宗教」としてのキリスト教 第10回 歴史的文脈 4 古代および中世における教育と教会 b 教会的教育機関と伝統 第11回 歴史的文脈 5 近代的地平における教育とキリスト教 a 宗教に代わる教育 第12回 歴史的文脈 5 近代的地平における教育とキリスト教 b フンボルト 第13回 歴史的文脈 5 近代的地平における教育とキリスト教 c 唯物論、実証主義、進化論 第14回 歴史的文脈 5 近代的地平における教育とキリスト教 d 教育と人格性 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 テキストを熟読してくること。不明な点は調べておくこと		
<テキスト> Friedrich Schweitzer, <i>Bildung</i> , Christoph Auffarth, Irene Dingel, Bernd Janowski, <i>Friedrich Schweitzer, Christoph Schwöbel und Michael Wolter (hrsg.), Theologische Bibliothek Band II</i> , Neukirchen-Vluyn, 2014. 担当者が訳文を準備する		
<参考書・参考資料等> 授業内で適宜指示する		
<学生に対する評価（方法・基準）> ディスカッションによって、共通評価指標(1)①～②に基づき評価する		
<課題に対するフィードバックの方法> 解説、講評、個別のコメントをする		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MB333102
キリスト教教育特研 b	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 教育に関する現代の著作を読み、キリスト教が教育に与えた影響の大きさを知る		
<到達目標> 現代ドイツの神学書を理解できるようになる		
<授業の概要> テキストを精読し、いくつかの発問に回答して理解を深め、ディスカッションを行う		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 歴史的文脈5 近代的地平における教育とキリスト教 e フリットナー 第2回 歴史的文脈5 近代的地平における教育とキリスト教 f リッケン 第3回 歴史的文脈5 近代的地平における教育とキリスト教 g 宗教・世界観の多元性における教育 第4回 組織的文脈1 今日の教育はいかに議論されるべきか 第5回 組織的文脈2 人間から何が生じるべきか 第6回 組織的文脈3 共同生活はいかに成功しうるか 第7回 組織的文脈4 なぜ教育はもっと必要なのか 第8回 組織的文脈5 信仰はいかに人を変えるか 第9回 組織的文脈6 なぜ今日の教育は宗教間でも必要なのか 第10回 教育実践の観点1 宗教なくして教育なし、教育なくして宗教なし 第11回 教育実践の観点2 学校における宗教 第12回 教育実践の観点3 教会における教育 a 教会の教育機会と教育権 第13回 教育実践の観点3 教会における教育 b 堅信礼教育、成人教育 第14回 教育と超越 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 テキストを熟読してくること。不明な点は調べておくこと		
<テキスト> Friedrich Schweitzer, <i>Bildung</i> , Christoph Auffarth, Irene Dingel, Bernd Janowski, Friedrich Schweitzer, Christoph Schwöbel und Michael Wolter (Hrsg.), <i>Theologische Bibliothek Band II</i> , Neukirchen-Vluyn, 2014. 担当者が訳文を準備する		
<参考書・参考資料等> 授業内で適宜指示する		
<学生に対する評価（方法・基準）> ディスカッションによって、共通評価指標(1)①～②に基づき評価する		
<課題に対するフィードバックの方法> 解説、講評、個別のコメントをする		

専攻間共同科目	授業番号	MC122101
アジア伝道論演習 a	飯田 仰	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 今日の伝道（宣教）学について、及び関連する課題について学ぶ。		
<到達目標> 履修者が伝道（宣教）学の基本的な内容を理解し、その知識を実践において活用できるようになることを目指す。また、伝達の方法論としての異文化コミュニケーションにおける理解を深め、異文化理解力を向上させる力を身につける。		
<授業の概要> 伝道（宣教）学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの宣教学を一つずつ学ぶ。また、在留外国人とのコミュニケーションを視野に入れた異文化理解力の向上を図るための探究を、エリン・メイヤーの書籍を通して行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 伝道論（宣教学）とは何かについて：聖書神学的及び組織神学的見解 第2回 伝道論（宣教学）の歴史的経緯と現状について、ニュービギンの宣教学について 第3回 ニュービギン『宣教学入門』第1章、第2章 第4回 ニュービギン『宣教学入門』第3章 第5回 ニュービギン『宣教学入門』第4章 第6回 ニュービギン『宣教学入門』第5章、第6章 第7回 ニュービギン『宣教学入門』第7章 第8回 ニュービギン『宣教学入門』第8章 第9回 ニュービギン『宣教学入門』第9章 第10回 ニュービギン『宣教学入門』第10章 第11回 メイヤー『異文化理解力』第1章、第2章 第12回 メイヤー『異文化理解力』第3章、第4章 第13回 メイヤー『異文化理解力』第5章、第6章 第14回 メイヤー『異文化理解力』第7章、第8章 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 指定テキストの該当箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。		
<テキスト> レスリー・ニュービギン『宣教学入門』日本キリスト教団出版局、エリン・メイヤー『異文化理解力』英治出版。 学生各自で購入する。		
<参考書・参考資料等> デイヴィッド・J・ボッシュ『宣教のパラダイム転換（上巻）（下巻）』東京ミッション。小山晃佑『水牛神学』教文館。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000字以上）などによって評価する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標①～⑤を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 提出されたレポートにコメントを付して返却する。		

専攻間共同科目	授業番号	MC122102
アジア伝道論演習 b	飯田 仰	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 中国のキリスト教史及び代表的な神学者の思想について学び、今日の中国におけるキリスト教事情について探究する。		
<到達目標> 履修者は、中国のキリスト教史と神学思想を概観することを通して、中国キリスト教事情の理解を深める。中国キリスト教の現状理解を深めることによって、日本での伝道の糸口を見出すことができるようになる。		
<授業の概要> 中国キリスト教史を概観し、公認教会と家庭教会の違いについて学ぶ。その後、20世紀の家庭教会を代表する王明道の生涯と神学思想を学びつつ、アジア文化の中での伝道論について共に考える。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 中国近現代史、中国におけるキリスト教伝道（宣教）の歴史について 第2回 『はじめての中国キリスト教史』第1章（東シリア教会と中国）、“Faithful” pp. 21-23 第3回 『はじめての中国キリスト教史』第2章（明清時代のカトリック教会）、“Faithful” pp.25-27 第4回 『はじめての中国キリスト教史』第3章（十九世紀中期の中国キリスト教）、“Faithful” pp. 28-30 第5回 『はじめての中国キリスト教史』第4章（清末の中国社会とキリスト教——一八六〇年から一九一一年まで—）、“Faithful” pp. 31-33 第6回 『はじめての中国キリスト教史』第5章（中華民国の社会とキリスト教——一九一二年から一九四九年まで—）、“Faithful” pp. 34-36 第7回 『はじめての中国キリスト教史』第6章（十九世紀末から日中戦争終結までの日本と中国の教会）、“Faithful” pp. 37-39 第8回 『はじめての中国キリスト教史』第7章（アジア・太平洋戦争期の「中華基督教団」）、“Faithful” pp. 40-42 第9回 『はじめての中国キリスト教史』第8章（中華人民共和国におけるキリスト教——一九四九年から現在まで—）、“Faithful” pp. 43-45 第10回 『生命の冠』第一部（第1章—第3章） pp. 12-89、Starr pp. 1-14 第11回 『生命の冠』第一部（第4章—第5章） pp. 90-143、Starr pp. 185-193 第12回 『生命の冠』第一部（第6章—第8章） pp. 144-197、Starr pp. 193-200 第13回 『生命の冠』第一部（第9章—第11章） pp. 198-237、Starr pp. 200-207 第14回 『生命の冠』第二部・第三部 pp. 240-306、Starr pp. 207-212 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 指定テキストの該当箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。		
<テキスト> 石川照子他『増補改訂版 はじめての中国キリスト教史』かんよう出版。学生各自で購入する。 王明道『生命の冠』マルコーシュ・パブリケーション。授業の中で教員が指示する。		
<参考書・参考資料等> Chloë Starr. <i>Chinese Theology: Text and Context</i> . Yale University Press, 2016. Wang Yi and Others. <i>Faithful Disobedience: Writings on Church and State from a Chinese House Church Movement</i> . IVP Academic, 2022. エヴァン・オズノス『ネオ・チャイナ：富、真実、心のよりどころを求める13億人の野望』白水社。イアン・ジョンソン『信仰の現代中国：心のよりどころを求める人びとの暮らし』白水社。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000字以上）などによって評価する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標①～⑤を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 提出されたレポートにコメントを付して返却する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MD120101
修士論文指導演習 旧約神学 I	田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 旧約聖書学の範疇で修士論文を作成すること。		
<到達目標> 修士論文の作成を通して、自らの神学的問いを発見し、その問いと取り組むことによって一つの答えを導き出すこと。		
<授業の概要> 序盤で論文の書き方を確認し、その後、次のような順で学生に発表していただく。1) 興味関心を持つ主題・テキストの選定、2) 興味関心を持つ分野についてのリサーチ、3) 問いの発見、4) テーゼの発見		
<履修条件> 2027年度に旧約聖書神学の分野で修士論文を提出予定の者。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション（修士論文作成の意義とプロセスの概観） 第2回 論文執筆の方法① 課題の認識とリサーチについて 第3回 論文執筆の方法② 問いの発見と論文の種類について（説明論文と論証論文） 第4回 論文執筆の方法③ 聖書学の文献の種類と利用方法について 第5回 論文執筆の方法④ アウトラインとパラグラフについて 第6回 論文執筆の方法⑤ 序、本論、結論それぞれの書き方について 第7回 学生による発表① 興味関心を持つ主題・テキストの選定① 第8回 学生による発表② 興味関心を持つ主題・テキストの選定② 第9回 学生による発表③ 興味関心を持つ分野についてのリサーチ① 第10回 学生による発表④ 興味関心を持つ分野についてのリサーチ② 第11回 学生による発表⑤ 興味関心を持つ分野についてのリサーチ③ 第12回 学生による発表⑥ リサーチの継続+問いの発見とテーゼの可能性の模索① 第13回 学生による発表⑦ リサーチの継続+問いの発見とテーゼの可能性の模索② 第14回 学生による発表⑧ リサーチの継続+問いの発見とテーゼの可能性の模索③ 第15回 これまでの学びの振り返りと今後の論文作成プロセスの確認		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 論文の書き方についてのレクチャーをきちんと受講した上で、自らの研究に関するリサーチを着実に進めること。		
<テキスト> 特に定めない。		
<参考書・参考資料等> 澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、1977年。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業での発表や授業への貢献の度合いによって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）によって評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 発表や課題に対するコメントによってフィードバックする。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号 MD120202
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ	田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 修士論文の作成に必要な学びを行うこと。		
<到達目標> 修士論文の作成		
<授業の概要> これまでのリサーチを踏まえて、いよいよ授業の前半で問いとテーゼをしっかりと言語化する。その後、それに基づいてアウトラインを作成し、内容の執筆にとりかかる。夏休みに入る前に、論文の内容を実際に執筆できるよう、計画的に研究を進める。		
<履修条件> 2026年9月に旧約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の者		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション（論文の書き方のおさらい） 第2回 学生による発表① 先行研究の整理 第3回 学生による発表② 問いとテーゼの見通しを言語化する 第4回 学生による発表③ 言語化した問いとテーゼの見通しの吟味 第5回 学生による発表④ アウトラインの作成 第6回 学生による発表⑤ アウトラインの吟味 第7回 学生による発表⑥ 序の執筆 第8回 学生による発表⑦ 私訳の項目の執筆 第9回 学生による発表⑧ 本文批評の項目の執筆 第10回 学生による発表⑨ 本論の執筆①（内容の詳しい構想と吟味） 第11回 学生による発表⑩ 本論の執筆②（テーゼの論証に必要な議論の整理） 第12回 学生による発表⑪ 本論の執筆③（1,000字程度執筆＋内容の吟味） 第13回 学生による発表⑫ 本論の執筆④（更に1,000字程度執筆＋内容の吟味） 第14回 注・文献表の整理（形式の確認など） 第15回 全体の振り返りと今後の論文作成プロセスの確認		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 割り当てられた課題を踏まえて、発表のために毎回リサーチを欠かさないこと。		
<テキスト> 特に定めない。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の発表と、修士論文の評価によって行う。共通評価指標（2）に基づいて評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 毎回の発表に対するコメントと、修士論文への評価のコメントによってフィードバックする。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MD220101
修士論文指導演習 新約神学 I	中野 実 河野克也	<担当形態> 複数
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習で、論文テーマを探し出し、論文を書くために必要な力を身につけるためのクラス。		
<到達目標> 適切な主題を各自が選定することができ、修士論文を書くための技術を身につけることができる		
<授業の概要> 論文を書くとはどういうことかを学びながら、各自その論文執筆を進めていく。毎回、学生の発表を中心に行われる。		
<履修条件> 2027年9月に修論を提出予定の学生		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 論文を書くとは？ 第3回 各自の課題、問題探し。 第4回 その課題、問題に関連するテキスト探し。 第5回 課題テキストについての学び 第6回 テーマの選定、見直し、決定。 第7回 研究のための方法およびツールについて 第8回 資料、先行研究探し。 第9回 先行研究の学び 第10回 先行研究の学びとそこからの展開 第11回 問題設定：テーゼへ向かって 第12回 問題設定：テーゼの吟味 第13回 題名、目次作成へ向かって 第14回 議論の組み立て方 第15回 まとめ。		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 上記の授業計画に基づきながら、各自論文作成を進めていく。そのために十分な時間を割くことが求められる。ただし、論文はモノログではないので、書物との対話はもちろん、教師、学生との対話も大切にすること。		
<テキスト> 必要に応じて、指示する。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、指示する		
<学生に対する評価（方法・基準）> 共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テキストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術を磨くことなどに関しても、十分な努力をしているかどうかの評価の指標となる		
<課題に対するフィードバックの方法> コメントシートなどを活用しながら、疑問、課題などを吸い上げ、適宜クラスで取り上げ、応答することにする。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号 MD220202
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	中野 実 河野克也	<担当形態> 複数
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 今年度前期末に修士論文を提出予定の学生のための演習で、毎回各自の研究内容を発表してもらいながら、研究状況を把握し、指導するためのクラスである。		
<到達目標> 各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げることができる		
<授業の概要> 論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心に進められる。指導教授および参加学生の質問や意見を聞きつつ、論文を仕上げていく。		
<履修条件> 2026年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 問題設定の点検 第3回 資料の点検 第4回 題名、目次、議論の枠組みを整える。 第5回 より明確な問題設定の獲得 第6回 仮の序論の執筆 第7回 研究史に関する発表 第8回 研究史に学びつつ、そこからの展開 第9回 論文のテーゼの発見 第10回 論文のテーマの点検 第11回 議論の組み立て 第12回 議論の組み立ての点検 第13回 結論を書く。 第14回 論文のフォーマットの整理、注、文献表の作成 第15回 まとめ。		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 上記の授業計画に基づきながら、各自論文執筆を進めていく。そのために十分な時間を割くことが求められる。ただし、論文はモノログではないので、書物との対話はもちろん。教師、学生との対話も大切にすること。		
<テキスト> 必要に応じて、適宜指示する。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> コメントシートなどを活用しながら、疑問、課題などを吸い上げ、適宜クラスで取り上げ、応答することにする。		

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MD320101
修士論文指導演習 組織神学 I	神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。		
<到達目標> ①組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。②修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。		
<授業の概要> 前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。		
<履修条件> 2027年度に修士論文提出予定の者は必修。		
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション——論文の基本的要件 第2回 発表①：各自の論文の主題について 第3回 論文作成の技法①：テキストの分析——全体的な内容の把握 第4回 論文作成の技法②：テキストの分析——構成を把握する 第5回 論文作成の技法③：テキストの分析——書き方を考える 第6回 論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて 第7回 論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討 第8回 論文作成の技法⑥：パラグラフ 第9回 発表②：修士論文の主題と文献について（1） 第10回 発表③：同（2） 第11回 発表④：内容の構想について（1） 第12回 発表⑤：内容の構想について（2） 第13回 発表⑥：内容の構想について（3） 第14回 発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（1） 第15回 発表⑧：同（2）</p>		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。		
<テキスト> 担当者が用意するプリント。		
<参考書・参考資料等> 泉忠司、『90分でコツがわかる！ 論文&レポートの書き方』（青春出版社）；小熊英二、『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度および発表による。主に共通評価指標の①と②によって評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 発表に関し、授業内で適宜コメントする。		

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号 MD320202
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。		
<到達目標> 修士論文を完成・提出すること。		
<授業の概要> 各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。		
<履修条件> 2026年度の所定の期日までに狭義の組織神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。		
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション——修士論文の基本的要件の確認</p> <p>第2回 各自の論文の主題と文献について①</p> <p>第3回 各自の論文の主題と文献について②</p> <p>第4回 各自の論文の主題と文献について③</p> <p>第5回 主要文献の読書報告①</p> <p>第6回 主要文献の読書報告②</p> <p>第7回 主要文献の読書報告③</p> <p>第8回 二次文献から学んだことについての報告①</p> <p>第9回 二次文献から学んだことについての報告②</p> <p>第10回 二次文献から学んだことについての報告③</p> <p>第11回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について①</p> <p>第12回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について②</p> <p>第13回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③</p> <p>第14回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④</p> <p>第15回 形式面の確認・提出の要領について</p>		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。最大限の時間と能力とを傾注すること。		
<テキスト> 特になし。		
<参考書・参考資料等> 佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド——大学生・大学院生のための自己点検法 29』（大修館書店、2019年）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表による。修士論文用の共通評価指標を参照して評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 発表に関し、授業内で適宜コメントする。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MD420101
修士論文指導演習 歴史神学 I	本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 来春から本格的に修士論文に取り組めるように、修士論文のプロセスを一通り体験する。		
<到達目標> 来春から本格的に修士論文に取り組むための力を身に着ける。		
<授業の概要> 修士論文を書いていくためのプロセスを体験する演習を行う。各自のテーマを設定し、史料の発表を行い、ディスカッションをしながら、論文を書いていくための素材を整えていく。最終的に自分のテーマに関する学期末レポートを書く。		
<履修条件> 歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生は必修。		
<授業計画> 第1回 歴史神学とは、神学的テーマの設定方法 第2回 演習：テーマを設定する 第3回 修論テーマ案の発表① 第4回 修論テーマ案の発表② 第5回 演習：史料を探す 第6回 演習：事典・辞書を調査する 第7回 一次史料の発表① 第8回 一次史料の発表② 第9回 一次史料の発表③ 第10回 演習：アウトラインを整える 第11回 二次史料の発表① 第12回 二次史料の発表② 第13回 二次史料の発表③ 第14回 演習：注と参考文献を整える 第15回 総括		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 『論文の書き方』を復習しておくこと。		
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）1977年		
<参考書・参考資料等> J.H.アーノルド『歴史』（新広記訳、岩波書店）、N.F.Cantor, R.I.Schneider, How to Study History. 他		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（2）に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点后、コメントをつけて返却する。		

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号 MD420202
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 修士論文の執筆に取り組んでいく。		
<到達目標> 修士論文を作成し、提出する。		
<授業の概要> 修士論文のテーマ設定、史料探しを行い、一次史料・二次史料を読み、アウトラインや注と参考文献を整えつつ、修士論文を書いていく。学生による数回の発表とクラスでのディスカッションを行っていく。		
<履修条件> 歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生は必修。		
<授業計画> 第1回 歴史神学とは、神学的テーマの設定 第2回 テーマに関する発表① 第3回 テーマに関する発表② 第4回 テーマに関するディスカッション 第5回 史料に関する発表① 第6回 史料に関する発表② 第7回 史料に関するディスカッション 第8回 一次史料に関する発表① 第9回 一次史料に関する発表② 第10回 一次史料に関するディスカッション 第11回 二次史料に関する発表① 第12回 二次史料に関する発表② 第13回 二次史料に関するディスカッション 第14回 アウトライン、注と参考文献に関する発表 第15回 アウトライン、注と参考文献に関するディスカッション		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。発表を繰り返していくので、指摘事項を受けとめて次の発表に備えること。		
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）1977年		
<参考書・参考資料等> 特になし。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表によって、共通評価指標（2）に基づいて総合的に評価する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 毎回の発表毎にコメントをしていく。		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MD520101
修士論文指導演習 実践神学 I	小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 修士論文作成のために必要な技能を学び、次年度の論文執筆のための準備をすること。		
<到達目標> 論文作成に必要な技能を身に着けること。論文のテーマを設定すること。主要な文献を読むこと。		
<授業の概要> 前半では論文作成の方法を学ぶ。後半では関心のあるテーマの神学的な位置や意味を確認し、研究史を概観し、関連する文献を読み、論文の主題を明確にしていく。		
<履修条件> 2027年度に実践神学の分野で修士論文を提出予定である者は必ず履修すること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション：実践神学とは何か。修士論文とは何か。 第2回 学生の発表：関心のあるテーマについて 第3回 論文作成の方法：テーマの設定と本文の組み立て方 第4回 発表を受けて：テーマを扱うために前提となる知識、神学的な位置や意味について 第5回 論文作成の方法：資料の収集、利用 第6回 発表を受けて：研究史の概観 第7回 学生の発表：研究史を踏まえてのテーマの見直し 第8回 論文作成の方法：テキストの批評 第9回 学生の発表：事典項目の批評 第10回 論文作成の方法：論文の構成、順序、各部分で何を書くか 第11回 学生の発表：論文の主題と主要な文献について 第12回 学生の発表：テキストの精読 第13回 学生の発表：解くべき問いの発見 第14回 学生の発表：論文の構想 第15回 研究計画の策定		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 関心のあるテーマ、もしくは神学者についての文献をすべて読むつもりで、文献の読解を進めること。		
<テキスト> 必要に応じて担当者が準備する。		
<参考書・参考資料等> 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』（慶應義塾大学出版会）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と発表によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）の①～③を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 授業の中で直接講評と指導を行うほか、論文作成のため随時相談に応じる。		

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号 MD520202
修士論文指導演習 実践神学Ⅱ	小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている		
<授業のテーマ> 修士論文の執筆にあたり、討論を通して理解と考察を深める。		
<到達目標> 修士論文を執筆し、完成すること。		
<授業の概要> 各自の研究内容を発表し、その内容について討論する。それと並行して学術論文に必要な形式について学ぶ。		
<履修条件> 2026年9月に修士論文を提出予定であること。履修しなければ論文の提出はできない。		
<授業計画> <p>第1回 オリエンテーション——実践神学の修士論文を書くことは何を意味するか</p> <p>第2回 主題と問題意識を明確にする</p> <p>第3回 取り組むべき資料・文献を設定する</p> <p>第4回 論文の構想を整える</p> <p>第5回 研究史を紹介する</p> <p>第6回 主要文献の主張を紹介する</p> <p>第7回 主要文献の主張を吟味する</p> <p>第8回 主要文献の主張を評価する</p> <p>第9回 二次文献と対話する</p> <p>第10回 本論第1章の発表</p> <p>第11回 注、引用、文献表のつけ方</p> <p>第12回 本論第2章の発表</p> <p>第13回 全体の構成の再考</p> <p>第14回 本論第3章の発表</p> <p>第15回 序論と結論について</p>		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 時間をかけて主要文献を精読し、理解を深め、自分なりの考察を進めること。		
<テキスト> 論文の研究対象とする文献のうち主要なもの。		
<参考書・参考資料等> 論文執筆者ごとに助言する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と発表によって評価する。共通評価指標（2）を用いる。		
<課題に対するフィードバックの方法> 授業の中で直接講評と指導を行うほか、論文作成のため随時相談に応じる。		

実践神学研修課程	授業番号	ME111201
総合特別講義	小泉 健	<担当形態> オムニバス
後期・4単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる [DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している		
<授業のテーマ> 教会・伝道上直面する具体的な問題に適切に対応していくために専門家の指導を受ける。		
<到達目標> 牧会上の典型的な問題とその対策を理解し、自分なりに応用するための基礎を身につけること。		
<授業の概要> それぞれ分野の専門家が、テーマごとに二コマを単位として講義を行う。		
<履修条件> これまでの学びを総合する重要な授業なので、原則として全回出席すること。		
<授業計画> 第1回、第2回：小林 光 「教会付属幼稚園・保育園の使命と課題」 第3回、第4回：齋藤 篤 「キリスト教の異端とカルトの問題」 第5回、第6回：道家紀一 「日本基督教団 教憲・教規Ⅰ」 第7回、第8回：道家紀一 「日本基督教団 教憲・教規Ⅱ」 第9回、第10回：宮本義弘 「キリスト教から考える部落差別」 第11回、第12回：落合建仁 「日本基督教団史Ⅰ（日本基督教団成立前）、（日本基督教団成立後）」 第13回、第14回：小島誠志 「地方伝道」 第15回、第16回：高橋貞二郎 「学校伝道と教会」 第17回、第18回：長山信夫 「日本基督教団史Ⅱ（教団史と紛争史の視点）、（教団紛争とは何であったか?）」 第19回、第20回：篠浦千史 「障がい者と教会」 第21回、第22回：洪性完 「在日コリアンと教会」 第23回、第24回：山崎ハコネ 「高齢者ケアと教会」 第25回、第26回：加藤幹夫 「牧会者の試練とその克服」 第27回、第28回：朴 憲郁 「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第29回、第30回：春原禎光 「ITと伝道」 第31回、第32回：近藤勝彦 「東京神学大学史Ⅰ」 第33回、第34回：野田 沢 「青年伝道」 第35回、第36回：近藤勝彦 「東京神学大学史Ⅱ」 第37回、第38回：山崎忍 「刑務所伝道」 *講師は予定。 講義は金・土曜の1、2限に行われる。また、1月上旬に開催される『教職セミナー』への参加も課す。		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通すこと。		
<テキスト> 後日配布する「学科目概要」において各講師が指示する。		
<参考書・参考資料等> 「テキスト」と同様、「学科目概要」において紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の③による。		
<課題に対するフィードバックの方法> 必要に応じて個別に相談に来ること。		

実践神学研修課程		授業番号 ME121101
説教学演習 I	小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実と直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる [DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している		
<授業のテーマ> 説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。		
<到達目標> 説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけではなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。		
<授業の概要> 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 説教と聖書、説教テキストの朗読 第2回 黙想とは何か 第3回 説教学の課題 課題①第一黙想の提出 第4回 釈義と説教準備 第5回 歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、釈義とは何か 第6回 説教学的な聖書の解釈、「解釈と適用」の問題 課題②釈義の提出 第7回 説教黙想とは何か 第8回 釈義と教理、説教と教義学 第9回 説教における説教者 課題③説教黙想の提出 第10回 会衆をめぐる黙想 第11回 キリストの物語とわたしたちの生活 第12回 説教と救済史、終末をめぐる黙想 課題④第二の説教黙想の提出 第13回 説教の構造と構成 第14回 説教の始め方と終わり方 第15回 説教の演述 課題⑤説教原稿の提出		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。 説教作成の各段階の作業をていねいに行うこと。		
<テキスト> 聖書		
<参考書・参考資料等> R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（絶版なので図書館を利用する） その他については、テーマごとに教室で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 課題を素材にして次回の授業を行う。個別に問い合わせに応じる。		

実践神学研修課程		授業番号 ME121102
説教学演習Ⅱ	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実と直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる [DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している		
<授業のテーマ> 説教学の基本を学び、説教の多様性に触れ、説教理解と説教への取り組みの幅を広げる。		
<到達目標> 多様な説教のあり方に触れて説教理解を拡大し、説教の取り組みのための助けとすること。		
<授業の概要> 説教のタイプや説教分析論を手がかりにして、多様な説教のあり方を知り、実際に取り組んでみる。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 説教とは何か 第2回 説教者は説教において何者か？ 第3回 聖書と説教の関係 第4回 説教の聞き手をどのように考えるか？ 第5回 講解説教と主題説教 第6回 教理的説教とカテキズム説教 第7回 建德的説教、牧会的説教、悔い改めを迫る説教 第8回 伝道説教とは何か？ 第9回 預言者的説教と祭司的説教 第10回 主日聖書日課による説教 第11回 キリスト降誕祭とキリスト復活祭の説教 第12回 結婚式と葬儀の説教 第13回 説教者の霊性 第14回 説教の聴き方 第15回 総括		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 提示する課題について考察すること。もしくは、あらかじめ配布する説教を読み、批評すること。		
<テキスト> 聖書		
<参考書・参考資料等> W. H. ウィリモン、R. リンチャー編『世界 説教・説教学事典』日本基督教団出版局、1999年。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加、レポートによって評価する。共通評価指標（1）の①と③を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 発表に基づいて討論を行う。説教については個別の相談に応じる。		

実践神学研修課程		授業番号 ME121203
説教学演習Ⅲ	神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、前期課程を修了見込みである者。原則として必修。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる [DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している		
<授業のテーマ> テキストの釈義から、黙想を経て、説教するに至るまでの過程を、実際に経験しながら学ぶ。		
<到達目標> ①説得力のある説教が出来る説教者となるための基本を身に着ける。②説教を評価する批判的視点を獲得する。		
<授業の概要> 実際にチャペルで説教することを中心とする（1名につき2回）が、その前に、釈義・黙想の基礎を確認し、また、説教の作成にあたって留意しなければならない点を確認する。		
<履修条件> 前期課程2年次に在籍し、修士論文を提出し、前期課程を修了見込みである者。		
<授業計画> （履修者の数によって、以下の予定は変更になる可能性があるので注意。） 第1回 オリエンテーション——説得力のある説教とはどのようなものか 第2回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教の準備①釈義 *テキストは全員共通（マルコ7：24～30）とする。 第3回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教の準備②黙想（その1） 第4回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教の準備③黙想（その2） 第5回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教（2名）① 第6回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教（2名）② 第7回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教（2名）③ 第8回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教（2名）④ 第9回 本学チャペル礼拝を想定した10分の説教（2名）⑤・まとめ 第10回 教会での主日礼拝説教（テキストは任意）を想定した20～30分の説教（2名）① 第11回 教会での主日礼拝説教を想定した20～30分の説教（2名）② 第12回 教会での主日礼拝説教を想定した20～30分の説教（2名）③ 第13回 教会での主日礼拝説教を想定した20～30分の説教（2名）④ 第14回 教会での主日礼拝説教を想定した20～30分の説教（2名）⑤ 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。授業とはいえ、説教を語るものであるから、祈りつつ、周到な準備をすることが必要である。また、他の学生の説教のよい聴き手・批評者となるよう心がけること。		
<テキスト> 聖書（新共同訳）		
<参考書・参考資料等> 説教の準備に必要なもの（聖書原典および各種翻訳・註解書・黙想集・説教集など）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 説教に関し、総合的に評価する（70%）。また、批評力も評価する（30%）。		
<課題に対するフィードバックの方法> なされた説教について、授業内で適宜コメントする。		

実践神学研修課程		授業番号 ME121204
礼拝学演習	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる [DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している		
<授業のテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。		
<到達目標> 教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。		
<授業の概要> 主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 聖書における礼拝 第3回 宗教改革の礼拝 第4回 礼拝式、祝祷、司式の役割 第5回 礼拝の祈祷 第6回 賛美、礼拝音楽、奏楽 第7回 献金・奉献、礼拝奉仕 第8回 洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福 第9回 聖餐礼典 第10回 結婚式・婚約式 第11回 葬儀 第12回 礼拝堂、礼拝堂の使用 第13回 教会暦と聖書日課 第14回 教会学校の礼拝、学校礼拝 第15回 オンライン礼拝、オンライン聖餐		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 それぞれのテーマについて自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。		
<テキスト> 必要に応じて教室で指示または配布する。		
<参考書・参考資料等> 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011年。 J. F. ホワイト『キリスト教の礼拝』日本基督教団出版局、2000年。 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①と③を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 発表の準備にあたっては、発表そのものに対しても、その都度、助言、指導を行う。		

実践神学研修課程		授業番号 ME121205
牧会学演習	広田 叔弘	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、前期課程を修了見込みである者	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<学位授与方針との関係> [DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中での確に対応することができる [DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している		
<授業のテーマ> 伝道の現場で起きる様々な事象に焦点を当て、牧会の実際を考察する。以上によって牧会に対する理解を深め、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。		
<到達目標> 伝道者としての自己理解を深める。伝道の現場で起きる様々な事象に対応できる基礎的な能力を身に着けると共に、事象を神学的に検討する力を養う。		
<授業の概要> 伝道者を牧会者として捉え、召命にさかのぼって自らが牧会者として召されていることを受止める。 牧会者としての基本的な知識を学び、伝道の現場での具体的な事例を検討していく。 授業は、講義と共に受講者の発表とディスカッションによって行う。		
<履修条件> 出席を重んじること。毎回の授業に意欲的に参加すること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション・牧会とは “通じる言葉の獲得” 第2回 牧会の原点・召命と派遣 私はだれか・どこへ遣わされ何をするのか 第3回 牧会者の成長・信仰とニヒリズム 自己訓練と成長を与える他者 第4回 牧会と教会形成① 礼拝から礼拝へ向かう教会の営み・牧会者の役割 第5回 牧会と教会形成② 教会会議(総会、役員会、委員会)・目的と方法と諸注意 第6回 牧会と教会形成③ 聴く奉仕・聴くことの意味 (何を聴くのか、守秘義務の順守) 第7回 牧会と教会形成④ 語る奉仕・語ることの意味 (福音の告知、信仰の指導、叱責) 第8回 牧会と教会形成⑤ 社会との関わり (地域、他宗教、社会問題 他) 第9回 人間理解① ウイークポイント・弱さを隠すことが出来ない人々 第10回 人間理解② 嫌な感じの人々 (価値観の違い、ストレス、劣等感、妬み、未成熟 他) 第11回 人間理解③ セクシュアリティ (多様化する性理解、灰になるまで) 第12回 個別対応 面談・訪問・通信 (人との距離の取り方、目的は何か) 第13回 葬儀 実際の流れと霊的な意味 第14回 諸儀式 主旨と方法 (結婚式、幼児祝福式、新築起工式 他) 第15回 牧会者に必要なもの 僕に留まる生活(奉仕と境界線)・自分自身と家族の心身の健康		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回のテーマについて問題意識を持つこと。発表は問題点を整理して参加者が共有できる内容を準備すること。		
<テキスト> 必要に応じて配布する。		
<参考書・参考資料等> E.トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』(教団出版局1961年)、ウィリアム・ウィリモン『牧師』(新教出版社2007年)、E.H. ピーターソン『牧会者の神学』(教団出版局1997年)。 他は授業で紹介する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 発表と授業への参加度と期末レポートにより評価する。評価にあたっては共通評価指標(1)の①と③を重視する。		
<課題に対するフィードバックの方法> 期末レポートにコメントを付けて返却する。個別の質疑については随時対応する。		

修士論文作成の手引

2026年度 M1用

修士論文の作成の手引

学期	研究・執筆	提出物（提出時期） ※日時は都度掲示する	履修*
2026 年度 前期	〔問題発見期〕 ① 論文（Thesis）は、明確な主張（テーゼ）を学問的な手順を経て論証することが期待される。そのためには、どこに論ずべき争点があるのかをはっきり捉えなくてはならない。 ② 夏休み前に、基本的文献 4-5 冊を丹念に読む。 ・論文の仮主題を決め、指導を受けたい教授の内諾を受けて、「修士論文計画書」（所定用紙／教務課から配付）を作成する。夏休み前に希望指導教授を確定し、修士論文計画書に承認印を得る。		
	・修士論文計画書提出⇒教授会承認 ⇒主題および指導教授の掲示（10 月上旬） ・指導教授決定。その後「研究指導計画書」を受け取り、定期的に指導を受ける。	修士論文計画書を教務課へ提出。（9 月下旬）	修士論文指導演習 I
2026 年度 後期	〔問題整理期〕 ① 論じようとする問題について利用可能な文献に、どのようなものがあるかを調べ、リストを作る（学術雑誌の論文も当たる）。 ② 教員の指導を受けつつ、主題の範囲を絞る。		
	文献表の作成方法について確認と指導を受ける。	アウトラインと文献表を指導教授へ提出。	
2027 年度 前期 ※長期履修の場合は提出年度の前期	〔論文作成期〕 ① 指導教授の指導を定期的に受けつつ、執筆を開始。遅くとも 8 月下旬の完了を目標とする。 ② 原稿に誤記、引用文献の出典ミスがないか慎重に確認し、最終原稿を整える。		修士論文指導演習 II
	〔提出前〕 ※提出方法についての詳細は 6 月に配付する ・指導教授の最終確認を受ける。 ・教務課主任／副主任の体裁チェックを受ける。 ・提出用のファイル（3 冊）を受け取る。 ・審査手数料 10,000 円を支払う。		
	〔提出〕 ・主査用 1 部および副査用 2 部の計 3 部を提出。 ④時間厳守。提出期日正午に遅れたものは、理由の如何を問わず受理しない。	修士論文を教務課へ提出。（9 月中旬） ※締切日は年度初めに通知	
2027 年度 後期	〔提出後〕 ・修士論文審査日程発表（掲示 10 月上旬） ・修士論文審査（11 月中旬～下旬） ・修士論文合格者発表（掲示 12 月上旬）	合格者発表後に論文を返却し、平均点を通知する。修士論文合格者は、審査で指摘のあった誤字・脱字を修正し、後期授業最終土曜日までに原本（1 部）を教務課へ提出。 ※審査に合格した修士論文は製本され、本学図書館に納本される。	

参考文献：齊藤孝著『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部

清水幾太郎著『論文の書き方』岩波新書

保坂弘史著『レポート・小論文・卒論の書き方』講談社学術文庫

*長期履修制度を利用する学生は、1～3 年目までの間に「修士論文指導演習 I」を履修し、修士論文提出予定年度の前期に「修士論文指導演習 II」を履修する。

1. 表紙

表紙は教務課にて配付するが、以下のように各自で作成しても良い。ただし、提出者氏名は本人が自署すること。原本（主査用）以外の提出論文にもコピーした表紙を付けること。

<例>

<h1>東京神学大学大学院 修士論文</h1>	
提出年度 <u>2026</u> 年度	
論文題	
<hr/>	
<hr/>	
専攻	<u><例>組織神学（組織）</u>
指導	<u>○ ○ ○ ○ 教授</u>
提出日	<u> 月 日</u>
ふりがな 提出者	<u> ○ ○ ○ ○</u>
（必ず本人が自署すること）	

※専攻は 聖書神学（旧約）・聖書神学（新約）・組織神学（組織）・組織神学（歴史）・組織神学（実践）のいずれか

2. 目次の書き方

以下の要領で作成する。

<例>

目 次	
序 章	1
第一章 フォーサイスのキリスト論の方法論	5
第一節 フォーサイスの神学の主題	8
(1) リッチェルのキリスト論の特質	10
(2) フォーサイスのキリスト論の特質	13
第二章 フォーサイスの贖罪論にとっての キリスト論の持つ意義	25
結語	60
* 巻末に注を入れる場合はここに入れる。	
(注	65)
参考文献	

※「結語」において、結論を明確に提示すること。

3. 略語

目次の次に入れる。略語については TRE (Theologische Realenzyklopädie) 別冊参照。

<例>

略 語 表	
<u>ATD</u>	<u>Das Alte Testament Deutsch</u>
<u>Evth</u>	<u>Evangelische Theologie</u>
<u>ZthK</u>	<u>Zeitschrift für Theologie und Kirche</u>

4. 注における文献記載法

注の書き方にはいくつかの方法がある。どれを採用するにせよ、一貫性を持って用いること。以下に挙げる例は限られたものであり、例外がありうる。複雑なケースの場合は、指導教授の指導を仰ぐこと。

A. 和文文献の場合

(1) 書物

* 著・編者名『書名』（シリーズ名、巻）出版社、刊行年、頁数 の順に記す。

例：網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』（岩波書店、1984年）、154－156頁。

アリスター・E・マクグラス『キリスト教神学入門』（神代真砂実訳、教文館、2002年）、10頁。

カール・バルト「福音主義神学入門」（加藤常昭訳）『カール・バルト著作集』第10巻（新教出版社、1968年）、10頁。

(2) 論文

* 著者名「論文名」（『雑誌名』号数、19——）頁数 の順。

例：網野善彦「青方氏と松浦一揆」（『歴史学研究』254号、1982年）57頁。

アリスター・E・マクグラス「現代キリスト教思想における自然神学の位置」（神代真砂実訳）『神学』65号（2003年）84－122頁。

* 書名、雑誌名、新聞名は——— 二重カギかっこ『 』

* 論文、記事名は——— 一重カギかっこ「 」

B. 欧文文献の場合

(1) 単行本

* 著者名、書名、刊行地、刊行年、頁数 の順に記す。書名はイタリック体にする（書名の下にアンダーラインを付しても良い）。

例：W. Pannenberg, *Grundzüge der Christologie*, Gütersloh, 1964, S.187.

* 邦訳がある場合、それを明記する。

例：P. M. Sweezy, *The Present as History*, New York, 1953, pp.213-217.

（都留重人監訳『歴史としての現代』岩波書店、1954年、268－273頁）。

* 刊行地のあとに出版社を加える、より詳しい表記の仕方もある。

例：Colin E. Gunton, *The Promise of Trinitarian Theology* (Edinburgh: T&T Clark, 1991), p.10.

(2) 論文の場合

* 著者名、論文名、雑誌名、号数、刊行年、頁数 の順。

* 論文題は“ ”を付け、雑誌名をイタリック体にするか、あるいは雑誌名の下にアンダーラインを付す。

* 雑誌論文の例：

G.N.Stanton, “The Fourfold Gospel,” *New Testament Studies* 43:3(1997), pp.317-346.

* 論文集に収録されている場合：

Christoph Schwöbel, “Christology and Trinitarian Thought,” in Christoph Schwöbel, ed., *Trinitarian Theology Today* (Edinburgh: T&T Clark, 1995), pp.10-11.

5. 注における略語の使い方

A. 和文文献の場合

継出の場合

例：(12) 前掲書 58 頁。

(直前の文献、例えばこの場合注 (11) の文献を示す。)

続出の場合

例：(13) 前掲注 (9) 書 421 頁。

(間をおいて同じ文献を示す。)

B. 欧文文献の場合

ibid. — 前掲 (直前の文献に限る)。

前掲と頁が同じ場合には *ibid.*

前掲と頁が異なる場合には *ibid.*, p.3.

ドイツ語の文献では *ebd.*(*ebenda*)を用いる。

op.cit. — 前掲書の意で、間に他の書物の引用があって隔てられている場合に用いる。必ず著者名を付す。ドイツ語の文献では *a.a.O.*

例：Schuman, op.cit., p.105.

loc.cit. — 同じ書物の同じ頁を指す。

他の注を隔てて同じ頁を引用する場合にも、著者名を付して用いることができる。
(*ibid.*は直前の文献のみ指す。)

例：Schuman, loc.cit.

p. — 例：p.15.

pp. — 例：pp.15–18

ドイツ語の文献では *S.* (大文字。単数複数の区別はしない。)

f. — 例：pp.15f. (15–16 頁、つまり f.は次に来る 1 頁を表す。)

ff. — 例：pp.15ff. (数頁にわたって引照する場合。)

*その他は、『学术论文の技法』、pp.124ff.を参照。

C. 次のような略語の使い方も可能である。

例：(1) R・ブルトマン『新約聖書神学 I』(川端純四郎訳)『ブルトマン著作集 3』(新教出版社、1963 年) 15 頁。以下、『神学 I』と略す。

(2) R・ブルトマン『共観福音書伝承史 I』(加山宏路訳)『ブルトマン著作集 1』(新教出版社、1983 年) 30 頁。以下『伝承史 I』と略す。

(3) ブルトマン『神学 I』50 頁。

(4) ブルトマン『伝承史 I』100 頁。

6. 脚注の書き方

注は、本文と同じ頁に書くことが望ましい。ただし、巻末の注も認める。その場合は通し番号とする（章ごとに分けない）。

脚注の文献を記入する場合の略語は「5. 注における略語の使い方」に従う。

A. 通常の場合

<例>

(10) —————である。
(一中略一)
(10) Schuman, op.cit.,p.105.

B. 注が次頁に及ぶ場合

注の分量が多く、本文の頁に収まらない場合は、次頁に及んでもよい。

<例>

	(20) _____である。
	(21) _____である。
	(—中略—)
注 (19) の続き	
↓	
(20)	ibid.,p.100. _____。

	_____。
(21)	ibid.,p.108. _____。

	_____。

7. 文献表の書き方に関する注意点

一次資料、二次資料（歴史神学では、一次史料、二次史料と記す）を区別して記すことが望ましい。洋書、和書は区別して記す必要はないが、アルファベット順に整理すること。ただし、聖書学において一次資料とは聖書とその（古代）訳、すなわち、いわゆるテキストのことを言うので、注意すること。

文献表で書物を挙げるときは、参照頁を記す必要はない。文献表では、著者等の姓が冒頭にくるように整理するとよい（例：Barth, Karl）。

なお、文献表にも本文から続けて頁番号を付ける。

8. 書式等について

- (1) パソコンで作成すること。
- (2) 和文の字体は明朝体にすること。
- (3) 用紙はA 4サイズのみとし、他のサイズの折込等は不可。
- (4) 片面印刷にすること。両面印刷は不可。
- (5) 字数は本文のみで24,000～40,000字。1頁に本文1,200字が目安である。
- (6) 文字のポイントは10.5～11ポイント。1行40字×30行。
- (7) 余白は左30mm、右25mm、上下25mm。
- (8) 文字の色は黒とする。カラー印刷は不可。
- (9) 注を本文と同じページに書くことが望ましい。その場合、注と本文の間に横線を入れること。また、巻末に注を書くこともできる。

東京神学大学大学院 修士論文

提出年度_____年度

論文題

専攻

指導

提出日

ふりがな
提出者

(必ず本人が自署すること)

【教職課程の手引】

- 1) 東京神学大学における教育職員免許状取得の意義
- 2) 教育職員免許状の種類と基礎資格
- 3) 教職課程登録
- 4) 教育職員免許状取得のためには
- 5) 編入・転入学生のみなさんへ
- 6) 教職課程における諸要件
- 7) 教職課程履修手続略表
- 8) 介護等体験
- 9) 教育実習予備登録
- 10) 教育実習
 - 11) 教育職員免許状の申請
 - 12) 大学院での教職課程

1) 東京神学大学における教育職員免許状取得の意義

本学は伝道者・牧師を養成する神学校であり、みなさんはその召命を受け、すべてを捨てて献身する決意をもってここに入学されました。そして、第一線における伝道が、福音を人々に直接宣べ伝えて、キリストの体なる教会に連なる群を形成していくことに努めるものであることは、言うまでもありません。

しかし伝道は、それ以外にも多様な仕方で推し進められていきます。特に、キリスト教教育の業を通して、すなわち、教会内の教会学校だけでなく、社会における一法人として設立された教会付属の幼稚園・認定こども園や保育園、またキリスト教の幼稚園・認定こども園、小学校、中学校・高等学校、大学等の教育機関を通して広範囲に、しかもキリスト教による真の人間形成を目指して推し進められていきます。

今日もなお、日本におけるキリスト教人口は極めて少ないのですが、明治以来、宣教師たちが福音伝道による教会設立と相伴って、先駆的な近代教育に力を注いで実を結ばせたこれらの莫大な財産と伝統を、日本の教会が遺産として譲り受けたことを、私たちは決して忘れてはなりません。それらは、今後も欠かせない伝道の可能性を大いに秘めているのです。

みなさんは、卒業してほとんどの場合、教会に仕える伝道者・牧師になっていくでしょう。しかし、その教会に付属幼稚園・認定こども園があつて幼稚園・認定こども園園長となったり、近隣にキリスト教学校があつて聖書科の非常勤講師となるよう求められたりすることが決して少なくありません。その場合に、教師としての「免許資格」と資質が必要になります。

以上述べたような意義を踏まえて設けられたのが、この教職課程です。つまりそれは、教会に仕える伝道者でありながら、日本の各種プロテスタント・キリスト教学校において教育と伝道の業に励みつつ、建学の精神を実質的に担う教師を養成するコースです。

本学は戦後の新制単科大学として、いち早く1954年に中学校・高等学校における「宗教」の教諭1種免許状取得の認定を文部省（現文部科学省）から受け、今日まで多くの優れた「聖書科」の教師を輩出しました。この種の免許状は同時に、上で触れたように、教会付属幼稚園・認定こども園の園長となる際にも資格条件として有効に用いられてきました。このようにして、教会との良い協力関係を築き、多くの児童・生徒たちへのキリスト教教育を通して、伝道と公教育の両面で少なからぬ貢献をしてきたのです。したがって、卒業のために全員が履修すべき「神学科」の諸科目と並行して、「教職課程」の履修を積極的にお勧めします。

学部1年次入学生と2年次編入・転入学生は学部卒業時に、また3年次編入・転入学生は博士課程前期課程の修了時に、無理なく当該免許状が取得できるよう履修上の工夫がなされています。免許状取得要件は、在学中に全員が履修、または認定されるべき科目（「学際基礎科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」）以外に、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の履修と学校・社会福祉施設等での実習です。これらの科目の中に新たに、新時代の教師に求められる教育の方法・技術としての情報機器関係の科目が加わりましたが、そのための設備（コンピュータ室）も本学に備えられています。

何よりも、優れた教授陣によって開設されているこのコースは、将来教師として立つ者が神学の基礎的素養を積み、教会と伝道に仕える基本姿勢を明確にすることによって、今日のキリスト教学校と一般教育界における宗教教育上の指導性を発揮し、学習者に魅力ある聖書科の授業をほどこすにふさわしい教師の資質を身につけることを目指しています。この教職課程の履修をお勧めします。

2) 教育職員免許状の種類と基礎資格

	種類	基礎資格
学 部	中学校教諭1種免許状(宗教)	学士の学位を有する
	高等学校教諭1種免許状(宗教)	
大学院	中学校教諭専修免許状(宗教)	前期課程に1年以上在学、30単位以上修得 あるいは 修士の学位を有する
	高等学校教諭専修免許状(宗教)	

3) 教職課程登録

①「教職課程登録票」の提出について

教育職員免許状取得を目指す学生は必ず「**教職課程登録票**」を提出してください。次の場合も当てはまります。

- 他教科免許状を取得済みで、宗教科の免許状取得を目指す場合
- 宗教科の1種免許状を取得済みで、専修免許状取得を目指す場合

※在学中に教職課程履修の必要が生じた場合には、速やかに教務課に申し出てください。

② こども性暴力防止法への対応について

こども性暴力防止法(学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律)の施行により、2026年12月25日以降、学校や保育所、学習塾等、こどもに対して教育・保育などを行う事業者には、性暴力を防ぐための取り組みが義務づけられます。これに伴い、実習生についても、性犯罪前科の有無の確認が求められる場合があります。教職課程登録にあたっては、次のことを確認してください。

◇事業者求められる取り組み

- 日頃から、こどもを性暴力から守る環境づくりを進めます。
- こどもと接する業務に就く人に、性犯罪前科の有無を確認します。
- 性暴力のおそれがある場合は、こどもと接する業務に就かせないようにします。

◇実習生に関する留意点

2026年度以前の入学生・編入学生・転入学生へは2026年12月25日以降～教育実習前までに、2026年度以降の入学生・編入学生・転入学生へは教職課程登録時に、同意書兼誓約書の提出を求めます。次のことに同意するとともに、性犯罪前科がないことを誓約してください。

- 実習計画において、こどもと一対一になることが実習上予定されている、実習期間が相当長期にわたる等、実習生がこどもに対して支配性、継続性及び閉鎖性を有する実習であると判断された場合、性犯罪前科の有無の確認が必要となる場合があります。なお、性犯罪前科の有無の確認が必要かについて最終的な判断は実習先の事業者が行います。
- 性犯罪前科の有無の確認が必要であると判断された場合、実習生本人からこども家庭庁へ戸籍情報等を提出することになります。

- 性犯罪前科があると確認された実習生は、こどもと接する実習はできず、教育職員免許状を取得することもできません。
- 実習前に改めて誓約書の提出を求める予定です。

◇参考

制度の詳細は、こども家庭庁ホームページ「こども性暴力防止法（学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律）」をご覧ください。

URL : <https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/efforts/koseibouhou>

4) 教育職員免許状取得のためには

教育職員免許状取得のためには単位修得だけでなく、介護等体験と教育実習が必要です。修得すべき科目・単位数については、6)「教職課程における諸要件」をご確認ください。基礎登録や補充登録の際には、必ず教職課程科目の単位修得状況を確認し、履修登録漏れや単位修得漏れのないように注意してください。

5) 編入・転入学生のみなさんへ

① 前在籍大学等で修得した単位について

前在籍大学等（高等専門学校・専修学校専門課程等や海外の大学等を除く）での修得単位と本学での修得単位を合算して、免許状を申請することができます。本学編入・転入学時の4月に、「教職課程登録票」とともに「**学力に関する証明書**」を教務課に提出してください。「学力に関する証明書」は、成績証明書とは異なり、教育職員免許状に関わる単位修得証明書で、中学1種・高校1種の免許状申請のために各1通（計2通）必要です。前在籍大学等の教職課程担当部署に「新法読み替えの（現行法に即した）『学力に関する証明書』」を申請し、当該証明書を受け取り、必ず原本を提出してください。当該証明書は本学での履修計画を立てるためにも必要ですので、提出前にはコピーを取り、各自、履修の確認に役立ててください。前在籍大学等が教職課程の認定を受けていない大学・学部等の場合は、「学力に関する証明書」の代わりに「基礎資格証明書」を取り寄せてください。

なお、編入・転入学時に個別に配付される「入学時単位認定書」において認定された科目・単位であり、本学卒業要件のためには修得の必要がない科目・単位であっても、「学力に関する証明書」や「基礎資格証明書」において単位数が証明されていなければ、当該科目の単位は本学で修得する必要がありますので、ご注意ください。

② 他教科免許状取得済みの場合

他教科免許状を取得済みの場合、宗教科の免許状申請方法は次の2通りの方法があります。

A. 教育職員免許法第5条に基づき専修免許状を申請する方法

前在籍大学等での修得単位と、本学学部・大学院での修得単位をもとに、専修免許状を申請する方法です。前項5)①で案内した「学力に関する証明書」を取り寄せてください。新法読み替えの際に生じた不足単位と、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を修得することで、1種免許状に係る要件を満たすことができます。そのうえで、大学院進学後、専修免許状に係る単位として「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を修得し、専修免許状を申請することになります。なお、前在籍大学での単位修得時期によっては、1種免許状に係る単位が大幅に不足する可能性がありますので、ご注意ください。

B. 教育職員免許法第6条別表4に基づき免許状を申請する方法

既に持っている1種免許状あるいは専修免許状をもとに、免許状を申請する方法です。

1種免許状を持っている場合は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を修得すれば、宗教科の1種免許状を申請することができます。

また、専修免許状を持っている場合は、1種免許状に係る単位として「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を修得し、大学院進学後、専修免許状に係る単位として「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を修得すれば、宗教科の専修免許状を申請することができます。

なお、AとBのいずれの場合でも、「教育実習」の最低修得単位数を満たしていれば、改めて教育実習を行う必要はありません。しかし、本学では宗教科（聖書科）の教育実習をお勧めしています。3年次編入・転入学生の場合、基本的には4年時の4月に教育実習予備登録をし、大学院1年時に実習を行うこととなります。当該時期の掲示等に注意してください。疑問点・不安な点があれば、教務課にお問い合わせください。

③ 宗教科1種免許状取得済みの場合

既に、「中学校教諭1種免許状（宗教）」及び／あるいは「高等学校教諭1種免許状（宗教）」を取得済みの場合、大学院進学後に「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を修得すれば、1種免許状を専修免許状に上進することができます。修得すべき科目・単位の詳細は、12)「大学院での教職課程」をご確認ください。

6) 教職課程における諸要件

教職課程における諸要件は、大きく「教科及び教職に関する科目」と「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」に分かれています。ご自身の入学・編入学・転入学年度に基づき、修得すべき科目・単位数等を確認してください。

A. 教科及び教職に関する科目

① 2023 年度以降の入学生・編入学生・転入学生

◇中学校教諭 1 種免許状

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学における適用科目及び単位数			配当学年	免許状取得上の履修方法
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	1	28	旧約聖書神学Ⅰ ☆	2	2,3	必修
				旧約聖書神学Ⅱ ☆	2	2,3	必修
				旧約聖書神学Ⅲ	2	4	必修
				旧約聖書積義	4	4	必修
				新約聖書神学Ⅰ ☆	2	2,3	必修
				新約聖書神学Ⅱ ☆	2	2,3	必修
				新約聖書神学Ⅲ	2	4	必修
	新約聖書積義	4	4	必修			
	「教理学、哲学」	1	28	教会史Ⅰ ★	2	2,3	必修
				教会史Ⅱ ★	2	2,3	必修
教会史Ⅲ ★				2	3	必修	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8	28	教会史Ⅳ ★	2	3	必修	
			教会史Ⅴ ★	2	3	必修	
			宗教史Ⅰ ★	2	2,3	必修	
			宗教史Ⅱ ★*1	2	3	必修	
教育の基礎的理解に関する科目	10	28	組織神学Ⅰ ☆	4	2,3	必修	
			組織神学Ⅱ	4	3	必修	
			組織神学Ⅲ	4	4	必修	
			宗教科教授法A ■	4	2,3,4	必修	
			宗教科教授法B ■	4	2,3,4	必修	
			教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2	2,3	必修	
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	2	1,3	必修				
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	2	2,3	必修				
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	2	3	必修				
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	2	4	必修				
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)							
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	28	教育課程・特別活動論*2	2	3	必修	
			道徳の理論及び指導法	2	3	必修	
			教育の方法及び技術	2	4	必修	
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	2	4	必修	
			生徒指導の理論及び方法	2	3	必修	
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	2	3	必修	
			総合的な学習の時間の指導法	2	3	必修	
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	2	3	必修				
教育実践に関する科目	5	2	教育実習Ⅰ	5	4	必修	
			教職実践演習(中・高)*3	2	4	必修	

◇高等学校教諭 1種免許状

教育職員免許法施行規則に定める科目区分			最低修得単位数	本学における適用科目及び単位数	配当学年	免許状取得上の履修方法	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	宗教学	1	旧約聖書神学Ⅰ ☆	2	2,3	必修
				旧約聖書神学Ⅱ ☆	2	2,3	必修
				旧約聖書神学Ⅲ	2	4	必修
				旧約聖書積義	4	4	必修
				新約聖書神学Ⅰ ☆	2	2,3	必修
				新約聖書神学Ⅱ ☆	2	2,3	必修
				新約聖書神学Ⅲ	2	4	必修
	「教理学、哲学」	1	組織神学Ⅰ ☆	4	2,3	必修	
			組織神学Ⅱ	4	3	必修	
			組織神学Ⅲ	4	4	必修	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		4	宗教科教授法A ■	4	2,3,4	選択必修	
			宗教科教授法B ■	4	2,3,4	選択必修	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育基礎論 ▲	2	2,3	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職概論 ▲	2	1,3	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育制度論 ▲	2	2,3	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			心理発達と教育	2	3	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育概論	2	4	必修
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	特別活動の指導法		8	教育課程・特別活動論*2	2	3	必修
	教育の方法及び技術			教育の方法及び情報技術	2	4	必修
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法						
	生徒指導の理論及び方法			生徒・進路指導論	2	3	必修
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
	総合的な探究の時間の指導法			教育相談・総合的な学習の時間の指導法	2	3	必修
教育実践に関する科目	教育実習		3	教育実習Ⅰ	5	4	選択必修
				教育実習Ⅱ	3	4	選択必修
	教職実践演習		2	教職実践演習(中・高) *3	2	4	必修

② 2022 年度の入学生・編入学生・転入学生

◇中学校教諭 1 種免許状・高等学校教諭 1 種免許状

教育職員免許法施行規則に定める科目区分			最低修得単位数		本学における適用科目及び単位数		配当学年	免許状取得上の履修方法	
			中 1 種	高 1 種				中 1 種	高 1 種
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	宗教学	1	1	旧約聖書神学Ⅰ ☆ 旧約聖書神学Ⅱ ☆ 旧約聖書神学Ⅲ 旧約聖書積義 新約聖書神学Ⅰ ☆ 新約聖書神学Ⅱ ☆ 新約聖書神学Ⅲ 新約聖書積義	2 2 2 4 2 2 2 4	2,3 2,3 4 4 2,3 2,3 4 4	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修
		宗教史	1	1	教会史Ⅰ ★ 教会史Ⅱ ★ 教会史Ⅲ ★ 教会史Ⅳ ★ 教会史Ⅴ ★ 宗教史Ⅰ ★ 宗教史Ⅱ ★*1	2 2 2 2 2 2 2	2,3 2,3 3 3 3 2,3 3	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修
	「教理学、哲学」	1	1	組織神学Ⅰ ☆ 組織神学Ⅱ 組織神学Ⅲ	4 4 4	2,3 3 4	必修 必修 必修	必修 必修 必修	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8	4	宗教科教授法 A ■ 宗教科教授法 B ■	4 4	2,3,4 2,3,4	必修 必修	選択必修 選択必修	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	教育基礎論 ▲	2	2,3	必修	必修	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職概論 ▲	2	1,3	必修	必修	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育制度論 ▲	2	2,3	必修	必修	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			心理発達と教育	2	3	必修	必修	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育概論	2	4	必修	必修	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）								
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	特別活動の指導法	10	8	教育課程・特別活動論*2	2	3	必修	必修	
	道徳の理論及び指導法			道徳指導法	2	3	必修	—	
	教育の方法及び技術			教育の方法と情報技術	2	4	必修	必修	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法								
	生徒指導の理論及び方法			生徒・進路指導論	2	3	必修	必修	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法								
	総合的な学習の時間の指導法			教育相談・総合的な学習の時間の指導法	2	3	必修	必修	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法								
教育実践に関する科目	教育実習	5	3	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	5 3	4 4	必修 —	選択必修 選択必修	
	教職実践演習	2	2	教職実践演習(中・高)*3	2	4	必修	必修	

◆「教科及び教職に関する科目」注意事項

◇教育実習予備登録の時点で修得済みであるべき科目・単位について

教育実習予備登録の時点で修得済みであるべき科目・単位は以下の通りです。優先的に履修し、単位を修得するようにしてください。

次の12単位	次のうち2科目4単位	次のいずれか4単位	次のうち2科目4単位
☆旧約聖書神学Ⅰ	★教会史Ⅰ	■宗教科教授法A	▲教職概論
☆旧約聖書神学Ⅱ	★教会史Ⅱ	■宗教科教授法B	▲教育基礎論
☆新約聖書神学Ⅰ	★教会史Ⅲ		▲教育制度論
☆新約聖書神学Ⅱ	★教会史Ⅳ		
☆組織神学Ⅰ	★教会史Ⅴ		
	★宗教史Ⅰ		
	★宗教史Ⅱ		

*1「宗教史Ⅱ」について

「宗教史Ⅱ」は、学部の卒業要件上は選択科目ですが、免許状取得上は必修科目です。免許状取得希望者は、必ず履修・修得してください。

*2「教育課程・特別活動論」について

「教育課程・特別活動論」には教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」の内容を含むものとします。

*3「教職実践演習（中・高）」について

- (1) この科目の履修にあたっては、教職課程履修1年目から「履修カルテ」の作成が求められます。履修カルテは、免許状の取得に必要な科目の修得状況のほか、教職課程履修上の課題や課題達成状況等を自分で記入する冊子です。詳細は「教職課程登録票」を提出した学生に案内します。
- (2) この科目は、教育実習を終えた学生を対象としていますので、原則として「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」と並行して履修登録を行ってください。基本的には、1年次入学生は学部4年時、3年次編入学生・転入学生は大学院1年時に履修することになります。

B. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数		本学における適用科目及び単位数	配当学年	免許状取得上の履修方法	
	中1種	高1種			中1種	高1種
日本国憲法	2	2	法と人権2 日本国憲法 2	1,2	必修	必修
体育	2	2	体育Ⅰ 2	1,2	選択必修	選択必修
			体育Ⅱ 2	1,2	選択必修	選択必修
外国語コミュニケーション	2	2	英語実践Ⅰ 1	2	選択必修	選択必修
			英語実践Ⅱ 1	2	選択必修	選択必修
			ドイツ語ⅠB（コミュニケーション） 2	2	選択必修	選択必修
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	2	情報基礎 2	1	必修	必修

7) 教職課程履修手続略表

日程等の詳細は掲示に注意すること

◆教務課での手続関係 ☆介護等体験関係 ★教育実習関係

1年次入学生	G 1	G 2	G 3	G 4	G 4/M 2
2年次編入・ 転入学生		G 2	G 3	G 4	G 4/M 2
3年次編入・ 転入学生		G 3	G 4	M 1	M 2
4年次 転入学生		G 4	M 1	M 2	M 2
4月		◆教職課程 オリエンテーション (編入・転入学生のみ) ◆教職課程登録 (編入・転入学生のみ)	★教育実習予備登録 (担当教員との面接) ☆介護等体験 オリエンテーション ☆介護等体験諸費用 納入 ☆介護等体験のため の「特別講義」	★教育実習事前指導 ★教育実習費納入	
5月				★教育実習開始	
6月			☆介護等体験詳細 決定		
7月	◆教職課程 オリエンテーション		☆介護等体験開始		
8月					
9月					◆教育職員免許状 大学一括申請申込
10月	◆教職課程登録		★教育実習校決定		◆大学一括申請 「教育職員免許状授与 申請書 宣誓書」提出 ◆大学一括申請 手数料納入
11月					
12月				★教育実習事後指導	
1月					
2月					
3月					◆免許状交付

* 神学研修志望から伝道献身志望へ変更した場合は、この限りではありません。

8) 介護等体験

1997年6月18日、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許状の特例等に関する法律（介護等体験法）」が公布されました。これは、小学校教諭及び中学校教諭の教育職員免許状を取得する者に対し、特別支援学校や社会福祉施設において7日間の介護等の体験を義務づけるものです。

① 体験時期

- 1年次入学生及び2年次編入・転入学生は、3年時に体験を行います。
- 3年次編入・転入学生は、4年時に体験を行います。

* 神学研修志望から伝道献身志望へ変更した場合は、この限りではありません。

② 事前指導

介護等体験のための「オリエンテーション」及び「特別講義」に必ず出席してください。詳細は、前年度の1月下旬に掲示にてお知らせしますので、見落としのないようにしてください。

注:これらに出席しないと当該年度の介護等体験へ行くことはできません。

③ テキスト及び諸費用

テキスト及び諸費用は以下の通りです。テキストは学校が一括して注文し、介護等体験予定者に配付しますので、自分で購入する場合や、既に持っていてテキストを購入する必要がない場合は、必ず事前に申し出てください。なお、テキストのタイトル・版・価格が変更になることもあります。最終的なテキストについては、前年度の1月下旬に掲示しますので、ご確認ください。原則として、体験年度に入手可能な最新のものを使用します。テキスト代金を含む最終的な諸費用・納入方法については、オリエンテーション時にお知らせします。

◇テキスト

『介護等体験ガイドブック 新フィリア 改訂版』

全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著、ジアース教育新社、2025年12月発行
『第6版 よくわかる社会福祉施設』

増田雅暢 執筆代表、社会福祉法人 全国社会福祉協議会、2024年6月発行

◇諸費用

介護等体験費用 11,000円 (本年度 予定額)

学研災付帯賠償責任保険 Bコース 210円 (前年度 参考額)

* 介護等体験やオリエンテーションのための交通費・細菌検査等の必要経費は、自己負担です。

④ 申込手続及び注意点

介護等体験は、大学が東京都社会福祉協議会及び東京都教育委員会を通して申し込み、そのうえで介護等体験先や日程が決定されます。決定通知が届き次第(例年6月中旬頃)、掲示やメールボックスを通して連絡します。決定後の辞退・変更は原則として不可能です。やむを得ない事情が生じた場合は、必ず教務課に申し出てください。

⑤ 健康管理

- 体験年度の4月～5月頃には、必ず健康診断を受診してください。体験先の施設によっては、健康診断書や細菌検査結果書の提出を求められる場合があります。
- 介護等体験前にはインフルエンザの予防接種を受ける等、感染症対策をして、介護等体験を欠席したり、体験先に風邪や感染症を持ち込んだりしないよう留意してください。

⑥ 介護等体験証明書【重要】

介護等体験終了後、介護等体験先の施設長・校長より証明書が発行されます。教育職員免許状を取得するまで、大切に保管してください。証明書は、再発行が不可能ですので、紛失した場合、再度介護等体験を行わなくてはならない可能性があります。

⑦ 公欠について

介護等体験による授業欠席は公欠になります。教職課程履修者用の「公欠願い」を提出してください。しかし、公欠は休んだ授業の補填を約束するものではありません。授業を一定期間欠席することによる遅れは、自らが補う必要があります。

介護等体験にあたっては、大学が東京都教育委員会や東京都社会福祉協議会に、各学期の授業最終週や夏期伝道実習期間を除いた体験期間の設定を依頼します。授業最終週以外に試験が実施される場合には、教務課に報告・相談に来てください。

9) 教育実習予備登録

① 登録時期

- 1年次入学生及び2年次編入・転入学生は、3年時の4月に登録手続きをします。
 - 3年次編入・転入学生は、4年時の4月に登録手続きをします。
- *神学研修志望から伝道献身志望へ変更した場合は、この限りではありません。

② 修得済みであるべき科目・単位

本学では、以下の通り、教育実習予備登録の時点で修得済みであるべき科目・単位を定めています。前項①登録時期までに単位を修得するよう、優先的に履修してください。

次の12単位	次のうち2科目4単位	いずれか4単位	次のうち2科目4単位
☆旧約聖書神学Ⅰ	★教会史Ⅰ	■宗教科教授法A	▲教職概論
☆旧約聖書神学Ⅱ	★教会史Ⅱ	■宗教科教授法B	▲教育基礎論
☆新約聖書神学Ⅰ	★教会史Ⅲ		▲教育制度論
☆新約聖書神学Ⅱ	★教会史Ⅳ		
☆組織神学Ⅰ	★教会史Ⅴ		
	★宗教史Ⅰ		
	★宗教史Ⅱ		

③ 手続き

教育実習予備登録者は、実習前年3～4月に、次のような手続きを行います。

- (1) 教務課を通じて、教育実習担当教員との面接の予約をする。教務課から必要書類を受け取る。
- (2) 教育実習担当教員による面接を受け、実習の許可を得る。
- (3) 「教育実習予備登録票」等を教務課に提出する。

実習依頼先から、来校による手続きや面接等を課されることもあります。そのような場合は、その指示に従うとともに、教務課にご一報ください。なお、教育実習のための面接等による授業欠席は公欠になりますので、教職課程履修者用の「公欠願い」を提出してください。

* 実習依頼先での予備面接・試験の段階で「不適格」と判断され、受諾されない場合があるので、油断しないこと。

* 実習先決定後は、実習は義務づけられ、取消はできない。予備登録の時点から実習終了まで、銘肝すること。

10) 教育実習

① 実習時期

- 1年次入学生及び2年次編入・転入学生は、4年時に実習をします。
- 3年次編入・転入学生は、大学院1年時に実習をします。

* 神学研修志望から伝道献身志望へ変更した場合は、この限りではありません。

教育実習は5～6月を中心に行われますが、実習校の事情により9～10月に行われることもあります。実習期間は3週間です。

なお、教育実習及びそのオリエンテーションによる授業欠席は公欠になります。教職課程履修者用の「公欠願い」を提出してください。しかし、公欠は休んだ授業の補填を約束するものではありません。授業を一定期間欠席することによる遅れは、自らが補う必要があります。特に、授業内で行われる試験に関してはご注意ください。

② 履修登録

教育実習に行く年度の4月に、次の通り履修登録をしてください。

希望する免許状校種	履修登録すべき科目及び単位数
中学校	教育実習Ⅰ（5単位）
高等学校	教育実習Ⅱ（3単位）
中学校及び高等学校	教育実習Ⅰ（5単位） ※教育実習Ⅱは登録不要。

③ 事前指導及び事後指導

教育実習は、事前指導及び事後指導に出席しないと単位が付与されません。必ず出席してください。詳細は掲示にてお知らせします。

④ 教育実習費

教育実習事前指導の際に、教育実習費（20,000円）についての案内をしますので、定められた期間中に経理課へ納入してください。

1 1) 教育職員免許状の申請

① 大学一括申請

- 「大学一括申請」とは、当該年度に免許状取得要件を満たす見込みのある学生について、東京都教育委員会に対し、大学等が免許状の申請を行うことを言います。大学一括申請対象学生は、例年9月下旬～10月に複数の手続きが必要となりますので、当該時期の掲示には特に注意してください。
- 大学一括申請の申請手数料は、免許状1件につき3,800円（本学手数料500円を含む。前年度参考額）です。最終的な金額や納入方法については、メールボックスを通してご案内します。
- 大学一括申請による免許状の交付日は、卒業・修了式の日です。

大学一括申請時期の目安

	1種免許状	専修免許状
1年次入学生 2年次編入・転入学生	学部4年時	大学院2年時
3年次編入・転入学生	—	大学院2年時

② 個人申請

「個人申請」とは、免許状申請者本人が居住地の都道府県教育委員会で申請を行い、教育職員免許状の交付を受けることを言います。他教科免許状を根拠として宗教科免許状を申請する場合や、適用法等の関係で大学一括申請対象者でない場合、個人申請となります。該当者には年度末に教務課から個別に連絡し、詳細を案内するよう努めますが、免許状取得要件が満たされ次第、教務課に申し出てください。

③ キリスト教学校でのアルバイトについて

学部1年次入学生や2年次編入・転入学生、他教科免許状取得済みの学生が、大学院修了を待たずに免許状（宗教）を取得した場合でも、キリスト教学校において聖書科の非常勤講師としてアルバイトをすることは、認めていません。非常勤講師として授業を担当することは、伝道者として赴任されてからの責務であるからです。

1 2) 大学院での教職課程

本学大学院では、2)「教育職員免許状の種類と基礎資格」に記載の通り、「中学校教諭専修免許状(宗教)」及び「高等学校教諭専修免許状(宗教)」を取得することができます。

本学の場合、1種免許状取得要件を満たし、かつ大学院に進学した学生は、大学院修了のための単位修得により、無理なく専修免許状取得要件も満たすことができるため、当該免許状の申請・取得を推奨しています。

① 科目等履修生としての登録

本学の教職課程において全ての単位を修得するには最短で3年間かかります。したがって多くの3年次編入・転入学生は、大学院1年時に、学部で取り終えられなかった1種免許状に係る科目の単位を「科目等履修生」として履修・修得することになります。大学院入学直後の基礎登録期間中に、忘れずに登録してください。

② 専修免許状取得要件

◇基礎資格

次のいずれかを満たしている(あるいは当該年度末に満たす予定である)こと。

- 前期課程に1年以上在学、30単位以上修得していること。
- 修士の学位を有すること。

◇単位修得要件等

次のすべてを満たしている(あるいは当該年度末に満たす予定である)こと。

- 東京神学大学大学院学則 第19条 別表に基づき、計24単位以上を修得していること。
*大学院の全ての科目が該当するわけではなく、また専攻によって異なるので注意してください。
- 1種免許状に係る科目・単位を修得していること。あるいは、1種免許状(宗教)を取得済みであること。
- 中学校教諭専修免許状取得希望者は、介護等体験を終えていること。
*介護等体験免除者はこの限りではありません。

◇東京神学大学大学院学則 第19条 別表(聖書神学専攻)

博士課程前期課程聖書神学専攻において、中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状を取得しようとする者は教育職員免許法施行規則に定める科目区分から計24単位以上を修得しなければならない。

免許法施行規則に定める科目区分		本学における適用科目及び単位数			
大 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	旧約聖書原典講読Ⅰ	4	教理史演習Ⅰ	4
		旧約聖書原典講読Ⅱ	4	教理史演習Ⅱ	4
		旧約聖書原典積義Ⅰ	4	教会史特講Ⅰ	4
		旧約聖書原典積義Ⅱ	4	教会史特講Ⅱ	4
		旧約聖書神学特講Ⅰ	4	教理史特講Ⅰ	4
		旧約聖書神学特講Ⅱ	4	教理史特講Ⅱ	4
		旧約聖書学特研Ⅰ	4	ラテン語Ⅰ	2
		旧約聖書学特研Ⅱ	4	ラテン語Ⅱ	2
		旧約聖書学演習Ⅰ	4	組織神学特講Ⅰ	4
		旧約聖書学演習Ⅱ	4	組織神学特講Ⅱ	4
		ヒブル語Ⅰ	4	組織神学特研Ⅰ	2
		ヒブル語Ⅱ	2	組織神学演習Ⅰ	4
		アラム語	4	組織神学演習Ⅱ	4
		シリア語	4	組織神学演習Ⅲ	4
		古代オリエント史Ⅰ	4	信条学	2
		古代オリエント史Ⅱ	4	キリスト教教育特講	4
		新約聖書学特講Ⅰ	4	キリスト教教育特研	4
		新約聖書学特講Ⅱ	4	実践神学演習	4
		新約聖書学演習	2	アジア伝道論演習	4
		新約聖書学特研Ⅰ	4	日本伝道論演習	4
新約聖書学特研Ⅱ	4	礼拝学演習	2		
新約聖書原典積義Ⅰ	4	説教学演習Ⅰ	2		
新約聖書原典積義Ⅱ	4	説教学演習Ⅱ	2		
修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ	2	説教学演習Ⅲ	2		
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ	2	牧会学演習	2		
修士論文指導演習 新約神学Ⅰ	2	総合特別講義	4		
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	2				

◇東京神学大学大学院学則 第 19 条 別表(組織神学専攻)

博士課程前期課程組織神学専攻において、中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状を取得しようとする者は教育職員免許法施行規則に定める科目区分から計 24 単位以上を修得しなければならない。

免許法施行規則に定める科目区分		本学における適用科目及び単位数			
大学が独自に設定する科目	教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	旧約聖書原典講読 I	4	教理史演習 I	4
		旧約聖書原典講読 II	4	教理史演習 II	4
		旧約聖書原典釈義 I	4	教会史特講 I	4
		旧約聖書原典釈義 II	4	教会史特講 II	4
		旧約聖書神学特講 I	4	教理史特講 I	4
		旧約聖書神学特講 II	4	教理史特講 II	4
		旧約聖書学特研 I	4	ラテン語 I	2
		旧約聖書学特研 II	4	ラテン語 II	2
		旧約聖書学演習 I	4	修士論文指導演習 歴史神学 I	2
		旧約聖書学演習 II	4	修士論文指導演習 歴史神学 II	2
		ヒブル語 I	4	組織神学特講 I	4
		ヒブル語 II	2	組織神学特講 II	4
		アラム語	4	組織神学特研 I	2
		シリア語	4	組織神学演習 I	4
		古代オリエント史 I	4	組織神学演習 II	4
		古代オリエント史 II	4	組織神学演習 III	4
		新約聖書学特講 I	4	信条学	2
		新約聖書学特講 II	4	修士論文指導演習 組織神学 I	2
		新約聖書学演習	2	修士論文指導演習 組織神学 II	2
		新約聖書学特研 I	4	キリスト教教育特講	4
		新約聖書学特研 II	4	キリスト教教育特研	4
		新約聖書原典釈義 I	4	実践神学演習	4
		新約聖書原典釈義 II	4	修士論文指導演習 実践神学 I	2
				修士論文指導演習 実践神学 II	2
				アジア伝道論演習	4
				日本伝道論演習	4
				礼拝学演習	2
		説教学演習 I	2		
		説教学演習 II	2		
		説教学演習 III	2		
		牧会学演習	2		
		総合特別講義	4		

【科目等履修生制度】

【科目等履修生制度】

本学の大学院生が、学部の開講科目を履修する場合は、科目等履修生として登録をする必要があります。

1. 目的

教職課程の単位を修得、もしくは教職課程以外の単位を修得するため

2. 在籍期間

1年以内（片学期のみの履修および更新も可能）

3. 履修可能科目

学部演習以外の学部開講科目（学部ハンドブックを参照）となります。ただし、正規課程（学部）の受講生がいない授業は開講されない場合があります。

4. 履修可能単位数

年間25単位が上限です。

5. 申込期間

前期：（前期分のみ、あるいは通期分とも出願できます）

基礎登録期間：4月 1日（水）～2日（木）15：30まで

補充登録期間：4月 8日（水）～14日（火）13：00まで

・なるべく基礎登録期間中に提出してください。

後期：（後期から新規に履修、もしくは後期のみ履修の場合）

補充登録期間：9月29日（火）～10月6日（火）13：00まで

6. 提出書類

履修を希望する方は、以下の書類を教務課に提出してください。

① 科目等履修願書

② 履修登録用紙（科目等履修生用）

- ・大学院本科生として在籍している場合は、審査料・受講料とも免除されます。
- ・教育職員免許状取得を目的とする方は、必ず教職課程の科目に履修登録してください。（本ハンドブック「教職課程の手引」参照。）

7. 単位付与時期

- ・前期：9月末
- ・後期：3月末

8. その他

- ・教授会の書類審査の結果を通知する際に、科目等履修生としての学籍番号が付与されますので、通知に記載の番号を確認してください。
- ・科目等履修生として受講している授業のレポート等の課題を提出する場合、表紙の「学年」には「科目等履修生」、「学籍番号」は科目等履修生としての学籍番号を記入してください。
- ・科目等履修生としての成績証明書等を申請する場合は、正規の学籍の証明書とは別に別途申請してください。
- ・科目等履修生としての学生証・身分証明書は発行されません。

【東京神学大学大学院学則】

2026年3月1日現在

2025年度中になされた改正の一部は
反映されていません。ご了承ください。

東京神学大学大学院学則

1953（昭和28）年3月31日設置認可

第1章 総則

第1条 本大学院は、学校教育法第99条に基づき、キリスト教神学の理論および応用を教授研究する神学研究科を置く。

第1条の2 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的および社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動の状況について、自ら点検および評価（以下「自己評価等」という。）を行うものとする。

2 自己評価等に関する規則は、別に定める。

第2条 本大学院神学研究科に、博士課程を設ける。

2 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

3 博士課程は、前期課程と後期課程に区分し、その前期課程は修士課程として取り扱う。

4 博士課程前期課程は、本大学あるいは他の大学神学部等における一般的、専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って専攻分野を研究し、精深な学識を授け、専攻分野における研究能力とともに、キリスト教神学に関する高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。それによって、福音主義教会やキリスト教学校等に、専ら教職として、高度の神学的知識をもって仕え、主体的に神学的考察と判断をすることのできる伝道者を養成することを目指す。

5 博士課程後期課程は、神学における国内外の学界へ学問的貢献ができる専門的学識を有し、高等教育機関において研究者また教育者として貢献し、教会や社会のあり方についての諸課題に深く取り組むことのできる人材を育成することを目指す。

第2章 礼拝および信仰的訓練

第3条 本大学院の学生は、所定の課程を修めるほか、信仰的訓練のために、日々礼拝あるいは祈祷会を守り、学校暦、教会暦による特定日に特別礼拝を守り、また随時修養会などに参加するものとする。

第4条 前条のほか、学生は各自所属教会において、忠実に教会生活をなし、伝道および教務に奉仕する義務を負う。また、夏期休暇その他随時教会において、教会実習を修了しなければならない。

第3章 研究科の組織、修業年限

第5条 神学研究科における博士課程には次の専攻を置く。

研究科名	前期課程	後期課程
神学研究科	聖書神学専攻	聖書神学専攻
	組織神学専攻	組織神学専攻

- 第6条 博士課程の標準修業年限は5年とし、前期課程2年、後期課程3年に区分する。
- 2 博士課程前期課程に4年を超えて在学することを認めない。
 - 3 博士課程後期課程に6年を超えて在学することを認めない。ただし、6年を超えて履修することを希望する場合には、長期履修学生としてこれを認めることができる。
 - 4 博士課程前期課程および後期課程それぞれに長期履修学生制度を設ける。長期履修学生制度については別に定める。

第4章 学年、学期、休日

- 第7条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 2 学年を次の2期に分け、前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。
ただし、各期の授業実施期間については、当該年度の学年暦に於いて別途定めるものとする。

第8条 授業を行わない日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 本学創立記念日（5月19日）
- (4) 夏期休業
- (5) 冬期休業
- (6) 春期休業

学長は、教授会または教務課主任との協議を経て、前各号の休業日を変更し、また臨時に休業の日を定めることができる。

第5章 授業科目および履修方法

第9条 博士課程前期課程聖書神学専攻における授業科目と単位は、次のとおりとする。

I 専攻科目

A 聖書神学科目

旧約聖書原典講読Ⅰ	4	旧約聖書原典講読Ⅱ	4	旧約聖書原典釈義Ⅰ	4
旧約聖書原典釈義Ⅱ	4	旧約聖書神学特講Ⅰ	4	旧約聖書神学特講Ⅱ	4
旧約聖書学特研Ⅰ	4	旧約聖書学特研Ⅱ	4	旧約聖書学演習Ⅰ	4
旧約聖書学演習Ⅱ	4	聖書考古学	4	ヒブル語Ⅰ	4
ヒブル語Ⅱ	2	アラム語	4	シリア語	4
アッカド語	4	古代オリエント史Ⅰ	4	古代オリエント史Ⅱ	4

新約聖書学特講 I	4	新約聖書学特講 II	4	新約聖書学演習	2
新約聖書学特研 I	4	新約聖書学特研 II	4	新約聖書原典積義 I	4
新約聖書原典積義 II	4				

B 修士論文指導演習

修士論文指導演習旧約神学 I	2	修士論文指導演習旧約神学 II	2
修士論文指導演習新約神学 I	2	修士論文指導演習新約神学 II	2

II 専攻外科目

A 組織神学科目

1 組織神学関係

組織神学特講 I	4	組織神学特講 II	4	組織神学特研 I	2
組織神学特研 II	4	組織神学演習 I	4	組織神学演習 II	4
組織神学演習 III	4	信条学	2		

2 歴史神学関係

教会史演習	4	教理史演習 I	4	教理史演習 II	4
教会史特講 I	4	教会史特講 II	4	教理史特講 I	4
教理史特講 II	4	英国教会史	2	ラテン語 I	2
ラテン語 II	2				

3 実践神学関係

宗教社会学演習	4	教会音楽	4	キリスト教教育特講	4
牧会心理学特講	4	牧会カウンセリング特研	2	キリスト教教育特研	4
実践神学演習	4	臨床牧会教育	4	牧会心理学	4

B 専攻間共同科目

共同演習	4	アジア伝道論演習	4	日本伝道論演習	4
------	---	----------	---	---------	---

2 博士課程前期課程聖書神学専攻における、長期履修学生が指導教授の下に履修すべき科目は、次のとおりとする。

修士論文指導演習聖書神学（長期） 0

第10条 博士課程前期課程組織神学専攻における授業科目と単位は、次のとおりとする。

I 専攻科目

A 組織神学科目

1 組織神学関係

組織神学特講 I	4	組織神学特講 II	4	組織神学特研 I	2
組織神学特研 II	4	組織神学演習 I	4	組織神学演習 II	4
組織神学演習 III	4	信条学	2		

2 歴史神学関係

教会史演習	4	教理史演習 I	4	教理史演習 II	4
教会史特講 I	4	教会史特講 II	4	教理史特講 I	4
教理史特講 II	4	英国教会史	2	ラテン語 I	2
ラテン語 II	2				

3 実践神学関係

宗教社会学演習	4	教会音楽	4	キリスト教教育特講	4
---------	---	------	---	-----------	---

教会心理学特講	4	教会カウンセリング特研	2	キリスト教教育特研	4
実践神学演習	4	臨床教会教育	4	教会心理学	4

B 修士論文指導演習

修士論文指導演習組織神学Ⅰ	2	修士論文指導演習組織神学Ⅱ	2
修士論文指導演習歴史神学Ⅰ	2	修士論文指導演習歴史神学Ⅱ	2
修士論文指導演習実践神学Ⅰ	2	修士論文指導演習実践神学Ⅱ	2

Ⅱ 専攻外科目

A 聖書神学科目

旧約聖書原典講読Ⅰ	4	旧約聖書原典講読Ⅱ	4	旧約聖書原典釈義Ⅰ	4
旧約聖書原典釈義Ⅱ	4	旧約聖書神学特講Ⅰ	4	旧約聖書神学特講Ⅱ	4
旧約聖書学特研Ⅰ	4	旧約聖書学特研Ⅱ	4	旧約聖書学演習Ⅰ	4
旧約聖書学演習Ⅱ	4	聖書考古学	4	ヒブル語Ⅰ	4
ヒブル語Ⅱ	2	アラム語	4	シリア語	4
アッカド語	4	古代オリエント史Ⅰ	4	古代オリエント史Ⅱ	4
新約聖書学特講Ⅰ	4	新約聖書学特講Ⅱ	4	新約聖書学演習	2
新約聖書学特研Ⅰ	4	新約聖書学特研Ⅱ	4	新約聖書原典釈義Ⅰ	4
新約聖書原典釈義Ⅱ	4				

B 専攻間共同科目

共同演習	4	アジア伝道論演習	4	日本伝道論演習	4
------	---	----------	---	---------	---

2 博士課程前期課程組織神学専攻における、長期履修学生が指導教授の下に履修すべき科目は、次のとおりとする。

修士論文指導演習組織神学（長期） 0

第11条 博士課程前期課程修了年度後期において実践神学研修課程を課する。

その授業科目と単位は次のとおりとする。

礼拝学演習	2	説教学演習Ⅰ	2	説教学演習Ⅱ	2
説教学演習Ⅲ	2	（うち4単位は1年次に履修）			
教会学演習	2	総合特別講義	4		

第12条 博士課程前期課程においては、指導教授の指導下に専攻科目単位20単位（必修・修士論文指導演習4単位を含む）、専攻外科目単位10単位、実践神学研修課程14単位、合計44単位以上を履修しなければならない。ただし、前期課程入学前に既に教職である者は、専攻科目単位20単位、専攻外科目単位10単位、合計30単位以上を履修しなければならない。

2 専攻間共同科目の単位は、第1項において専攻外科目から履修しなければならないと定められた10単位のうちに4単位を越えて算入することはできない。

第13条 博士課程後期課程聖書神学専攻における授業科目と単位は、次のとおりとする。

旧約聖書神学特殊研究	4	旧約聖書文学特殊研究	4	旧約聖書原典特殊研究	4
聖書語学特殊研究	4	聖書考古学特殊研究	4	新約聖書神学特殊研究	4
新約聖書原典特殊研究	4	聖書解釈学特殊研究	4	原始キリスト教特殊研究	4

2 博士課程後期課程聖書神学専攻外における授業科目と単位は次のとおりとする。

(1) 組織神学関係

教義学特殊研究 4 ｷﾘｽﾄ教倫理学特殊研究 4 弁証学特殊研究 4
組織神学特殊研究 4 現代神学特殊研究 4 組織神学共同演習 4

(2) 歴史神学関係

神学史特殊研究 4 宗教改革史特殊研究 4 日本宗教思想史特殊研究 4
教父学特殊研究 4

(3) 実践神学関係

ｷﾘｽﾄ教教化学特殊研究 4 ｷﾘｽﾄ教教育特殊研究 4

3 博士課程後期課程聖書神学専攻における指導教授の下に履修すべき科目は、次のとおりとする。

博士論文指導演習聖書神学 0

第14条 博士課程後期課程組織神学専攻における授業科目と単位は、次のとおりとする。

(1) 組織神学関係

教義学特殊研究 4 ｷﾘｽﾄ教倫理学特殊研究 4 弁証学特殊研究 4
組織神学特殊研究 4 現代神学特殊研究 4 組織神学共同演習 4

(2) 歴史神学関係

神学史特殊研究 4 宗教改革史特殊研究 4 日本宗教思想史特殊研究 4
教父学特殊研究 4

(3) 実践神学関係

ｷﾘｽﾄ教教化学特殊研究 4 ｷﾘｽﾄ教教育特殊研究 4

2 博士課程後期課程組織神学専攻外における授業科目と単位は次のとおりとする。

旧約聖書神学特殊研究 4 旧約聖書文学特殊研究 4 旧約聖書原典特殊研究 4
聖書語学特殊研究 4 聖書考古学特殊研究 4 新約聖書神学特殊研究 4
新約聖書原典特殊研究 4 聖書解釈学特殊研究 4 原始ｷﾘｽﾄ教特殊研究 4

3 博士課程後期課程組織神学専攻における指導教授の下に履修すべき科目は、次のとおりとする。

博士論文指導演習組織神学 0

第15条 後期課程において履修すべき授業科目については、指導教授の指導の下に専攻科目12単位、専攻外科目4単位、合計16単位以上を履修しなければならない。

博士論文指導演習は、毎年登録し、履修しなければならない。

第16条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第2項の方法を利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパーソナルコンピュータその他双方向の通信手段によって行う。

4 前項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

第16条の2 授業科目の単位数は、講義・演習については毎週1時間各15週をもって1単位とする。実習については毎週2時間15週をもって1単位とする。

2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

- 3 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別な必要があると認められる場合は、研究科委員会の議を経て、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

第17条 大学院研究科委員会が、教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院とあらかじめ協議の上、当該他大学の大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目の単位は10単位をこえない範囲で、本学において履修したものとみなすことができる。

第18条 本大学院において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、次のとおりとする。

研究科名	専攻名	免許状の種類及び教科
神学研究科	聖書神学専攻	中学校教諭専修免許状（宗教）
	組織神学専攻	高等学校教諭専修免許状（宗教）

第19条 本大学院において中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に従い、所定の科目及び単位を修得しなければならない。本学における適用科目及び単位数、履修方法は別表に定める。

第6章 課程修了の認定、学位の授与

第20条 博士課程前期課程修了の要件は、大学院前期課程に2年以上在学し、所定の単位を修得し指導教授の下に必要な研究指導をうけ、修士論文を提出し、その審査に合格することとする。

- 2 本大学院博士課程後期課程修了の要件は、大学院後期課程に3年以上在学し、指導教授の下に本則第15条に定める単位を修得し、さらに必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、論文提出資格認定試験、学術小論文を学術誌に発表し、博士論文の審査に合格することとする。

- 3 前2項の論文の審査および第2項の諸資格試験の方法については、本大学院内規にこれを定める。

第21条 第20条1項を修了した者には、修士（神学）の学位を授与する。

- 2 第20条2項を修了した者には、博士（神学）の学位を授与する。

第22条 本大学院は、別に定める学位規則に従って、博士課程を経ることなくして博士論文を提出し、本大学院の行う博士論文の審査と所定の試験に合格し、前条第2項に該当する者と同等以上の学力を有することを確認された者に博士（神学）の学位を授与する。

第7章 職員組織とその運営

第23条 本大学院研究科の授業及び研究指導を担当する教員は、大学院担当資格を有する本大学の教授、准教授、常勤講師、特任教授、特任准教授、特任常勤講師および助教をもってこれに充てる。大学院担当資格については別に定める。

- 2 教育研究上必要があるときは、授業を担当する教員に、非常勤講師をもって充てることができる。

第24条 本大学院に、研究科委員会を置く。

研究科委員会は、本学の教授、准教授をもって組織する。

- 2 本大学学長は、本大学院の学務を管掌し、研究科委員会を主宰し、また所属教職員を統督する。
- 3 研究科委員会は、それぞれの専攻に主任を置く。

第25条 研究科委員会は、次の事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 大学院担当教員の審査に関する事項
 (2) 学位審査および学位授与に関する事項
 (3) 学生の入学、課程の修了および卒業に関する事項

2 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、次の事項について、学長の求めに応じて意見を述べる。

- (1) 教育課程に関する事項
 (2) 学生の退学、転学、休学に関する事項
 (3) 学生の資格認定および身分に関する事項
 (4) 学生の賞罰に関する事項
 (5) その他研究科に関する事項

第26条 専攻主任は、次の事項を監督し、研究科委員会に諮る。

- (1) 専攻の教育課程に関する事項
 (2) 専攻の単位認定に関する事項
 (3) 博士課程後期課程の各認定試験ならびに博士論文審査に関する事項
 (4) 博士論文提出資格認定試験受験資格に関する事項
 (5) 博士課程後期課程入学志願者の推薦
 (6) 博士課程後期課程入学専攻替え志願者の推薦
 (7) 授業料の減免処置に関する調査と発議
 (8) その他専攻に関する事項

第8章 学生定員

第27条 学生の定員は、次のとおりとする。

専攻部門	博士課程前期課程		博士課程後期課程		合計 総定員
	入学定員	総定員	入学定員	総定員	
聖書神学専攻	10名	20名	2名	6名	26名
組織神学専攻	15名	30名	2名	6名	36名
合計	25名	50名	4名	12名	62名

第9章 入学、転学、休学、復学、退学

第28条 入学期は、学期始めとする。

第29条 本大学院に入学することのできる者は、福音主義のキリスト教会に属する者であることを要する。ただし、その他の者で特に入学を希望する場合は、教授会の認定により許可することができる。

第30条 博士課程前期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当しなければならない。

- (1) 本大学学部を卒業した者
- (2) 他の大学を卒業した者
- (3) 学校教育法第104条第1項第7号の規定により学士の学位を授与された者
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) その他本大学院において、本大学学部を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第31条 博士課程後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当しなければならない。

- (1) 本大学院において修士（神学）の学位を得た者
- (2) 他の大学院において修士（神学）の学位を得た者
- (3) 外国において修士（神学）またはこれに相当する学位を得た者
- (4) 文部科学大臣が指定した者で、本学の研究科委員会による個別の入学資格審査により、修士（神学）の学位を得た者と同等の学力を有すると認められた24歳以上の者

第32条 本大学院に入学を志願する者は、所定の手続きを行わなければならない。入学に関する手続きは別にこれを定める。

第33条 博士課程前期課程の入学志願者には、英語、ドイツ語のうち一つの試験、論文試験、面接を課し、専門科目に関する既往の成績を調査した上で、入学を許可する。ただし、聖書神学専攻を志願する者については、上記に加え、研究分野に関係ある語学試験を課すものとする。

第34条 博士課程後期課程の入学志願者は、英語、ドイツ語のうち一つの試験、修士論文の審査および面接をし、入学を許可する。

- 2 第31条第1項第4号により入学を志願する者については、英語、ドイツ語のうち一つの試験、学術論文等業績審査、面接を行う。

第35条 入学を許可された者は、保証人連署の保証書および住民票を提出し、入学金、授業料を指定期日までに納入しなければならない。

第36条 保証人は2名とし、そのうち1名は原則として東京都内または近県に居住していること。

- 2 本大学の専任教職員および本学学生は、保証人となることができない。
- 3 保証人は、その学生の在学中、身分異動（休学・復学・退学等）時、並びに緊急時に、当該学生と密接な連携を保って対応しなければならない。

第37条 他の大学院からその学長の許可を得て本大学院に転学を希望する者があるとき

は、欠員のある場合に限り、第33条あるいは34条に準ずる考査を経た上で、転学を許可することがある。

第38条 特別な事情により、他の大学院に転学しようとする者は、保証人連署の上、学長に願い出で許可を得なければならない。

第39条 疾病その他やむをえない事由により、満1カ月以上欠席しようとするときは、前期及び後期の始業週の金曜日迄に保証人連署をもって願い出で、許可を受け休学することができる。

(1) 申し出期間を過ぎて休学を願い出た者の、当該学期に納めた校納金は返還しない。

(2) 上記校納金を延納又は分納の願い出により完納していない時には、休学が認められても完納しなければならない。

(3) 前各号の者については第47条第5項は適用されない。

2 休学期間は1年を越えることができない。ただし、特別の事由のあるときは、あらかじめ許可を受け、さらに、1年以内に限り休学することができる。

3 休学し得る期間は、通算2カ年以内とする。2カ年を経過してなお復学または退学しない場合は除籍する。ただし、後期課程在学中の学生が在外研究のために休学する場合はこの限りではない。

4 休学期間は在学期間に算入しない。

5 休学者が復学しようとするときは、保証人連署をもって願い出で許可を受けなければならない。

本条に定める休学に関する規定は、長期履修学生には適用されない。

第40条 疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとする者は、保証人連署をもって願い出で、許可を受けなければならない。

第41条 疾病その他やむを得ない事由により退学した者が再入学を志願した場合には、教授会の議を経て、これを許可することがある。

第10章 特別聴講生 聴講生 委託生 特別研究生 内地留学生 継続教育科目受講生 科目等履修生

第42条 本大学院と単位互換制度の協定のある他大学院学生が、本大学院の授業科目の履修または研究指導を希望するときは、規定に従って、特別聴講生として許可することがある。

第43条 本大学院研究科の学科目のうち、その一部の選択履修を希望する者があるときは、その学力を考査し、欠員のある場合、1年を限り聴講を許可することがある。聴講科目の試験に合格したときは、その学科目につき履修証明書を発行する。

2 キリスト教会の教職であって、本学のあらかじめ指定する科目に、参加するものを継続教育科目受講生とする。

第44条 公共団体またはその他の機関の委託により、本大学院研究科の学科目のうちその一部の選択履修を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、その履修能力を認定し、これを委託生として入学許可することがある。選択科目の試験に

合格したときは、その科目につき履修証明書を発行する。

第45条 特別研究生または内地留学生は、別に定める規定に従い、修学を許可することがある。

- 2 科目等履修は、本学神学部神学科4年次に転入学した者に限り、研究科委員会による所定の書類審査のうえ、許可することがある。ただし、10単位を上限とし、修士論文指導演習および実践神学研修課程科目は履修することができない。

第11章 校納金その他

第46条 本学学生は、毎学期始め指定期日以内に授業料その他の校納金を納入し、受講単位の登録を完了しなければならない。

第47条 入学検定料、入学金、授業料、施設費は以下のとおりとする。

- (1) 入学検定料 26,000円
- (2) 入 学 金 290,000円
- (3) 授 業 料 540,000円
- (4) 施 設 費 240,000円

長期履修学生の授業料は、標準修業年限分の授業料総額に相当する額を長期履修期間に応じて納付する。ただし、教授会で特別に許可された場合に入学金または施設費が免除される。校納金の納期、特例等の詳細は、学生納付金に関する内規に定める。

2 特別聴講生、聴講生、委託生の選考審査料ならびに受講料は、以下のとおりとする。

- (1) 審査料 10,000円
- (2) 受講料 1単位につき20,000円

ただし、本大学院博士課程前期課程を修了した者または退学した者については以下のとおりとする。

- (1) 審査料 免除する。
- (2) 受講料 1単位につき12,000円

3 継続教育科目の受講料は1科目14,000円とする。

4 (削除)

5 休学者の在籍料は、1学期につき授業料の5分の1とする。ただし、長期履修学生には適用されない。

6 前各号の額は、社会事情に応じて、所定の手続きを経て増額または減額することができる。

7 第45条第2項による科目等履修については、審査料ならびに受講料を免除する。

第48条 正当な事由により前条にある入学検定料・入学金・施設費以外の校納金を指定期日以内に全額納入不可能の場合は、直ちに願い出て、分納の許可を得ることを要する。

2 既納の校納金は、別に定める場合を除き、原則として返還しない。

第49条 校納金の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しないとき、あるいは受講単位の登録ないし在籍に必要な手続きを怠るときは、別に定める規定によって除籍することができる。

第12章 賞 罰

第50条 他の学生の模範となるような業績のあった者は、これを賞することができる。

第51条 懲戒を要すると認められた者は、教授会の議を経て学長が譴責、停学または退学の処分を行うことができる。

第52条 次の各号に該当する者は、退学処分にすることができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第13章 研究指導機関、附属施設

第53条 本大学院は、その目的を達し、学生の研究指導のために、大学図書館を共用し協定により、隣接大学の図書館を利用することができる。

第54条 本大学院は、研究指導のために次の研究室をもうける。

- (1) 聖書神学研究室Ⅰ（旧約学）
- (2) 聖書神学研究室Ⅱ（新約学）
- (3) 歴史神学研究室
- (4) 組織神学研究室
- (5) 実践神学研究室

第55条 本大学院は、東京神学大学総合研究所を設置する。研究所の規定は別に定めるところによる。

第56条 本大学院は、学生の研究、信仰的訓練および共同生活のため、大学学生寮を共用する。

第57条 教職員、学生の保健厚生のために大学医務室を共用する。

第58条 本大学院の研究活動の学外延長として、公開講座等を設ける。

第59条 自由な研究と機関雑誌発行のために、東京神学大学神学会を設ける。
神学会の細則は、別に定めるところによる。

【第19条 別表（聖書神学専攻）】

博士課程前期課程聖書神学専攻において、中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状を取得しようとする者は教育職員免許法施行規則に定める科目区分から計24単位以上を修得しなければならない。

免許法施行規則に定める科目区分		本学における適用科目及び単位数			
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	旧約聖書原典講読Ⅰ	4	教理史演習Ⅰ	4
		旧約聖書原典講読Ⅱ	4	教理史演習Ⅱ	4
		旧約聖書原典釈義Ⅰ	4	教会史特講Ⅰ	4
		旧約聖書原典釈義Ⅱ	4	教会史特講Ⅱ	4
		旧約聖書神学特講Ⅰ	4	教理史特講Ⅰ	4
		旧約聖書神学特講Ⅱ	4	教理史特講Ⅱ	4
		旧約聖書学特研Ⅰ	4	ラテン語Ⅰ	2
		旧約聖書学特研Ⅱ	4	ラテン語Ⅱ	2
		旧約聖書学演習Ⅰ	4	組織神学特講Ⅰ	4
		旧約聖書学演習Ⅱ	4	組織神学特講Ⅱ	4
		ヒブル語Ⅰ	4	組織神学特研Ⅰ	2
		ヒブル語Ⅱ	2	組織神学演習Ⅰ	4
		アラム語	4	組織神学演習Ⅱ	4
		シリア語	4	組織神学演習Ⅲ	4
		古代オリエント史Ⅰ	4	信条学	2
		古代オリエント史Ⅱ	4	キリスト教教育特講	4
		新約聖書学特講Ⅰ	4	キリスト教教育特研	4
		新約聖書学特講Ⅱ	4	実践神学演習	4
		新約聖書学演習	2	アジア伝道論演習	4
		新約聖書学特研Ⅰ	4	日本伝道論演習	4
		新約聖書学特研Ⅱ	4	礼拝学演習	2
		新約聖書原典釈義Ⅰ	4	説教学演習Ⅰ	2
		新約聖書原典釈義Ⅱ	4	説教学演習Ⅱ	2
		修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ	2	説教学演習Ⅲ	2
		修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ	2	牧会学演習	2
		修士論文指導演習 新約神学Ⅰ	2	総合特別講義	4
		修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	2		

【第19条 別表（組織神学専攻）】

博士課程前期課程組織神学専攻において、中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状を取得しようとする者は教育職員免許法施行規則に定める科目区分から計24単位以上を修得しなければならない。

免許法施行規則に定める科目区分		本学における適用科目及び単位数			
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	旧約聖書原典講読Ⅰ	4	教理史演習Ⅰ	4
		旧約聖書原典講読Ⅱ	4	教理史演習Ⅱ	4
		旧約聖書原典釈義Ⅰ	4	教会史特講Ⅰ	4
		旧約聖書原典釈義Ⅱ	4	教会史特講Ⅱ	4
		旧約聖書神学特講Ⅰ	4	教理史特講Ⅰ	4
		旧約聖書神学特講Ⅱ	4	教理史特講Ⅱ	4
		旧約聖書学特研Ⅰ	4	ラテン語Ⅰ	2
		旧約聖書学特研Ⅱ	4	ラテン語Ⅱ	2
		旧約聖書学演習Ⅰ	4	修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ	2
		旧約聖書学演習Ⅱ	4	修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	2
		ヒブル語Ⅰ	4	組織神学特講Ⅰ	4
		ヒブル語Ⅱ	2	組織神学特講Ⅱ	4
		アラム語	4	組織神学特研Ⅰ	2
		シリア語	4	組織神学演習Ⅰ	4
		古代オリエント史Ⅰ	4	組織神学演習Ⅱ	4
		古代オリエント史Ⅱ	4	組織神学演習Ⅲ	4
		新約聖書学特講Ⅰ	4	信条学	2
		新約聖書学特講Ⅱ	4	修士論文指導演習 組織神学Ⅰ	2
		新約聖書学演習	2	修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	2
		新約聖書学特研Ⅰ	4	キリスト教教育特講	4
		新約聖書学特研Ⅱ	4	キリスト教教育特研	4
		新約聖書原典釈義Ⅰ	4	実践神学演習	4
		新約聖書原典釈義Ⅱ	4	修士論文指導演習 実践神学Ⅰ	2
				修士論文指導演習 実践神学Ⅱ	2
				アジア伝道論演習	4
				日本伝道論演習	4
				礼拝学演習	2
				説教学演習Ⅰ	2
				説教学演習Ⅱ	2
				説教学演習Ⅲ	2
		牧会学演習	2		
		総合特別講義	4		

附 則

- 1 この学則は、大学院設置の認可を受けた1953年3月31日から適用する。
- 2 博士課程に関する条項は、博士課程増設の認可を受けた1955年4月1日から適用する。
- 3 教科課程および履修方法に関する条項は、修士課程に関する限り全面的に改訂し、1969年4月1日から適用する。
- 4 この学則は、1977年4月1日から改正施行する。
- 5 この学則は、1979年4月1日から一部改正施行する。
- 6 この学則は、1980年4月1日から一部改正施行する。
- 7 この学則は、1981年4月1日から一部改正施行する。
- 8 この学則は、1982年4月1日から一部改正施行する。
- 9 この学則は、1983年4月1日から一部改正施行する。
- 10 この学則は、1984年4月1日から一部改正施行する。
- 11 この学則は、1985年4月1日から一部改正施行する。
- 12 この学則は、1986年4月1日から一部改正施行する。
- 13 この学則は、1987年4月1日から一部改正施行する。
- 14 この学則は、1988年4月1日から一部改正施行する。
- 15 この学則は、1989年4月1日から一部改正施行する。
- 16 この学則は、1990年4月1日から一部改正施行する。
- 17 この学則は、1991年4月1日から一部改正施行する。
- 18 この学則は、1992年3月31日改正施行し
 - (1) 第16条、第17条および第25条については、1991年7月1日に遡って適用する。
 - (2) 第9条、第12条、第33条、第41条および第42条については、1992年4月1日在籍者から適用する。
- 19 この学則は、1992年12月1日改正施行し
 - (1) 第9条B組織神学専攻の学科目の変更については、1992年4月1日在籍者に遡って適用する。
 - (2) 第9条A聖書神学専攻の学科目の変更については、1992年4月1日在籍者からこれを適用し、第41条校納金の変更については、1993年度入学者からこれを適用する。
- 20 この学則は、1993年6月1日、第41条の校納金について改正施行し1994年度入学者からこれを適用する。
- 21 この学則は、1994年5月31日第11章第41条の校納金について改正施行し、1995年度入学者からこれを適用する。
- 22 この学則は、1994年11月29日第5章第9条、第12条、第16条、第9章第22条、第24条、第26条、第29条、第30条、第10章標題、第37条、第11章第41条について改正施行し、1995年度からこれを適用する。
- 23 この学則は、1995年5月30日第41条の校納金について改正施行し1996年度入学者からこれを適用する。

- 24 この学則は、1995年11月28日第9条について改正施行し、1996年度からこれを適用する。
- 25 この学則は、1996年3月19日第1章に、第1条の2（自己評価等に関する項目）を新設し、1996年度からこれを実施する。
- 26 この学則は、1996年5月28日第11章第41条の授業料について改正施行し1997年度入学者からこれを適用する。
- 27 この学則は、1996年11月26日第11章第41条の入学検定料について改正施行し、1997年度受験者からこれを適用する。
- 28 この学則は、1997年5月27日第11章第41条の授業料および施設費について改正施行し、1998年度入学者からこれを適用する。
- 29 この学則は、1998年3月23日第5章授業科目および履修方法について下記条項を改正施行し、1998年度入学者からこれを適用する。
- (1) 第5章9条を削除し、9条、10条を新設する。
 - (2) 10条は11条に繰り下げる。
 - (3) 11条を削除する。
 - (4) 12条1・2項を12条とし、12条3項を改正した上で15条とする。
 - (5) 12条と15条の間に、13条、14条を新設する。
 - (6) 13条以下を16条とし、以下各条を繰り下げる。
- 30 この学則は、1998年5月25日第11章第41条の授業料および施設費について改正施行し、1999年度入学者からこれを適用する。
- 31 この学則は、1998年11月30日下記条項を改正し、1999年4月1日から実施する。
- (1) 第5章授業科目および履修方法について1998年度入学者からこれを適用する。
 - ① 第9条、10条の授業科目を次のとおり改正する。これを1999年度入学者から適用する。

	旧	内容	新
第9条I	旧約学部門演習	名称変更	修士論文指導演習旧約神学
	新約学部門演習	名称変更	修士論文指導演習新約神学
	聖書部門演習	名称変更	外典偽典講読
II	組織神学部門演習	削除	
	歴史神学部門演習	削除	
第10条I	組織神学部門演習	名称変更	修士論文指導演習組織神学
	歴史神学部門演習	名称変更	修士論文指導演習歴史神学
II	旧約学部門演習	削除	
	新約学部門演習	削除	
	聖書部門演習	名称変更	外典偽典講読

- ② 新16条を新設する。一年間の授業期間を定め、1999年度から実施する。
- ③ 旧19条に課程の修了と学位授与を合わせて定めていたが、新20条に課程の修了、新21条に学位の授与についてそれぞれ定めることとする。

④ 専攻主任についての項を新26条に定める。

(2) 第12条に必修・修士論文指導演習4単位を課し、1999年度4月入学者からこれを適用する。

32 この学則は、1999年5月31日第11章第47条の授業料および施設費について改正施行し、2000年度入学者からこれを適用する。

33 この学則は、1999年11月29日第11章第47条1項の一部を改正し、2000年4月1日から実施する。

34 この学則は、2000年5月29日第11章第47条の授業料および施設費について改正施行し、2001年度入学者からこれを適用する。

35 この学則は、2001年11月26日次のとおり改正し、2002年4月1日から施行、2002年度入学者から適用する。

(1) 第11章第47条の入学金

(2) 第11条、授業科目「礼拝学特講 2単位」に替えて「礼拝学演習 2単位」とする。なお、すでに在籍している者で「礼拝学特講 2単位」の履修を課されている者は「礼拝学演習 2単位」を修得してこれに替えるものとする。

36 この学則は、2002年(平成14年)11月25日に第11章第47条の施設費について改正施行し、2003年度(平成15年)入学者からこれを適用する。

37 この学則は、2003年(平成15年)5月26日に改正施行(第47条(3)授業料)し、2004年度(平成16年度)入学生から適用する。

38 この学則は、2004年(平成16年)5月24日に第47条第1項第2号入学金について改正施行し、2005年度(平成17年)入学生から適用する。

39 この学則は、2005年(平成17年)5月23日に、第47条第1項第4号施設費を改正施行し、2006年度(平成18年)入学生から適用する。

40 この学則は、2006年(平成18年)5月29日に、第47条第1項第3号授業料を改正施行し、2007年度(平成19年度)入学生から適用する。

41 この学則は、2006年(平成18年)11月27日に、第23条及び第24条を一部改正施行し、2007年(平成19年)4月1日から施行する。

42 この学則は、2007年(平成19年)5月28日に、第39条を改正し、同日から施行する。

43 この学則は、2007年(平成19年)5月28日に、第47条第1項第2号の入学金を改正施行し、2008年度(平成20年度)入学生から適用する。

44 この学則は、2008年(平成20年)5月26日に、第9条、第10条、第11条、第18条、および、第19条の一部を改正し、2009年(平成21年)4月1日より実施する。

45 この学則は、2008年(平成20年)5月26日に、第39条第3項の一部を改正し、同日から施行する。

46 この学則は、2008年(平成20年)5月26日に、第47条第1項第2号入学金、第3号授業料、および、第4号施設費を改正施行し、2009年度(平成21年度)入学生から適用する。

47 この学則は、2009年（平成21年）5月25日に、第47条第1項第4号施設費を改正施行し、2010年度（平成22年度）入学生から適用する。

48 この学則は、2009年（平成21年）11月30日に、第27条を改正施行し、2010年（平成22年）入学生から適用する。ただし、博士課程後期課程の総定員は、段階的に減少するため、2012年度に記載のとおりになる。また、各年度のごとの学生定員は別表のとおりになる。

別表（2010年度）

専攻部門	博士課程前期課程		博士課程後期課程		合計
	入学定員	総定員	入学定員	総定員	総定員
聖書神学専攻	15名	30名	2名	12名	42名
組織神学専攻	15名	30名	2名	12名	42名
合計	30名	60名	4名	24名	84名

別表（2011年度）

専攻部門	博士課程前期課程		博士課程後期課程		合計
	入学定員	総定員	入学定員	総定員	総定員
聖書神学専攻	15名	30名	2名	9名	39名
組織神学専攻	15名	30名	2名	9名	39名
合計	30名	60名	4名	18名	78名

49 この学則は、2010年（平成22年）11月29日に、第34条および第37条を改正し、2011年（平成23年）4月1日から適用する。

50 この学則は、2011年（平成23年）3月28日に、長期履修学生の定めなど、第6条第2項、第13条第3項、第14条第3項、第15条、第33条、第34条および第47条を改正し、2011年（平成23年）4月1日から適用する。

51 この学則は、2011年（平成23年）11月28日に、第47条第5項を改正し、2012年（平成24年）4月1日から適用する。

52 この学則は、2012年（平成24年）3月26日に、第18条および第19条を改正し、2012年度入学者から適用する。また、第39条を改正し、2012年（平成24年）4月1日から適用する。

53 この学則は、2012年（平成24年）5月21日に、第36条を改正し、2013年（平成25年）4月1日から適用する。

54 この学則は、2013年（平成25年）3月25日に、第42条、第47条第2項および第5項を改正し、2013年（平成25年）4月1日から適用する。

55 この学則は、2014年（平成26年）3月24日に、第13条および第14条を改正し、2014年（平成26年）4月1日から適用する。

56 この学則は、2014年（平成26年）12月1日に、第45条を改正し、同日から施行する。

57 この学則は、2015年（平成27年）5月25日に、第25条を改正し、2

- 015年（平成27年）4月1日から適用する。
- 58 この学則は、2017年（平成29年）3月27日に、第20条、第23条、第33条および第36条を改正し、2017年（平成29年）4月1日から適用する。
- 59 この学則は、2017年（平成29年）11月27日に、第9条、第10条、第13条、第14条および第19条別表を改正し、2018年（平成30年）4月1日から適用する。
- 60 この学則は、2018年（平成30年）3月26日に、第1条、第2条、第6条および第20条を改正し、2018年（平成30年）4月1日から適用する。
- 61 この学則は、2018年（平成30年）3月26日に、第19条、第30条、第31条および第34条を改正し、2019年度（平成31年度）の入学を志願する者から適用する。
- 62 この学則は、2018年（平成30年）11月26日に、第7条および第8条を改正し、2019年（平成31年）4月1日から適用する。
- 63 この学則は、2018年（平成30年）11月26日に、第18条、第19条、および第19条別表を改正し、2019年度（平成31年度）の入学者から適用する。
- 64 この学則は、2019年（令和元年）5月27日に、第45条および第47条を改正し、2020年（令和2年）4月1日から適用する。
- 65 この学則は、2020年（令和2年）3月30日に、第23条を改正し、2020年（令和2年）4月1日から適用する。
- 66 この学則は、2020年（令和2年）5月25日に、第16条を第16条の2とした上で第16条を新設し、2020年（令和2年）4月1日に遡って適用する。
- 67 この学則は、2020年（令和2年）11月30日に、第23条を改正し、2020年（令和2年）12月1日から適用する。
- 68 この学則は、2021年（令和3年）11月29日に、第30条および第36条を改正し、同日から適用する。
- 69 この学則は、2022年（令和4年）11月28日に、第27条を改正し、2024年度（令和6年度）入学者から施行する。これにより、2024年度（令和6年度）の定員は以下の別表のとおりとなり、2025年度（令和7年度）から第27条に記載のとおりとなる。

別表（2024年度）

専攻部門	博士課程前期課程		博士課程後期課程		合計 総定員
	入学定員	総定員	入学定員	総定員	
聖書神学専攻	10名	25名	2名	6名	31名
組織神学専攻	15名	30名	2名	6名	36名
合計	25名	55名	4名	12名	67名

- 70 この学則は、2022年（令和4年）11月28日に、第10条および第19条別表（組織神学専攻）を改正し、2023年（令和5年）4月1日から適用する。
- 71 この学則は、2022年（令和4年）11月28日に、第48条を改正し、同日から適用する。
- 72 この学則は、2023年（令和5年）11月27日に、第47条を改正し、同日から適用する。
- 73 この学則は、2025年（令和7年）3月24日に、第6条、第9条、第10条、第30条、第34条および第39条を改正し、2025年（令和7年）4月1日から適用する。
- 74 この学則は、2025年（令和7年）12月8日に、第9条、第10条、第19条別表（聖書神学専攻）および第19条別表（組織神学専攻）を改正し、2026年（令和8年）4月1日から適用する。

【レポート表紙】

大学

大学院

該当のものに○をする

科目名

担当教員

月

日

提出

学年

- 神学部神学科
- 大学院博士課程前期課程
- 大学院博士課程後期課程
- 科目等履修生
- 内地留学生
- 特別研究生

年

学籍番号

名前

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30

Tel: 0422-32-4185

Mail: tuts@tuts.ac.jp

URL: <https://www.tuts.ac.jp/>